

愛知県美術館年報

目次

はじめに(Forward)	07
主要記事(Events)	09
収集(New Aquisitions)	10
企画展(Temporary Exhibitions)	14
所蔵作品展(Permanent Collection)	33
貸出(Loan of Collection)	44
保存・修復(Conservation and Restoration)	47
教育普及(Educational Service)	49
調査・研究(Reserch)	51
貸館事業(ギャラリー)(Galleries for Rent)	54
管理・運営(Basic Concept/Major Objectives)	58
施設概要(Facilities and Equipement)	60
愛知県美術館組織図(Organization)	61
関係委員会名簿(Members of Commitees)	62
美術館の利用状況(Statistics of Visitors)	63
関係法規(Laws and Regulations)	64
愛知県美術館沿革(History)	70
利用案内(Information)	71

はじめに

愛知県美術館が再出発して三年目、1994年(平成6年)度の年報を発行いたします。

美術作品の収集は当館の最も重要な活動として、これまでと同様に意を注いできていますが、本年度は、20世紀前半の画家として国際的に高く評価されているばかりでなく、わが国においても幅広い愛好者層をもつパウル・クレーの《女の館》(1921年)、ジョアン・ミロの画業のなかでも特に注目すべき時期の《絵画》(1925年)、イタリア未来派のジャコーモ・バッラの《太陽の前を通過する水星》などを取得できたことは嬉しいことでした。これらの作品が加わることによって、海外20世紀前半のコレクションの部分がより充実してまいりました。国内では、北川民次のメキシコ時代の密度の高い作品《タスコ遠望》(1933年)を購入したほか、松下春雄《草原》(1928年)や杉本健吉の油彩画の大作《正倉院》(1976年)などをご寄贈いただけたことは、すでにかなりの量をほこる郷土ゆかりの作家の作品群に一段の厚みと光彩をそえることになります。ご寄贈下さった方々に厚く御礼を申し上げたいと思います。

本年度の企画展は「画業70年のあゆみ—杉本健吉展」から始まりました。名古屋に生まれ、以来この地で制作活動を続けてこられた画家の画業を本格的にあとづけたものです。次いで19世紀後半から現代までのヨーロッパとアメリカの絵画の展開を名作によってたどる「シカゴ美術館展—近代絵画の100年—」、20世紀のフランス絵画の巨匠「レジェ展」、中世末期のキリスト教美術に焦点をあてた「聖なるかたち 後期ゴシックの木彫と板絵」展、シベリア・シリーズ全点を含め初期から晩年までの多様な作品によって構成した「没後20年 香月泰男展」と続き、最後の「アンドリュー・ワイエス展」は、このアメリカの代表的な作家の全体像をかつてない充実したかたちで回顧したもの、当然ながら反響は大きく12万人を超える入館者を迎えるました。

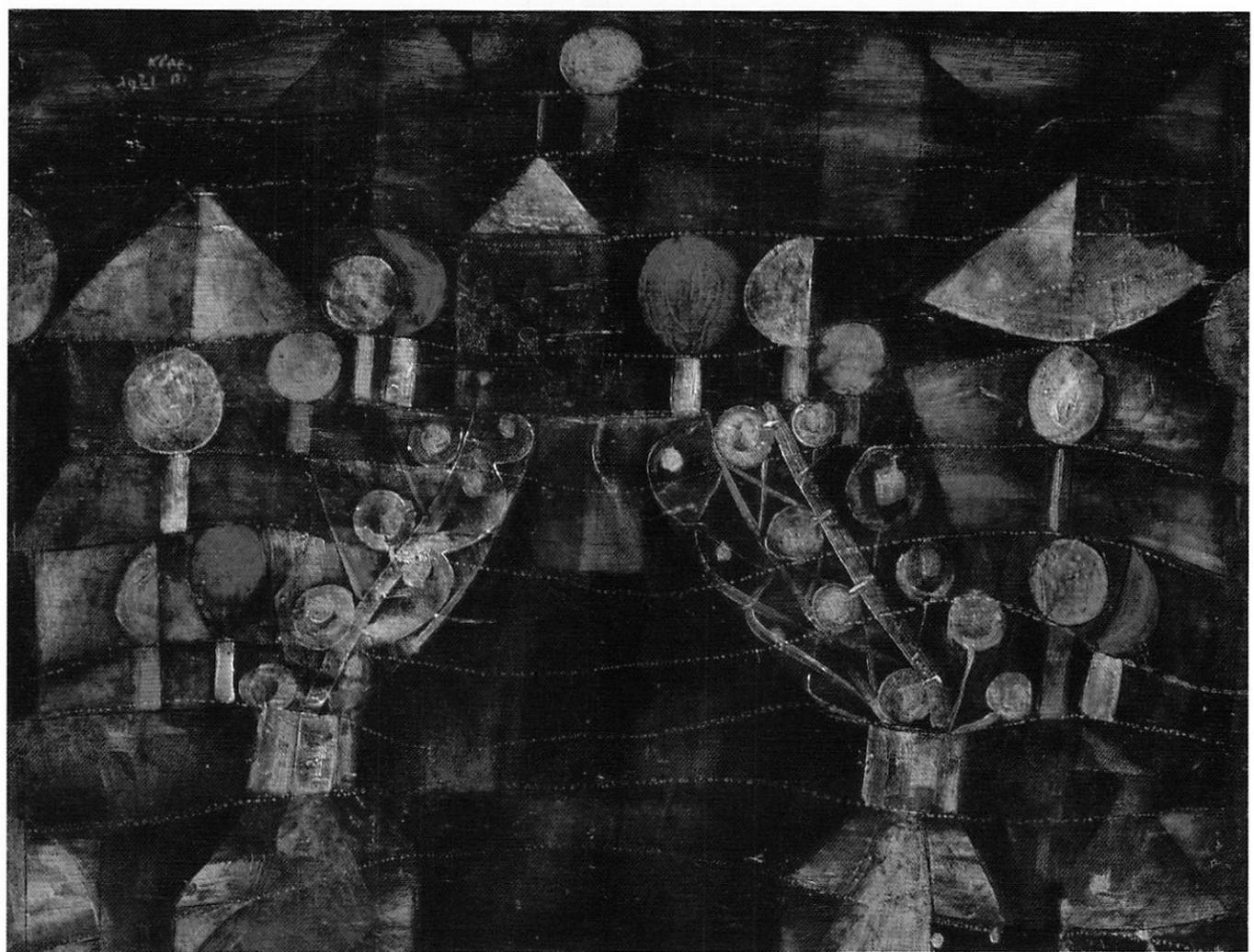
これらの企画展と関連させた講演会や連続講座の開催は、当館の重要な教育普及活動の一環ですが、新たな事業として移動美術展が加わりました。これは、なかなか名古屋まで出てきにくい地域の方々にも美術にじかに接して親しんでいただくことを願って、財団法人愛知県文化振興事業団および開催地の市町村と共同して美術館の所蔵作品を移動展示するものです。本年度はその第1回目を10月に南知多町で開催し、9日間の会期中に3,190人の方々にご覧いただきました。また、年度の途中からですが、10月に美術館友の会が発足したことを喜びたいと思います。会員の方々が美術を見る楽しみをさらに深められる機会となること、そして同時に美術館への理解の環を広げていただくことを大いに期待いたします。

8階ギャラリーでは、東京富士美術館主催の「大ナポレオン展」が7月に、また国民体育大会のスポーツ芸術主催事業として10月から11月にかけて「からくり夢工房」展が開催され、それぞれ多数の入館者があったこと、また利用率は昨年同様に各展示室とも年間100%、多数のお申し込みをいただき調整に苦慮し、やむを得ずお断りしなければならなかったところもあることを記しておきます。

最後に、本年度においても実に多くの方々や関係機関のご協力とご支援をいただきました。ここに感謝の意を表しますとともに、今後とも美術館の活動へのより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1995年12月

愛知県美術館長
浅野 徹



パウル・クレー 《女の館》 1921年、油彩・厚紙

1994年	5月14日	企画展「画業70年のあゆみ—杉本健吉展」開催 (会期: 5月14日～6月2日) 所蔵作品展第I期開催 (会期: 3月18日～6月2日)
	5月18日	1994年度第1回美術品収集委員会開催
	26日	1994年度美術館運営会議開催
	6月10日	企画展「シカゴ美術館展—近代絵画の100年—」開催 (会期: 6月10日～7月24日) 所蔵作品展第II期開催 (会期: 6月10日～9月18日) 所蔵作品展テーマ展示開催 (会期: 6月10日～7月31日)
	7月11日	種蒔実施(11日～12日企画保管庫、修復室、撮影室、審査保管室)
	21日	1994年度第1回美術館ギャラリー運営会議開催
	8月5日	企画展「レジエ展」開催 (会期: 8月5日～9月11日)
	9月17日	美術館友の会設立発起人会開催
	23日	企画展「聖なるかたち:後期ゴシックの木彫と板絵 アーヘン市立ズエルモント＝ルートヴィヒ美術館所蔵」開催 (会期: 9月23日～11月3日) 所蔵作品展第III期開催 (会期: 9月23日～11月13日)
	10月1日	美術館友の会設立
	7日	1994年度第2回美術品収集委員会開催
	8日	移動美術展「20世紀の美術」開催 (会期: 10月8日～16日 南知多町総合体育馆サブアーナ)
	22日	美術館友の会鑑賞会(聖なるかたち展)開催
	11月18日	企画展「没後20年 香月泰男展」開催 (会期: 11月18日～1995年1月16日) 所蔵作品展第IV期開催 (会期: 11月18日～1995年4月2日) テーマ展示「エルンストの挿絵本と版画」開催 (会期: 11月18日～1995年1月22日) テーマ展示「中西夏之一〈山頂の石蹴り〉へー」開催 (会期: 1995年2月3日～4月2日)
1995年	1月12日	美術館友の会理事会及び香月泰男展鑑賞会開催
	19日	1994年度第2回美術館ギャラリー運営会議開催
	2月3日	企画展「アンドリュー・ワイエス展—アメリカの郷愁 心の風景を描く」開催 (会期: 1995年2月3日～4月2日)
	4日	美術館友の会鑑賞会(アンドリュー・ワイエス展)開催
	13日	1994年度第3回美術品収集委員会開催



所蔵作品展

収集 New Acquisitions

本年度は、下記の収集方針に基づき、25点を購入し、5点の寄贈を受けた。

収集方針

- (1)20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- (2)現在を刻印するにふさわしい作品
- (3)愛知県としての位置をふんだんに特色あるコレクションを形成する作品
- (4)上記の作品・作家を理解する上で役立つ資料

美術品等収集状況

1995.3.31現在

	前年度までの収集			本年度の収集			総計		
	愛知県文化会館 美術館の収集	新美術館準備の ための収集	開館後の収集	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計
<国内>									
日本画	149	45	0	0	0	0	125	69	194
洋画	378	59	4	9	3	12	371	82	453
水彩・素描	309	134	5	6	0	6	375	79	454
立体	23	38	8	3	0	3	68	4	72
版画	101	207	6	0	0	0	277	37	314
資料	4	1	0	0	1	1	0	6	6
工芸その他	70	—	—	—	—	—	39	31	70
小計	1,034	484	23	18	4	22	1,255	308	1,563
<海外>									
絵画	15	24	3	2	0	2	40	4	44
水彩・素描	0	4	0	3	0	3	7	0	7
立体	6	13	2	1	0	1	20	2	22
版画	1	65	2	1	0	1	69	0	69
資料	0	1	0	0	1	1	1	1	2
小計	22	107	7	7	1	8	137	7	144
合計	1,056	591	30	25	5	30	1,392	315	1,707
藤井達吉 コレクション	1,460	—	—	—	—	—	—	1,460	1,460
総計	2,516	591	30	25	5	30	1,392	1,775	3,167

注記：愛知県文化会館美術館の収集は1987年度まで行われた。新美術館準備のための収集は、愛知県新文化会館建設事務局及び文化振興局において1988年4月から1992年10月30日の開館まで行われた。開館後の収集は、1993年度の収集である。

なお、藤井達吉コレクションとは、旧美術館開館時(1955年)に藤井達吉氏により寄贈された同氏の作品及び同氏が収集した絵画・工芸などの資料1,460点を指す。

■国内作家

[洋画]

1

稻葉桂 1937-

土にかえるもの 65-1

1965年 油彩・みがき砂、絹布・カシュー下地 216×138cm

第20回行動美術協会展

購入 94-JO-001

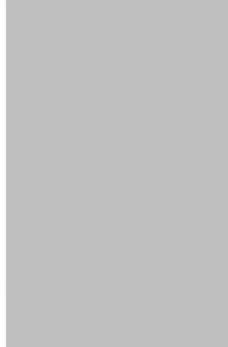
INABA, Kei

Returning to Earth 65-1

1965 oil and sand on Cashew grounded cotton 216×138cm

20th Kodo-ten

94-JO-001



2

北川民次 1894-1989

タスコ遠望

1933年 油彩、板 61×45.7cm

右下に署名、年記

購入 94-JO-002

KITAGAWA, Tamiji

View from Tasco

1933 oil on board 61×45.7cm

signed and dated lower right

94-JO-002



3

国吉康雄 1889-1953

帽子の女

1920年頃 油彩、麻布 67×56cm

右下に署名

購入 94-JO-003

KUNIYOSHI, Yasuo

Woman with Hat

c.1920 oil on canvas 67×56cm

signed lower right

94-JO-003



4

杉本健吉 1905-

正倉院

1976年 油彩、麻布 116.2×90.8cm

右下に署名

杉本健吉展（愛知県美術館、1994年）

清水神清證寺寄贈 94-JO-004

SUGIMOTO, Kenkichi

Shoso-in

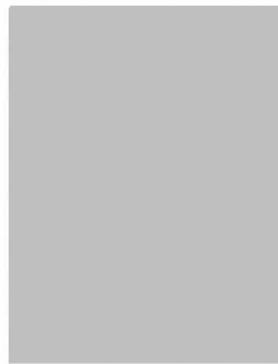
1976 oil on canvas 116.2×90.8cm

signed lower right

One-man show, APMA, 1994

Gift of Kiyoshokojin-Seichoji Temple

94-JO-004



5

野見山暁治 1920-

人（男）

1954年頃 油彩、麻布 80.7×59.7cm

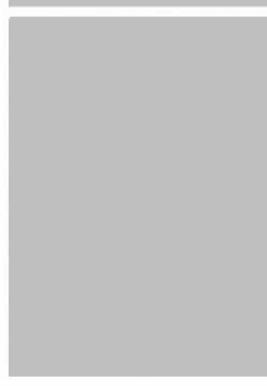
購入 94-JO-005

NOMIYAMA, Gyoji

Man

c.1954 oil on canvas 80.7×59.7cm

94-JO-005



6

野見山暁治 1920-

伝承のかたち

1988年 油彩、麻布 350×121cm

右下に署名、年記

スペース・コンセプション展(1991年、福岡市美術館)

購入 94-JO-006

NOMIYAMA, Gyoji

Figure of Legend

1988 oil on canvas 350×121cm

signed and dated lower right

Group Exhibition, Fukuoka, 1991

94-JO-006



7

樋田伸也 1941-

通り過ぎた風景

1982年 油彩、麻布 130.3×193.9cm

右下に署名

第46回新制作協会展

作者寄贈 94-JO-007

HITSUDA, Nobuya

Landscape passed over

1982 oil on canvas 130.3×193.9cm

signed lower right

46th Shinseisaku-ten

Gift of the artist 94-JO-007



8

樋田伸也 1941-

通り過ぎた風景

1991年 油彩、麻布 162.1×193.9cm

右下に署名

第55回新制作協会展

購入 94-JO-008

HITSUDA, Nobuya

Landscape passed over

1991 oil on canvas 162.1×193.9cm

signed lower right

55th Shinseisaku-ten

94-JO-008



9

樋田伸也 1941-

通り過ぎた風景

1991/93年 油彩、麻布 162.1×162.1cm

右下に署名

第55回新制作協会展

購入 94-JO-009

HITSUDA, Nobuya

Landscape passed over

1991/93 oil on canvas 162.1×162.1cm

signed lower right

55th Shinseisaku-ten

94-JO-009



10

松下春雄 1903-1933

草原

1928年 油彩、麻布 128.5×145cm

右下に署名

第9回帝展

小川けん氏寄贈 94-JO-010

MATSUSHITA, Haruo

Meadow

1928 oil on canvas 128.5×145cm

9th Teiten

Gift of Ken Ogawa

94-JO-010



11
山口長男 1902-1983

庭
1935年 油彩、麻布 27.3×41cm
購入 94-JO-011

YAMAGUCHI, Takeo
Garden
1935 oil on canvas 27.3×41cm
94-JO-011



4
近藤文雄 1938-
M氏の肖像

1966年 水彩・墨・インク、ケント紙 35×51cm
個展 (銀芳堂画廊、東京)
購入 94-JD-004

KONDO, Fumio
Portrait of Mr. M
1966 watercolor, Indian ink and ink on Kent paper 35×51cm
One-man show, Tokyo
94-JD-004



12
脇田和 1908-

断層の人と鳥
1960年 油彩、麻布 162.1×130.3cm
第24回新制作協会展
購入 94-JO-012

WAKITA, Kazu
Man and Bird in a Fault
1960 oil on canvas 162.1×130.3cm
24th Shinseisaku-ten
94-JO-012



5
近藤文雄 1938-
6人の盲人たち
1968年 水彩・墨・インク、ケント紙 35×51cm
右下に署名
第8回現代日本美術展
購入 94-JD-005

KONDO, Fumio
Six Blind Men
1968 watercolor, Indian ink and ink on Kent paper 35×51cm
signed lower right
8th Contemporary Art Exhibition of Japan
94-JD-005

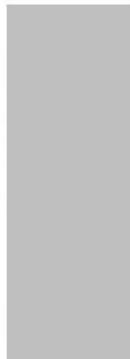


[水彩・素描]

1
近藤文雄 1938-

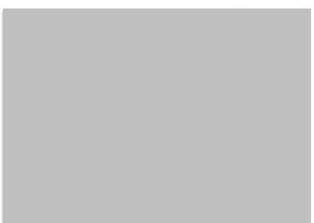
あいつ
1962年 水彩・墨・インク、ケント紙 48.5×16.8cm
左下に署名
第26回自由美術展
購入 94-JD-001

KONDO, Fumio
That Guy
1962 watercolor, Indian ink and ink on Kent paper 48.5×16.8cm
signed lower left
26th Jiyubijutsu-ten
94-JD-001



6
近藤文雄 1938-
連なるとみえて
1975年 水彩・墨・インク、ケント紙 35×51cm
左下に署名
第6回駒展
購入 94-JD-006

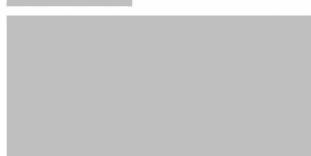
KONDO, Fumio
Apparently Standing in a Line
1975 watercolor, Indian ink and ink on Kent paper 35×51cm
signed lower left
6th Koma-ten
94-JD-006



2
近藤文雄 1938-

裁き
1962年 水彩・墨・インク、ケント紙 25×51.5cm
左下に署名
第26回自由美術展
購入 94-JD-002

KONDO, Fumio
Judgement
1962 watercolor, Indian ink and ink on Kent paper 25×51.5cm
signed lower left
26th Jiyubijutsu-ten
94-JD-002



7
田窪恭治 1949-
廃墟

1985年 ミクストメディア 304×196.2×41.5cm
個展 (ワジテレビギャラリー、1986年)
購入 94-JS-001

TAKUBO, Kyoji
Ruins
1985 mixed media 304×196.2×41.5cm
One-man show, Tokyo, 1986
94-JS-001



3
近藤文雄 1938-

さらしもの (3)
1964年 水彩・墨・インク、ケント紙 36×53cm
左下に署名
個展 (三鈴ギャラリー、豊橋)
購入 94-JD-003

KONDO, Fumio
Convict in the Pillory (3)
1964 watercolor, Indian ink and ink on Kent paper 36×53cm
signed lower left
One-man show, Toyohashi
94-JD-003



2
原裕治 1948-
アポクリファ N°.1
1994年 油彩、青高泡立草・紙・木 180×270cm
個展 (テーマ展、愛知県美術館)
購入 94-JS-002

HARA, Yuji
Apocrypha No.1
1994 oil on grass, paper and wood 180×270cm
One-man show, APMA
94-JS-002



3

山口勝弘 1928-
ヴィトリー・ヌ
1955年 油彩、モールガラス、ガラス、合板 62.5×61.8×10cm
2人展（銀座・和光ギャラリー、1956年）
購入 94-JS-003

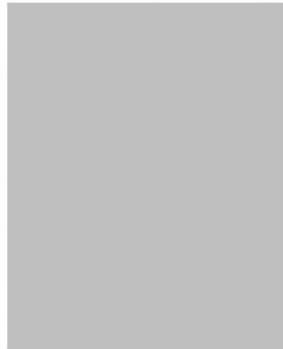
YAMAGUCHI, Katsuhiro
Vitrine
1955 oil, glass and plywood 62.5×61.8×10cm
Group Exhibition, 1956, Tokyo
94-JS-003



2

セビエ、ラインハルト 1956-
病室から
1992年 クレヨン、紙 110×80cm
個展（東邦画廊、1994年）
購入 94-FD-002

SØBYE, Reinhardt
From a Patients' Room
1992 crayon on paper 110×80cm
One-man show, Tokyo, 1994
94-FD-002



[資料]

1

片岡球子 1905-
富士（箱根・三国峠）
1994年 リトグラフ・シルクスクリーン、紙 52.7×65.3cm
作者寄贈 94-JM-001

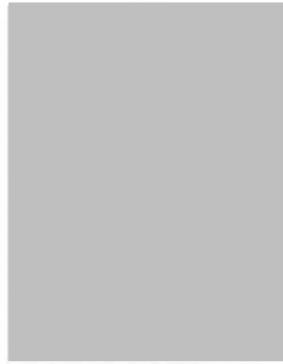
KATAOKA, Tamako
Mt. Fuji (Hakone, The Mikuni-Pass)
1994 lithograph and silkscreen on paper 52.7×65.3cm
Gift of the artist 94-JM-001



3

セビエ、ラインハルト 1956-
思想家
1993年 クレヨン・布・アクリル板、紙 110×80cm
個展（東邦画廊、1994年）
購入 94-FD-003

SØBYE, Reinhardt
The Thinker
1993 crayon, cloth and plexiglass on paper 110×80cm
One-man show, Tokyo, 1994
94-FD-003



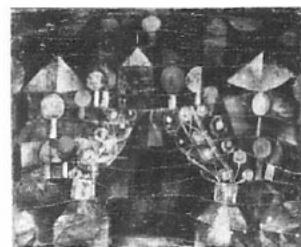
■海外作家

[絵画]

1

クレー、パウル 1897-1940
女の館
1921年 油彩、厚紙 41.7×52.3cm
左下に署名、年記、作品番号；裏面に年記、作品題名
購入 94-FO-001

KLEE, Paul
Woman's Pavilion
1921 oil on cardboard 41.7×52.3cm
signed, dated and oeuvre number lower left; dated and oeuvre title verso
94-FO-001

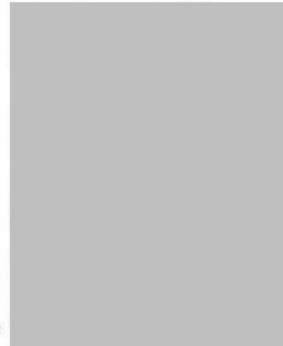


[立体]

1

シーガル、ジョージ 1924-
ロバート・エセル・スカルの肖像
1965年 油彩、麻布；石膏ほか；木製布貼椅子
197.8×165.5cm；181.0×143.5×143.0cm
個展（シドニー・ジャニス画廊、ニューヨーク）
購入 94-FS-001

SEGAL, George
Portrait of Robert and Ethel Scull
1965 oil on canvas; plaster etc.; wood chair with cloth
197.8×165.5cm; 181.0×143.5×143.0cm
One-man show, Sidney Janis Gallery, New York
94-FS-001



2

ミロ、ジョアン 1893-1986
絵画
1925年 油彩、綿布 100×130cm
中央右寄りに署名、年記；裏面に署名、年記
購入 94-FO-002

MIRÓ, Joan
Painting
1925 oil on cotton 100×130cm
signed and dated center right; signed and dated verso
94-FO-002



[版画]

1

シーレ、エゴン 1890-1918
しゃがみこむ女
1914年 ドライポイント、網目手漉紙 48.3×32.2cm(66.5×48.5cm)
購入 94-FP-001

SCHIELE, Egon
Squatting Woman
1914 drypoint on wove paper 48.3×32.2cm(66.5×48.5cm)
94-FP-001

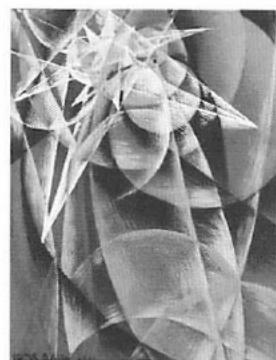


[水彩・素描]

1

バラッラ、ジャコモ 1871-1958
太陽の前を通過する水星（習作）
1914年 グアッシュ、紙 65.5×50cm
左下に署名・年記、裏面に作品タイトル
購入 94-FD-001

BALLA, Giacomo
Study for Mercury passing in front of the Sun
1914 gouache on paper 65.5×50cm
signed and dated lower left; titled verso
94-FD-001



[資料]

1

ムーア、ヘンリー 1898-1986
シェルター・スケッチブック
1966-67年 リトグラフ、紙 各8.36.6×31cm
ウイルデンスタイル 東京寄贈 94-FM-001

MOORE, Henry
Shelter Sketchbook
1966-67 lithograph on paper each page 36.6×31cm
Gift of Wildenstein Tokyo Ltd. 94-FM-001



愛知県美術館では20世紀の美術をコレクション形成の基本方針としているが、企画展に関してはコレクションの性格に沿ったものを中心につつ、幅広い時代・分野のものも取り上げることにしている。1994年度は、そうしたこと念頭におきつつ6本の企画展を開催した。日本の近代美術では香月泰男を、また郷土関係では杉本健吉を取り上げた。欧米の20世紀美術では、フランスのフェルナン・レジェ、アメリカのアンドリュー・ワイエスを取り上げた。さらに、19世紀中葉から20世紀美術半ばまでの欧米絵画の展開をシカゴ美術館のコレクションによって紹介した。コレクションの枠を越えて美術史の流れを紹介する企画展の一環として、ドイツを中心とする後期ゴシックの木彫と板絵を紹介した。

一覧表（開館から1994年度まで）

Temporary Exhibitions held until fiscal 1994

	展覧会名
	1992年度
1	フォーヴィスムと日本近代洋画 Fauvism and Modern Japanese Painting
2	近代の日本画－西洋との出会いと対話－ Nihonga – Traditional-style Modern Japanese Painting –
3	20世紀 愛知の美術 20th Century Art in Aichi
	1993年度
4	パウル・クレーの芸術 Paul Klee Retrospective
5	小川芋銭展 Ogawa Usen Retrospective
6	現代の陶芸（1950－1990） Contemporary Ceramics 1950－1990
7	安田靭彦展 Yasuda Yukihiko Retrospective
8	リール市美術館所蔵 バロック・ロココの絵画 From Veronese to Goya: Paintings and Drawings from Palais des Beaux-Arts of Lille
9	戸張孤雁と大正期の彫刻 Tobari Kogan and Modern Japanese Sculpture
10	クプカ展 František Kupka
	1994年度
11	杉本健吉展 Kenkichi Sugimoto Retrospective
12	シカゴ美術館展 Masterworks of Modern Art from <i>The Art Institute of Chicago</i>
13	レジェ展 Fernand Léger
14	聖なるかたち 後期ゴシックの木彫と板絵 Heilige und Menschen. Suermondt-Ludwig-Museum, Museen der Stadt Aachen
15	香月泰男展 Yasuo Kazuki Retrospective
16	アンドリュー・ワイエス展 Andrew Wyeth Retrospective

画業70年のあゆみ—杉本健吉展

Kenkichi Sugimoto Retrospective

会期：1994年5月14日(土)～6月2日(木)

主催：愛知県美術館／中日新聞社／東海テレビ放送

企画協力：財団法人 杉本美術館

後援：愛知県・三重県・岐阜県・名古屋市各教育委員会／名古

屋鉄道／JR東海

観覧料：一般1,000(800)円／高校・大学生600(400)円／小・中
学生400(200)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：19,568人 (17日間：1日平均1,151人)

出品作品：油彩画81点、水彩・素描83点、その他2点計166点

担当：坂下雄彦／木本文平

杉本健吉は、明治38年に名古屋に生まれ、以来当地に在住し、日本画・洋画というジャンルの枠にとらわれない自由闊達な表現方法で、高潔で爽涼感溢れる独特な芸術の世界を形成した作家として知られている。

作者は、愛知県立工業学校图案科を卒業し、若くして岸田劉生に師事し、劉生没後は梅原龍三郎に学び、自己の画風を確立するとともに画家としての地歩を着実に築き上げた。とくに、奈良、大和の風物をモティーフにした一連の作品では、画家としての名声を不動のものとし、さらに、戦後、吉川英治の連載小説『新・平家物語』や『新・水滸伝』などの挿絵を担当することによって、その名声は一段と高まった。

昭和37年以降、作者は中国、中近東、ヨーロッパそして韓国などに旅行し、その先々で数多くの作品を制作している。作者の絵づくりの基本姿勢は、つくり絵でない生まれる絵を希求することを創作の原点としており、したがって、杉本の描いた作品は、作者の感動が直截に表現されたもので、精神性の高い独特な香気を放つものとなっている。

今世紀の世界の美術は、抽象や超現実主義などのさまざまな様式を展開し、複雑な様相を提示してきた。わが国の美術も例外でなく世界のこうした動向に影響を受けつつ、近代から現代へ至る時間の流れのなかでおおきな変容をみせてきた。そのなかにあって、東洋画と西洋画という両洋の異なる絵画描法を渾然一体化し、自己の描法として昇華させ、独自の画境を築いたのがこの杉本健吉といえよう。

本展では、杉本健吉の70年に及ぼうとする画業の展開を油彩画81点、水彩・素描83点、オブジェ2点、合計166点の作品で紹介し、展示構成では、彼の画業の展開に即し下記の4章に分類し展観を試みた。

第1章 初期の創作活動

昭和のはじめ、春陽会展出品時代から昭和15年頃の奈良、大和の風物を描き始めた時までの代表的な作品で構成。

油彩画19点、水彩・素描16点

第2章 古都を描く

奈良、大和などの古都を題材とした一連の作品群で構成し、作者が修練した西洋の絵画描法と東洋の絵画描法が絶妙な程合いで渾然一体化し、独自な描法として確立するさまを検証。

油彩画24点、水彩・素描17点

第3章 挿絵の世界

戦後、作者の名声を一段とたかめる契機となったのが、『新・平家物語』などの挿絵を手がけたことであり、このことにより彼自身も画業の上で大きな飛躍をみせたのであった。挿絵を中心に関連する墨画作品で構成。

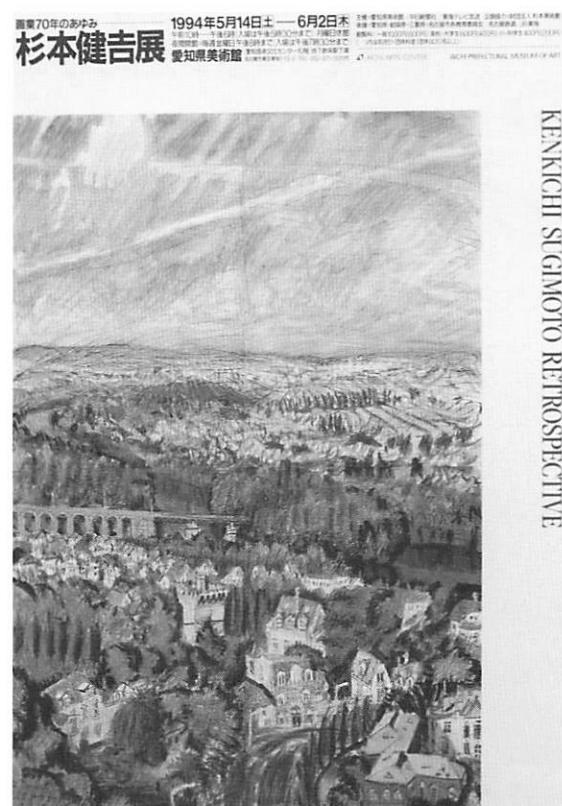
挿絵（3件）〈水彩・素描6点〉

第4章 広がる美の世界

海外の風物、人物、牡丹シリーズなど、奈良、大和の風物以外のモティーフを描いた作品で構成。

油彩画38点、水彩・素描44点、オブジェ2点

この展覧会を実施してみて、作家の実像にある程度迫ることが出来たのではないかと思っている。ただ、あらためて彼の画業の展開を通観して感じたことに、初期の画業を経済的にも技術的にも支えたグラフィック・デザイナーとしての領域と、戦後の展開において影響を受けたと思われる近代の文人画家富岡鉄斎との係わりが意外なほどに大きなものがあった。次回開催する機会には、この点についていま一歩踏み込んだかたちで追求してみたい。



KENKICHI SUGIMOTO RETROSPECTIVE

カタログ：A4判変形（29.6×22.4cm）192頁

本文 素描即タブロー—杉本健吉氏の絵の魅力—（浅野徹）

杉本健吉—生い立ちから“奈良”への途—（坂下雄彦）

図版（章解説：木本文平）

主要作品解説（坂下、木本）

年譜（木本編）

文献表（木本編）

出品目録

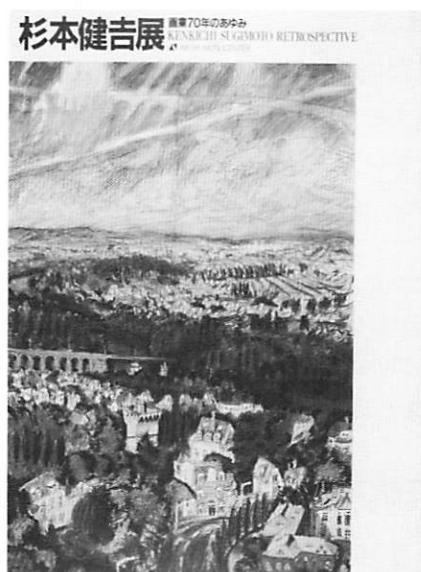
論文英訳（Translated by Keiko Hirayama）

編集 愛知県美術館 坂下／木本

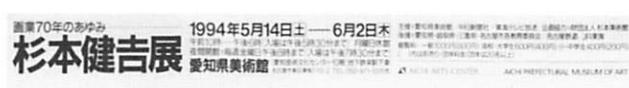
制作 求龍堂

表紙デザイン 岡本滋夫

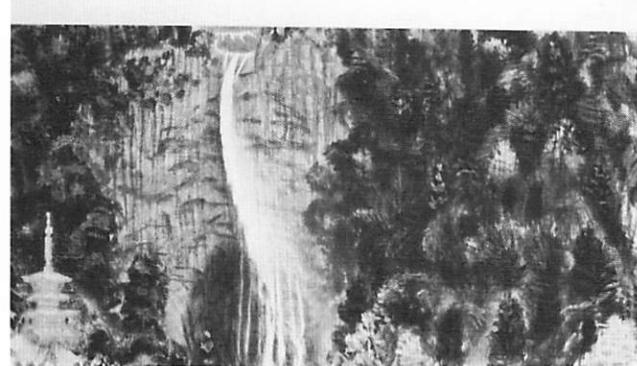
発行 愛知県美術館、中日新聞社、東海テレビ放送



カタログ表紙



KENKICHI SUGIMOTO RETROSPECTIVE



関連行事

記念講演会 5月21日(土)

演題：「美を語る」

講師：杉本健吉（聞き手：愛知県美術館長 浅野徹）

主要関連記事

《新聞》

岡本滋夫「《東別院の賑い》生活の中の“夢”描く」

『中日新聞』1994年5月16日夕刊

木本文平「《少女図》生命感あふれる線描」

『中日新聞』1994年5月17日夕刊

三浦小春「《博物館中央》複雑な反射と存在感」

『中日新聞』1994年5月18日夕刊

鈴木 威「《籠牡丹》円熟の技量 花と結晶」

『中日新聞』1994年5月19日夕刊

本多静雄「《サン・ジェルマン》遠き異国に思いはせ」

『中日新聞』1994年5月20日夕刊

杉本健吉「木炭で知った「白黒の世界」・自作を語る」

『朝日新聞』1994年5月27日夕刊

三頭谷鷹史「和洋の枠超えた描法に光 画家の多様性、展

示に工夫」

『朝日新聞』1994年7月1日夕刊

シカゴ美術館展—近代絵画の100年—

Masterworks of Modern Art from The Art Institute of Chicago

会期：1994年6月10日(金)～7月24日(日)

主催：愛知県美術館／シカゴ美術館／朝日新聞社

後援：外務省／文化庁／アメリカ大使館／愛知県・名古屋市各教育委員会／名古屋テレビ放送／ZIP-FM／JR東海

協力：日本航空

観覧料：一般1,100(900)円／高校・大学生800(600)円／小・中学生500(300)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：89,204人 (38日間：一日平均2,347人)

出品点数：油彩画67点

担当：栗田秀法／拝戸雅彦

この展覧会プロジェクトは、新潟県とアメリカ合衆国イリノイ州との姉妹提携関係を生かし、州都シカゴ市にあるシカゴ美術館の作品を新潟県立近代美術館の開館記念事業の一環として紹介しようということから始まったものである。巡回先として愛知県美術館、横浜美術館が加わり、美術館三館と展覧会全体をコーディネートした朝日新聞社文化企画局との四者で出品内容についての交渉を重ねた。

展覧会内容は、世界有数の規模を持つシカゴ美術館のコレクションによって1850年からの100年間のヨーロッパ、アメリカの絵画の流れを概観しようとするもので、「19世紀のヨーロッパ絵画」「20世紀のヨーロッパ絵画」「19・20世紀のアメリカ絵画」の3つのパートで構成された。出品総点数は67点である。

「19世紀のヨーロッパ絵画」では、ギュスターヴ・クールベ、ウジェーヌ・ドラクロワ、ジャン＝フランソワ・ミレー、ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー、アルフレッド・シスレー、ピエール＝オーギュスト・ルノワール、クロード・モネ、エドガー・ドガ、エドゥアル・マネ、ジュール・ブルトン、アンリ・トゥールーズ＝ロートレック、ピエール・ピュヴィ・ド・シャヴァンヌ、ポール・ゴーギャン、フィンセント・ファン・ゴッホ、ポール・セザンヌ、カミーユ・ピサロの作品計19点が出品された。

また、「20世紀のヨーロッパ絵画」では、エドゥアル・ヴュイヤール、アンリ・マティス、パブロ・ピカソ、ジョルジュ・ブラック、ロベール・ドローネー、ヴァシリー・カンディン斯基、フランツ・マルク、ファン・グリス、モーリス・ユトリロ、アメデオ・モディリアーニ、フェルナン・レジェ、マルク・シャガール、シャイム・スーチン、ラウール・デュフィ、ジョルジュ・ルオー、マックス・ベックマン、ライオネル・ファインinger、フランシス・ピカビア、ジョアン・ミロ、サルバドール・ダリ、ピエール・ボナール、イヴ・タンギーの作品計22点が出品された。

さらに「19・20世紀のアメリカ絵画」では、フレデリック・

エドウィン・チャーチ、詹姆斯・アボット・マクニール・ホイッスラー、メリ・カサット、ジョン・シンガー・サージェント、ウィリアム・ハーネット、ジョージ・インネス、ウィンズロー・ホーマー、フレデリック・カール・フリーゼク、マン・レイ、アーサー・ダヴ、チャールズ・ディムス、ジョージア・オキーフ、アイヴァン・オールブライト、レジナルド・マーシュ、ミルトン・エイヴリー、国吉康雄、アーシル・ゴーキー、バーネット・ニューマン、ウィリアム・バジオーテス、ハンス・ホフマン、マーク・ロスコ、フランツ・クライン、アドルフ・ゴットリープの26点が出品された。

一般になじみの深いルノワールの作品を前面に出して広報を進めたこと、印象派や後期印象派の著名な画家がかなり含まれていたことから、予想を上回る多数の入場者を集めることができた。またそれによって当美術館の収集方針と重なるフォーヴィスムから抽象表現主義に至る20世紀絵画の大きな流れを知つてもらう機会を提供できたことは喜ばしい。また、カタログには、この種の名品展としては異例なことに日本側でカタログの作品解説が執筆された。そのほかでは、出品作品の質の向上と裏腹に保険総評価額が膨れ上がり展覧会運営を圧迫したことが特記される。



Masterworks of Modern Art from The Art Institute of Chicago 1850-1950

1994年6月10日金～7月24日日 午前10時～午後6時 入場は午後5時30分まで 愛知県美術館
愛知県瀬戸市千種町3番地 1番地 1号館 2階 300席 3階 100席 2階 100席 3階 100席
料金：一般1,100円(900円)、高校・大学生800円(600円)、小・中学生500円(300円)、子供200円、高齢者・障害者・日本航空乗客割引100円、学割50円、一般1,000円(800円)、高校・大学生600円(500円)、小・中学生300円(200円)、子供150円(100円)、高齢者・障害者・日本航空乗客割引50円

カタログ：B5判変形（24.9×19.1cm）286頁

本文 シカゴの財産—近代絵画の庇護者とシカゴ美術館（チャールズ・F・スタッキー、桐原浩訳）

同上英文

太平洋を越えて—19世紀末から20世紀初頭のアメリカとヨーロッパの画家たち（メアリー・マーフィー、栗田秀法訳）

同上英文

カタログ

I 19世紀のヨーロッパ絵画

（作品解説：佐々木奈美子、桐原）

II 20世紀のヨーロッパ絵画

（作品解説：栗田、拝戸雅彦）

III 19・20世紀のアメリカ絵画

（作品解説：村田宏）

ピュヴィ・ド・シャヴァンヌとその役割（佐々木）

同上英文(Translated by Kumi Inoue)

再出発点としての絵画の「零度」（拝戸）

同上英文

(Translated by Stanley N. Anderson)

19世紀アメリカ静物画論（村田）

同上英文

(Translated by Martha J. MacClintock)

関連年表

編集 新潟県立近代美術館／愛知県美術館／横浜美術館／朝日新聞社

制作 美術出版デザインセンター

デザイン 大渕真一

発行 朝日新聞社

展覧会巡回先：

・新潟県立近代美術館

（1994年4月20日～5月29日、入場者数：89,427人）

・横浜美術館

（1994年8月6日～9月25日、入場者数：100,343人）



1994年6月10日金～7月24日日 午前10時～午後6時 入場料午後5時30分まで 1,500円、午後5時30分以降 1,000円
休館日 毎週水曜日（祝日除く） 入場料午後7時30分まで 1,500円、午後7時30分以降 1,000円
主催 愛知県美術館 シカゴ美術館 朝日新聞社 流通・外務省 文化省 アメリカ大使館 愛知県・名古屋市教育委員会 名古屋テレビ放送 ZIP-FM・浜東屋 富士 日本空港
協賛 映像 1,000円（高校生以下・大学生700円） 一般 1,500円（高校生以下・大学生900円） 一般 2,000円（高校生以下・大学生1,200円）



1994年6月10日金～7月24日日 午前10時～午後6時 入場料午後5時30分まで 1,500円、午後5時30分以降 1,000円
休館日 每週水曜日（祝日除く） 入場料午後7時30分まで 1,500円、午後7時30分以降 1,000円
主催 愛知県美術館 シカゴ美術館 朝日新聞社 流通・外務省 文化省 アメリカ大使館 愛知県・名古屋市教育委員会 名古屋テレビ放送 ZIP-FM・浜東屋 富士 日本空港
協賛 映像 1,000円（高校生以下・大学生700円） 一般 1,500円（高校生以下・大学生900円） 一般 2,000円（高校生以下・大学生1,200円）



カタログ表紙

関連行事

- 1) 第1回記念講演会 7月2日(土)
講師：栗田秀法（愛知県美術館学芸員）
- 2) 第2回記念講演会 7月16日(土)
講師：國府寺司（広島大学助教授）

主要関連記事

《新聞》

- 栗田秀法「ファン・ゴッホ《子守をするマダム・ルーラン》」
『朝日新聞』（地方版）6月7日
「ゴーギヤン《アルルの老婦人》」
『朝日新聞』（地方版）6月8日
「ドローネー《シャン・ド・マルス、赤いエッフェル党》」
『朝日新聞』（地方版）6月9日
「ピカソ《水差しと裸婦》」
『朝日新聞』（地方版）6月10日
「オキーフ《牛の頭蓋とバラ》」
『朝日新聞』（地方版）6月11日
押戸雅彦「セザンヌ《花瓶のチューリップ》」
『朝日新聞』（地方版）6月18日
「マルク《魔法にかかった水車》」
『朝日新聞』（地方版）6月22日
「シャガール《祈るユダヤ人》」
『朝日新聞』（地方版）6月29日
「マネ《新聞を読む女性》」
『朝日新聞』（地方版）7月5日

レジェ展

Fernand Léger

会期：1994年8月5日(金)～9月11日(日)

主催：愛知県美術館／中日新聞社／中部日本放送

後援：フランス文化省／フランス大使館／愛知県・岐阜県・三

重県・名古屋市各教育委員会／JR東海

協賛：東京海上

協力：日本航空

観覧料：一般1,100(900)円／高校・大学生800(600)円／小・中
学生500(300)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

出品点数：油彩画69点、素描58点、計127点

総入場者数：22,793人 (33日間：一日平均691人)

担当：村上博哉／深山孝彰

20世紀フランスを代表する画家の一人 フェルナン・レジェ(1881-1955)は、ノルマンディー地方の田舎町アルジャンタンに家畜飼育業者の息子として生まれ、奇しくもピカソ、ブラックと同じ1900年にパリに出た。3人はともにキュビズムの巨匠と呼ばれたが、レジェは彼らとは一線を画する単純明快で軽やかな色彩を用いて独自の絵画世界を確立した。

都市の生活を愛し、機械文明のダイナミズムにひかれたレジェは、第一次世界大戦後、日常的なモティーフにより円筒形を特徴とする無機的な形と原色を駆使した斬新なスタイルを生み出した。さらにはダダ、ビュリスム、シュルレアリスムといった1920年代の美術動向に敏感に反応しながら「新しいリアリズム」を提唱し、また1925年にはル・コルビュジエのエスプリ・ヌーヴォー館の壁画によって建築と抽象絵画との接点を探ったりと、自己の作風をさまざまに展開させていった。しかしながら、レジェの根底にある純朴な民衆への共感と愛情に満ちたまなざしと、人生と芸術に対する肯定的な姿勢はつねに変わることなく、彼の作品には底抜けの明るさと陽気な人間くさが溢れていた。第二次大戦後はピクニックやサイクリング、サーカスなどの庶民的なレクリエーションの世界を明快に描き出している。

この展覧会はレジェの初期から晩年までを振り返る本格的な回顧展であったが、大衆性を有する彼の芸術にふさわしく、来館者からも親しみをもって迎えられたように思われる。なお、本展は4会場を巡回したが、愛知県美術館では当館が所蔵するレジェ晩年の版画集《サーカス》の一部を併せて展示した。



カタログ：A4判変形（28.0×22.7cm）220頁

本文 序文：明朗な精神・現代の牧歌（木島俊介）

I レジエの肖像（クリスティアン・ドゥルエ、藤島美菜・村上博哉訳）

II レジエは語る（ドゥルエ、中村隆夫訳）

III レジエは描く（ドゥルエ、中村訳）

カタログ

年譜（ドゥルエ、藤島訳）

Bibliographie

編集 東京新聞

デザイン 大石一義

制作 アイメックス

発行 東京新聞

関連事業

記念講演会 8月27日(土)

講師：村上博哉（愛知県美術館学芸員）

展覧会巡回先

・Bunkamuraザ・ミュージアム

（1994年4月9日～5月29日、入場者数：47,437人）

・丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

（1994年6月25日～7月30日、入場者数：5,735人）

・茨城県近代美術館

（1994年9月17日～11月3日、入場者数：15,051人）

主要関連記事

《新聞》

村上博哉：「レジエの美空間1／パーカッションの響き」

『中日新聞』8月11日

山本容子：「レジエの美空間2／裏切られるイメージ」

『中日新聞』8月12日

赤瀬川原平：「レジエの美空間3／気なごむ頬もしさ」

『中日新聞』8月13日

日比野克彦：「レジエの美空間4／移りゆく時代性 魅力」

『中日新聞』8月16日

笠井誠一：「レジエの美空間5／健康で力強い生命感」

『中日新聞』8月17日



カタログ表紙

聖なるかたち 後期ゴシックの木彫と板絵—アーヘン市立ズエルモント＝ルートヴィヒ美術館所蔵—

Heilige und Menschen, Suermondt-Ludwig-Museum, Museen der Stadt Aachen

会期：1994年9月23日(金)～11月3日(木)

主催：愛知県美術館／朝日新聞社

後援：外務省／文化庁／ドイツ連邦共和国総領事館／京都ドイツ文化センター／名古屋テレビ放送／JR東海／ZIP-FM／愛知県教育委員会／名古屋市教育委員会

協力：日本航空

観覧料：一般1,100(900)円／高校・大学生800(600)円／小・中学生500(300)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：27,976人 (37日間：1日平均756人)

出品点数：絵画22点、彫刻55点、計77点

担当：寺門臨太郎／村田真宏

イタリアでルネサンス美術が絢爛たる光彩を放っていた14世紀から16世紀にかかる時代、北方のネーデルラントやドイツでは、中世美術が絶頂期を過ぎて、やがて硬直した枯死のときを迎える最後の爛熟期がおとずれていた。その時代は、彫刻や板絵、あるいは建築の様式をもとに「後期ゴシック」と呼ばれている。そうした時を生きた中世末期のひとびとは、商業や手工業を営みながら蓄えた現実的な感覚と趣味を宗教美術にも反映させようとした。それは世俗化を招きながらも、独特の洗練を加えて近世の扉を開くものとなつた。

この分野の彫刻や絵画は、美術史上の重要さにもかかわらず、おもに輸送と展示にかかる作品保存の問題から、日本ではこれまでほとんど紹介される機会に恵まれなかった。今回の展覧会は、1994年12月に改築終了後あらたに開館されたアーヘン市立ズエルモント＝ルートヴィヒ美術館の工事期間中に、同館の所蔵する作品を借用することで実現された。現地での作品状態の調査をはじめとして財政的な折衝を含む準備には3年間が費やされ、また一連の作業は、すべて国立西洋美術館ならびに朝日新聞社との共同で進められた。

実際の展示は、先行して開催された国立西洋美術館で使用された展示造作物のほとんどを流用しながら、当館の天井高を勘案して一部の木彫を通常よりもかなり高い位置に展示する等の工夫に加え、アーヘン側の担当者を感心させた照明により、いっそうドラマティックな効果をもたらすことが可能となった。また、期間中の木彫や板絵の保存状態には危惧されたダメージは起こらず、この翌年に開催が予定される彫刻展(木彫を含む)への自信ともなった。

ヨーロッパの中世美術にはほとんどなじみのないこの地域において、当初は、こうした未知の領域の美術を受容する層がどれほど獲得できるかが大いに懸念された。地元メディアの反響の少なさは、この展覧会も例外でなかったが、現実には非常に熱心な鑑賞者を多数得ることができ、その実数は期待を凌ぐもの

だった。とくに、若年層の鑑賞者がかなりの割合を占めたことは、この企画の成功を示すものと理解できるだろう。



聖なるかたち
後期ゴシックの木彫と板絵

HEILIGE UND MENSCHEN
Suermondt-Ludwig-Museum, Museen der Stadt Aachen

聖なるかたち
後期ゴシックの木彫と板絵

ルートヴィヒ美術館

カタログ：A4判変形（279×225cm）281頁

本文 時代と図像（ウルリヒ・シュナイダー、田辺
幹之助訳）

聖人と人間（シルヴィア・ペーマー、薩摩雅
登訳）

聖人伝の伝承に関して（ビルギッタ・ファル
ク、佐藤直樹訳）

ドイツとネーデルラントにおける後期ゴシッ
クの彫像と祭壇の制作について（ミヒヤエル
・リエフ、真鍋千絵訳）

カタログ（作品解説、作品状態解説：ペーマ
ー、ファルク、セバスティアン・ギーセン、
ダグマー・プライシング、バルバラ・ロンメ、
シュナイダー、リエフ／翻訳：薩摩、佐藤、
田辺、寺門臨太郎、河口公生）

聖堂内装としての木彫について（田辺）

マリア、バテシバ、エヴァの系譜と初期フラ
ンドル絵画（寺門）

ドイツ側論文原文

日本側論文翻訳(translated by Maria Lydia
Tanabe and Martha MaClintock)

カタログ原文

編集 河口、佐藤、薩摩、田辺、寺門

制作 美術出版デザインセンター

デザイン 米村隆

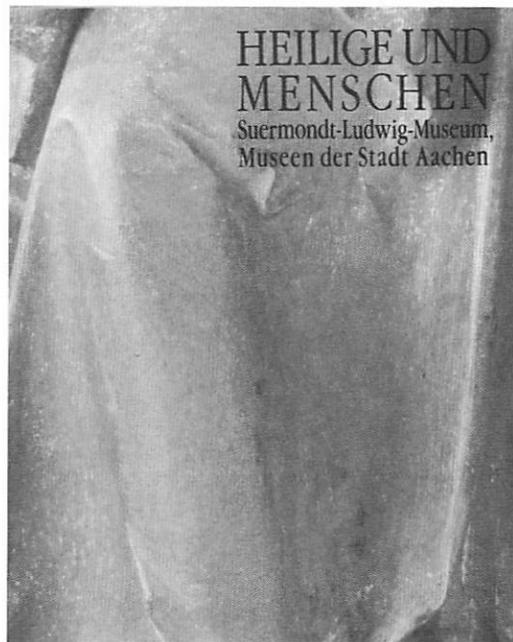
発行 国立西洋美術館、愛知県美術館、朝日新聞社

解説冊子：A5判 8頁

編集 寺門臨太郎

制作 凸版印刷

発行 愛知県美術館



カタログ表紙

アーヘン市立ズエルモント＝ルートヴィヒ美術館所蔵
聖なるかたち
後期ゴシックの木彫と板絵

鑑賞の手引き

キリスト教の造形芸術は、わたくしたち日本人にとって必ずしもなじみのあるものとは言えません。それは、旧約と新約のそれぞれの聖書やさまざまの伝説集に取材した作品の主題や内容が、わたくしたちの日常と余りにもかけ離れているという先入観にかられてしまっているからかもしれません。

元来、中世の彫像や板絵は、教会建築の内外各所を飾り、また祭壇に飾られる目的をもって制作されました。しかし、そうした彫像や板絵は、純粋な美術作品として鑑賞の場に供されたとしても、わたくしたちの心を洗い流してくれるにこなさしい十分な魅力を持ったのです。そこで、聖書や伝説集に基づく主題と意味や構成的要素を知ったうえで、それらの作品の前に立つならば、ヨーロッパ中世のキリスト教美術を享受する喜びは、またいっそうの深まりをみせるにちがいありません。

今回の鑑賞会は、中世カトリックの美術表現が、世俗的な楽しみと宗教による拘束の渾沌によって重複の複雑のときを过了時代、つまり14から16世紀のドイツとネーデルラント地方(現在のベルギーとオランダ)で制作された木彫と板絵に焦点を当てています。そして、77点の出品作品は、「キリストとマリア」、「聖人像」のふたつのグループに分けられたうえで、個々の主題に墨書きにおいて展示されています。

この手引きは、そしした展示の順序にそって、各々の作品をより深く鑑賞していただくうえで最もたいたいことから簡単に解説したものです。

各解説の文中で「」内に示されている数字は、出品作品の番号です。

▲ 愛知県美術館

解説冊子表紙

関連事業：

*美術講座として「聖人と人間」と題し、全5回の講演会を開催した。

第1回：9月24日(土)「ゴシックのステンドグラスを読む」

講師：木俣元一（名古屋大学助教授）

第2回：10月14日(金)「後期ゴシックの木彫」

講師：田辺幹之助（国立西洋美術館主任研究官）

第3回：10月15日(土)「民衆と聖人信仰」

講師：阿部謹也（一橋大学学長）

第4回：10月21日(金)「描かれた聖女たち—後期ゴシックのフランドル絵画ー」

講師：寺門臨太郎（愛知県美術館学芸員）

第5回：10月22日(土)「中世末期の女性のアレゴリー」

講師：川上実（愛知県立芸術大学教授）

展覧会先巡回先

・国立西洋美術館

(1994年4月26日～6月26日、入場者数：106,000人)

主要関連記事：

【新聞】

(F)「聖なるかたち展」(展覧会評)、

『京都新聞』1994年10月1日付朝刊、第17面所収

Julia Cassim：“When the Saints come Marching,” in

The Japan Times, October 16, 1994, p.13

長谷川三郎「人との関係解く」

『日本経済新聞』1994年10月7日付夕刊

寺門臨太郎「ウルスラ伝の画家二人の天使を伴う聖母子」

(聖なるかたち展から1)『朝日新聞』

1994年10月18日付朝刊、第18面(地方版)所収

寺門臨太郎「下部ライン地方 受胎告知のマリア」(聖なるかたち展から2)

『朝日新聞』1994年10月19日付朝刊、第22面(地方版)所収

寺門臨太郎「チロル地方 神の悲しみ」(聖なるかたち展から3)

『朝日新聞』1994年10月20日付朝刊、第24面(地方版)所収

寺門臨太郎「ハンス・ジクスト周辺の彫刻家 テューリング
ンの聖エリーザベト」(聖なるかたち展から4)

『朝日新聞』1994年10月21日付朝刊、第24面(地方版)所収

寺門臨太郎「アントウェルペン 聖カテリナ」(聖なるかたち
展から5)

『朝日新聞』1994年10月22日付朝刊、第22面(地方版)所収

没後20年 香月泰男展

Kazuki Yasuo Retrospective

会期：1994年11月18日(金)～1995年1月16日(月)

主催：愛知県美術館／日本経済新聞社／テレビ愛知

後援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR
東海

協賛：中部電力／東邦ガス／トヨタ自動車／名古屋鉄道

協力：山口県立美術館／三隅町立香月美術館

観覧料：一般800(600)円／高校・大学生600(400)円／小・中学生300(200)円

() 内は前売り、団体料金

出品点数：油彩画162点、玩具51点、計213点

総入場者数：27,164人（46日間：一日平均591人）

担当：牧野研一郎／古田浩俊

香月泰男が1974年に没して20年になるのを記念して企画され、ご遺族、山口県立美術館、さらに郷里に開館してまもない三隅町立香月美術館の全面的な協力を得て実現することができた展覧会であった。没後、1975年に山口県立博物館をかわきりに東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、北九州市立美術館を巡回した遺作展が開催されたのははじめとして、1981年に山口県立美術館でその芸術の全貌を示す大規模な香月泰男展が、1987年には下関市立美術館でも大規模な回顧展が開催された。また自らの戦争体験を刻印した連作「シベリア・シリーズ」が、1989年から翌年にかけて、山口県立美術館の綿密な調査に基づき日本各地の美術館で開催され、多くの人々に深い感銘を与えたことは記憶にあたらしいところである。またこの他、香月作品が展示された展覧会や小品による展示会は枚挙に暇がないほどである。このように没後も多くの人々を魅了しつづけ、日本近代絵画史において確固たる位置を占めるようになってきてくるにもかかわらず、その芸術の全貌を知る機会は、郷里の山口県以外では、1975年の遺作展以降なかったこともこの展覧会を企画するにいたった一因である。

1911年、日本海に面した三隅町で代々医を業とする旧家に生まれた香月泰男は、幼くして父母に去られ祖父母のもとで少年期をおくるなかで、自らその孤独を癒すかのように絵に熱中するようになった。山口県立大津中学を卒業すると、躊躇することなく東京美術学校油画科に進んで画家への道を歩み始め、在学中に私淑する梅原龍三郎の主宰する国画会に出品して、梅原や、フランス近代絵画の収集で著名な福島繁太郎のみとめるところとなる。卒業後は美術教師のかたわら国画会や帝展に出品を重ね、1939年には新鮮な造形感覚を示す《兎》で帝展特選を受賞するなど、着実に画家としての地歩を固めていった。しかし、1942年末に召集を受け翌年4月には一兵卒として満洲（現中国東北部）に送られ、画家としての仕事は中断を余儀なくされる。敗戦後はシベリアに抑留され、厳寒の地で二冬を過ごし、

1947年に帰還する。しかし、この極限状況のなかでも画家の眼を失うことなく、後に「シベリア・シリーズ」に結実するモチーフを、従軍中も俘虜となつても身辺においた絵具箱に文字にかえて刻んでいる。帰国後しばらくは、出征前にすでに確立しつつあった、うるわしい色彩と特異な画面構成によるモダニズム様式を追求し、少年の日々を回想するかのような、静寂にみちた抒情的作品を国画会に出品するが、1950年代後半にはいつて次第にその作風は変化を示し、方解石を用いた独特的の絵肌にモノクロームで形象がおかれるようになった。この様式、技法の深まりのなかでながく胸中にあった「シベリア」がその姿をあらわし、出征から帰還までの「シベリア・シリーズ」として、画家のライフ・ワークとなった。それは画家個人の記録をこえて、歴史によって強制的に極限状況におかれた多くの人々の魂の記録ともなっていると言える。一方でまた画家は深く家族や郷里の風土を愛し、それらを主題に詩心にみちた作品をこした。

今回の展覧会では、こうした香月泰男の、初期から晩年にいたる多様な作品世界を、以下の5章にわけ、その代表作162点によって辿ることで、その淵源をいま一度再検証しようとした。

第1章 初期作品

第2章 中期作品（1940－1960）

第3章 シベリア・シリーズ

第4章 小さな世界（生活の情景・小動物・家族の情景・玩具）

第5章 後期作品（1960－1974）

名古屋には古くからの香月ファンが多く、それを反映してか、入館者の絶対数は多くはなかったが、これまでの企画展と比較してカタログを購入する比率がきわめて高かったのが印象に残った。

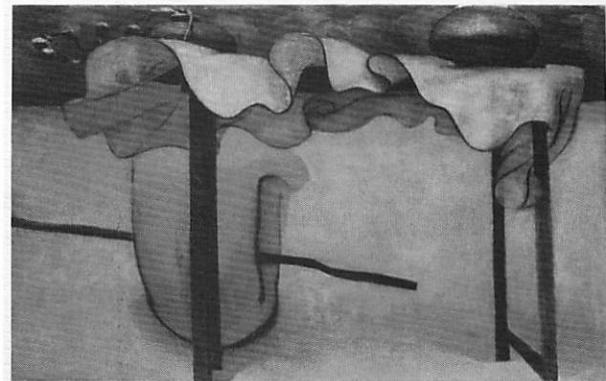


1994年11月18日㈮～1995年1月16日㈪
KAZUKI YASUO RETROSPECTIVE
香月泰男展
愛知県美術館
透明な抒情と伝統の弓

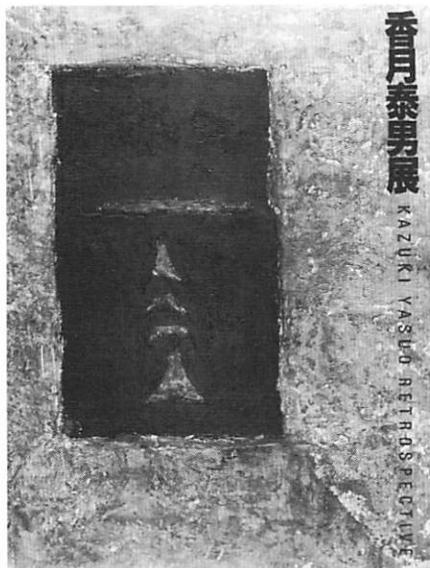
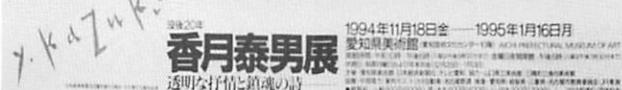
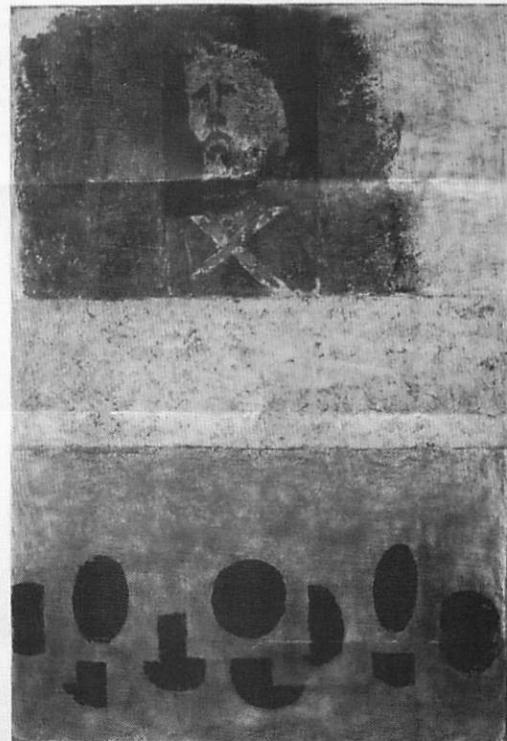
カタログ：A4判変形（29.9×22.6cm）280頁

本文 シベリア・シリーズと初期作品－香月泰男展
に寄せて－（浅野徹）
同上翻訳(Translated by Keiko Katsuya)
香月泰男 初期作品の成立に関する試論
(牧野研一郎)
香月泰男の造形的模索－1950年代の作品を中心
に－（濱本聰）
香月泰男の“シベリア・シリーズ”にみる單
純化と装飾化（富田章）
図版（章解説：牧野）
画家香月泰男に寄り添って（香月婦美子、聞
き手：木本信昭）
出品目録
年譜（牧野編）
展覧会歴（古田浩俊編）
文献目録（古田編）
出品作品一覧
編集 愛知県美術館 牧野／古田
制作 印象社
表紙デザイン 岡本滋夫
発行 日本経済新聞社

KAZUKI YASUO RETROSPECTIVE Aichi Arts Center



KAZUKI YASUO RETROSPECTIVE Aichi Arts Center



カタログ表紙

関連行事

記念講演会 12月4日(日)

講師：馬場駿吉（名古屋市立大学教授／美術評論家）

Julia Cassim, "Kazuki works revive wartime wraiths",

The Japan Times, January 7, 1995

井上隆生「朕の名のため…心に重く」

『朝日新聞』1995年1月14日夕刊

展覧会巡回先

・下関市立美術館

(1995年1月26日～2月26日、入場者数：8,573人)

・そごう美術館（横浜）

(1995年3月8日～4月9日、入場者数：22,140人)

主要関連記事

《定期刊行物》

大熊敏之「香月泰男／猪熊弦一郎遺作展—二つのモダニズム」

『月刊美術』1995年1月号

《新聞》

須田寛「凍河（エニセイ）」

『日経新聞』1994年11月28日夕刊

佐々木 利子「黒い太陽」

『日経新聞』1994年11月29日夕刊

豊田芳年「奉天（左・右）」

『日経新聞』1994年11月30日夕刊

岡本隆明「『不世出の画家』一生の歩み」

『読売新聞』1994年12月1日

野見山暁治「香月泰男と故郷」

『日経新聞』1994年12月4日

長谷川三郎「むごさと美が交錯」

『日経新聞』1994年12月9日

有海千尋「強烈！戦争体験を画面に告発」

『中日新聞』1994年12月9日

田中三蔵「叙情秘め戦争と死と」

『朝日新聞』1994年12月20日

太田垣實「日の出」

『京都新聞』1994年12月24日

島田章三「散歩」

『日経新聞』1994年12月28日

嘉門安雄「龍」

『日経新聞』1994年12月29日

浅野徹「門・石垣」

『日経新聞』1994年12月30日

三頭谷鷹史「描き続けたシベリア抑留」

『朝日新聞』1995年1月6日夕刊



解説冊子表紙

アンドリュー・ワイエス展—アメリカの郷愁 心の風景を描く

Andrew Wyeth Retrospective

会期：1995年2月3日(金)～1995年4月2日(日)

主催：愛知県美術館／中日新聞社／中部日本放送

後援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR
東海

協賛：安田火災

協力：日本航空

観覧料：一般1,100(900)円／高校・大学生800(600)円／小・中
学生500(300)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：120,177人 (51日間：1日平均2,356人)

出品点数：テンペラ50点、ドライブラッシュ35点、水彩その他
53点、計138点

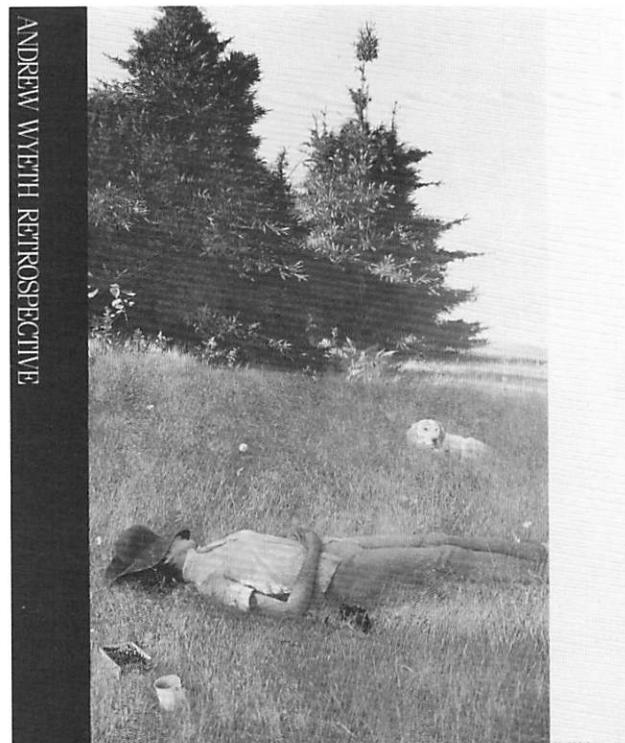
担当：高橋秀治／挾戸雅彦／藤島美菜

アンドリュー・ワイエスはアメリカ、ペンシルヴェニア州に生まれ、高名な画家であり、挿絵画家でもあった父ニューウェル・コンヴァース・ワイエスから幼い頃より、絵の手ほどきを受けて才能を開花させた。10代後半からその類い稀な描写力で、作家として認められるようになり、今まで一貫してアメリカ東部の自然や人々の営みをモティーフに、自身の内面世界への広がりを感じさせる、魂の眼とも言えるような透徹した観察力と卓越した技術によって描き続けている。

この展覧会は半世紀を超える彼の画業を振り返ったものである。ワイエスは1974年に東京国立近代美術館ではじめて紹介されて以後、ヘルガ展やワイエス三代展をはじめとして画廊や他の美術館で、何度か紹介され、多くの日本人の爱好者をひきつけてきた作家である。しかし、中部地区での展覧会ははじめてであり、しかも、その規模や内容においてこの展覧会は、過去に日本で開催されたワイエス展をしのぐ最も充実した回顧展と言い得るものとなった。

今回の展覧会では、1930年代の初期の作品から最近作に至るまでの数多くの中から、その画業を振り返る回顧展にふさわしい作品を、作家自身とともに日米の担当者が選び出し、テンペラ作品51点（このうち残念ながら、阪神・淡路大震災のためにアメリカより1作品が不出品となった）、ドライブラッシュ作品37点、水彩その他54点の合計142点によって構成したものである（巡回先により展示内容に一部変更あり）。全作品の内96点をアメリカの美術館、個人所蔵家から、46点を日本国内からの出品によって、ワイエスが創り上げてきた世界の全体像をうかびあがらせるとともに、現代における写実というものを問い直す機会を提供しようとしたものである。

この展覧会のためには、元メトロポリタン美術館長で、1976年メトロポリタン美術館におけるワイエス展を組織した、トマス・ホーヴィング氏をゲスト・キュレーターに迎えて、アメ



アンドリュー・ワイエス展 アメリカの郷愁 心の風景を描く

1995年2月3日(金)～4月2日(日)
午前10時～午後5時(最終日午後4時) 入場料：一般1,100円～(前売り900円) 後援
愛知県美術館 好きなアーティストの肖像
アーティスト：アンドリュー・ワイエス
主催：愛知県美術館
後援：愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市各教育委員会、JR東海
協賛：安田火災
料金：一般1,100円～(前売り900円)、高校・大学生800円～(前売り600円)、小・中学生500円～(前売り300円)

ANDREW WYETH CENTER

リカ国内の出品に力を借り、また、カタログに論文を寄せてもらった。さらにこの展覧会のもうひとつの意義は、日本で組織したこの展覧会が日本国内3会場を終えたあとアメリカまで巡回したことである。このような展覧会は稀なことで、日米の文化交流にとってきわめて有意義で、記録されるべき出来事といえるであろう。

日本国内での反響はきわめて大きく、愛知県美術館での入場者数も12万人を超え、これまでの記録となった。

なお、日本国内の巡回先として当初予定されていた兵庫県立近代美術館での展覧会は、1995年1月17日に起こった阪神・淡路大震災のためにやむなく中止し、代わって、福島県立美術館を第3会場として開催した。

出品作品の変更

No.30《寝室に置かれたオウムガイ》は、阪神・淡路大震災のため不出品

カタログ：A4判変形（28.0×22.5cm）296頁

本文 アンドリュー・ワイエスの魔力、神秘、そして真実(トマス・ホーヴィング、押戸雅彦訳)

カタログ（作家の言葉：ホーヴィング聞き取り、鶴岡厚生・押戸訳）

ワイエス—その内なる世界（高橋秀治）

アンドリュー・ワイエスあるいは不在の光景
(尾崎信一郎)

ホーヴィング論文原文

作家の言葉原文

日本側論文翻訳

(Translated Yumiko Yamazaki)

出品リスト

年譜／主要展覧会歴（藤島美菜編）

日本語文献（藤島編）

Bibliography（藤島編）

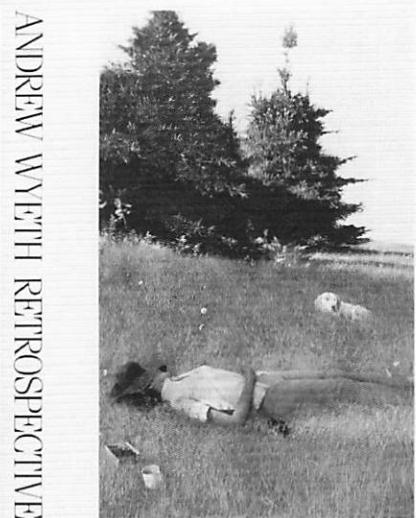
編集 愛知県美術館 高橋／押戸／藤島

編集協力 ホーヴィング

制作 印象社

表紙デザイン 岡本滋夫

発行 愛知県美術館、中日新聞社



カタログ表紙

関連行事

第1回記念講演会 3月5日(日)

講師：早川博明（福島県立美術館学芸課長）

第2回記念講演会 3月11日(日)

講師：小此木啓吾（慶應義塾大学教授）

展覧会巡回先

・Bunkamuraザ・ミュージアム

(1995年4月15日～6月4日、入場者数118,449人)

・福島県立美術館

(1995年6月10日～7月16日、入場者数44,785人)

・ネルソン＝アトキンズ美術館（米国ミズーリ州カンザスシティ）(1995年9月29日～11月26日、入場者数82,758人)

主要関連記事（☆は東京展関連）

『定期刊行物』

中村隆夫「仕組まれた写真」

『月刊美術』1995年2月号

高橋秀治「アンドリュー・ワイエス」

桑原住雄「ワイエスの世界」

『art vision』winter 1995 vol.22-3

無署名「画家の肖像」

『ART GRAPH』1995年3月号

高橋秀治「ワイエスをめぐって」／桑原住雄「ワイエスの世界」

『芸術俱楽部』1995年3・4月号

トマス・ホーヴィング「自叙伝としての展覧会」

『美術手帖』1995年4月号

倉林靖「アンドリュー・ワイエスのアメリカ」

『G Q』1995年4月号

無署名「美術館企画展から アンドリュー・ワイエス展」

『日経アート』1995年4月号

川本三郎「アンドリュー・ワイエスの魔法」

『SPUR』1995年5月号

菅谷敦夫「孤高の隠遁画家」

『サライ』1995年4月6日号

☆無署名「アンドリュー・ワイエス展」

『アトリエ』1995年5月号

不二徹「アメリカの国民画家なんて言ってた奴は誰だ！ A・ワイエスの大回顧展が日本からスタート」

『PLAYBOY』1995年6月号

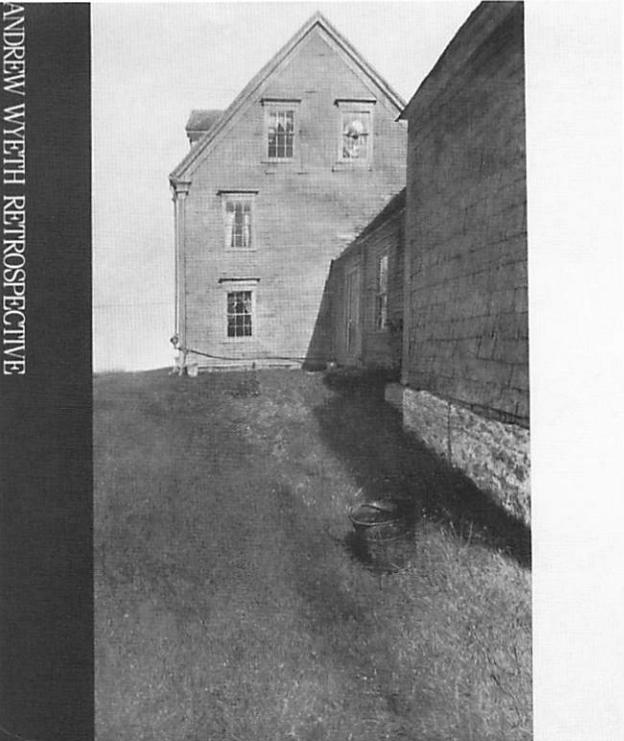
☆無署名「ワイエス自身が選んだ作品で構成する“完璧”な回顧展」

『マリクレール』1995年6月号

☆無署名「ベツィとヘルガ」

『美術の窓』1995年6月号

ANDREW WYETH RETROSPECTIVE



アンドリュー・ワイエス展

アメリカの鄉愁　心の風景を描く

1995年2月3日金～4月2日日

午前10時～午後5時(最終日午後4時) 入場料：一般300円・高校生以下150円・中学生以下100円

愛知県美術館　〒441-0032　名古屋市昭和区鶴舞町1-16番地

TEL：052-721-1133(受付)　FAX：052-721-1134(受付)

郵便料：一般300円(郵便)・高校生以下150円(郵便)・中学生以下100円(郵便)

Aichi Arts Center



ANDREW WYETH RETROSPECTIVE

アンドリュー・ワイエス展

アメリカの郷愁　心の風景を描く

1995年2月3日金～4月2日日

午前10時～午後5時(最終日午後4時)

入場料：一般300円・高校生以下150円・中学生以下100円

愛知県美術館　〒441-0032　名古屋市昭和区鶴舞町1-16番地

TEL：052-721-1133(受付)　FAX：052-721-1134(受付)

郵便料：一般300円(郵便)・高校生以下150円(郵便)・中学生以下100円(郵便)

Aichi Arts Center



ANDREW WYETH RETROSPECTIVE

アンドリュー・ワイエス展

アメリカの郷愁　心の風景を描く

1995年2月3日金～4月2日日

午前10時～午後5時(最終日午後4時)

入場料：一般300円・高校生以下150円・中学生以下100円

愛知県美術館　〒441-0032　名古屋市昭和区鶴舞町1-16番地

TEL：052-721-1133(受付)　FAX：052-721-1134(受付)

郵便料：一般300円(郵便)・高校生以下150円(郵便)・中学生以下100円(郵便)

《新聞》

長谷川三郎「人・自然の逸話示す」

『日本経済新聞』1995年2月3日夕刊

小川潔「中部初の大回顧展」

『名古屋タイムズ』1995年2月9日

有海千尋《アンドリュー・ワイエス アメリカの郷愁》(連載)

『中日新聞』

「まぎれもない存在」2月9日

「主なき部屋漂う愛」2月10日

「創作の場環境づくり」2月11日

「伝わる生命の息遣い」2月12日

「究極“かい骨自画像”」2月14日

「心の窓から見続ける」2月15日

高橋秀治「内的世界と無常感」

『新美術新聞』1995年2月11日

F「深い死生観を秘める」

『京都新聞』1995年2月11日

有海千尋「心打つアメリカの郷愁」

『中日新聞』1995年2月20日夕刊

田中三蔵「画面に漂う時代の喪失感」

『朝日新聞』1995年3月2日夕刊

Julia Cassim, "Wyeth big draw at Aichi museum", *The Japan Times*, March 5, 1995

無署名「ワイエス展」

『毎日新聞』1995年3月8日

対談、野田弘志／福島礼子「郷愁の扉を開く」

『中日新聞』1995年3月10日

木島俊介「自然のなかの人間、人間のなかの自然」

『中日新聞』1995年3月16日夕刊

M「哀感ただよう詩情」

『産経新聞』1995年3月19日

無署名「悲哀の感情や精神性表現」

『熊本日日新聞』1995年3月27日

☆宝生正彦「生氣失わず、弧高の画業 ワイエス展」

『日本経済新聞』1995年4月25日

☆Joel Perron "Wyeth's distant realism yields no easy answers" *The Daily Yomiuri*, April 28, 1995

所蔵作品展 Permanent Collection

1994年度は、所蔵作品展を別表の通り4期に分けて行った。テーマ展として「エルンストの挿絵本と版画」「中西夏之一〈山頂の石蹴り〉へー」を開催した。

1994年度の所蔵作品展実施状況

所蔵作品展名	会期・展示室	日数	入場者数	1日平均
1994年度第I期	(4月1日)～6月2日 (展示室5～8)	50	46,964	939
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵品展のみの入場者数		46,162 802	923 16
1994年度第II期	6月10日～9月18日 (前期: 6月10日～7月31日／展示室3～8／ テーマ展「平成5年度新収蔵作品」) (後期: 8月5日～9月18日／展示室4～8)	83	114,227	1,376
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵品展のみの入場者数		111,997 2,230	1,349 27
1994年度第III期	9月23日～11月13日 (展示室4～8)	46	30,170	656
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵品展のみの入場者数		27,975 2,195	608 48
1994年度第IV期	11月18日～(3月31日) (展示室4～8／テーマ展／展示室6～8 (11月18日～1995年1月22日) 「エルンストの挿絵本と版画」／テーマ展 展示室6(2月3日～4月2日) 「中西夏之一〈山頂の石蹴り〉へー」	100	136,793	1,368
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵品展のみの入場者数		135,460 1,333	1,355 13
1994年度合計		279	328,154	1,176
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵品展のみの入場者数		321,594 6,560	1,153 23

Temporary Exhibitions held in the permanent collection area

Max Ernst: Books and Prints November 18, 1994 - January 22, 1995, at Exhibition Rooms 6-8

Natsuyuki Nakanishi: Hopscotch at the Summit/Drawings 1969-1972 February 3, 1995- April 2, 1995, at Exhibition Room 6

■1994年度第Ⅰ期展示作品リスト（★は前期（3月18日～5月8日）のみ、★★は後期（5月14日～6月2日）のみの展示）

種別	作家名	作品名
	制作年	
展示室4		
絵画	パブロ・ピカソ	背い肩かけの女
1902		
絵画	グスタフ・クリムト	人生は戦いなり（黄金の騎士）
1903		
絵画	ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺
1906頃		
絵画	ピエール・ボナール	子供と猫
1906頃		
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物
1912		
絵画	エミール・ノルデ	静物L（アマゾーン、能面等）
1915		
絵画	ジャック・ヴィヨン	存在
1920		
絵画	アンリ・マティス	待つ
1921-22		
絵画	ライオネル・ファインガー	夕暮れの海I
1927		
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	日の当たる庭
1935		
絵画	パウル・クレー	回心した女の堕落
1939		
絵画	ポール・デルヴォー	こだま
1943		
絵画	ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵
1953		
絵画	マックス・エルンスト	ポーランドの騎士
1954		
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル	両手のベートーヴェン
1908		
立体	ケーテ・コルヴィッツ	恋人たち2
1913		
洋画	久米桂一郎	秋景
1892		
洋画	黒田清輝	暖き日
1897		
洋画	山下新太郎	白耳義の少女
1909		
洋画	梅原龍三郎	若き羅馬人 ★★
1909		
洋画	中村葬	少女裸像 ★
1914		
洋画	岸田劉生	高須光治君之肖像
1915		

洋画	木村荘八	壺を持つ女
1915		
洋画	河野通勢	自画像
1917		
洋画	小出楳重	N婦人像
1918		
洋画	大沢鉢一郎	大曾根風景 ★★
1919		
洋画	古賀春江	夏山
1927		
洋画	大沢鉢一郎	シンベを着た少女 ★
1920		
洋画	宮脇晴	自画像 ★★
1920		
洋画	宮脇晴	お手玉の少女 ★
1922		
洋画	藤田嗣治	青衣の女 ★
1925		
洋画	前田寛治	褐衣婦人像 ★★
1925		
洋画	佐分真	裸婦
1925頃		
洋画	横井礼以	室内静物
1926		
洋画	長谷川利行	酒売場
1927		
洋画	伊藤廉	肘をつく女
1929		
洋画	海老原喜之助	雪山と樵 ★
1930		
洋画	野口弥太郎	門
1931頃		
水彩・素描	鏡光	自顔像
1934		
絵画	安井曾太郎	承德喇嘛廟 ★★
1938		
洋画	川口軌外	二婦
1939		
洋画	村井正誠	天使
1950		
洋画	桂ゆき	人と魚
1954		
立体	高田博厚	女のトルソ
1908		
展示室5		
洋画	松下春雄	二人のポーズ
1933		

洋画	須田国太郎	夏
1941		
洋画	矢橋六郎	武蔵野 冬 杉林
1941		
洋画	岡鹿之助	窓
1949		
洋画	香月泰男	散歩
1953		
洋画	鬼頭鍋三郎	マドモアゼルM
1954		
洋画	森芳雄	女たち
1954		
洋画	荻須高徳	線路に面した家 ★★
1955		
洋画	金山康喜	静物 ★
1956		
洋画	宮本三郎	家族
1956		
洋画	麻生三郎	胴体と頭と電球
1964		
洋画	上田薰	なま玉子G
1976		
洋画	島田章三	石庭女人図
1976		
洋画	三尾公三	鏡の前
1982		
絵画	ニコラ・ド・スター	コンポジション
1948		
絵画	アド・ラインハート	No.114
1950		
洋画	瑛九	黄色い花
1957-58		
洋画	オノサト トシノブ	三つの黒
1958		
絵画	サム・フランシス	消失にむかう地点の青
1958		
洋画	山田正亮	Work B 182
1958		
洋画	難波田龍起	萌
1961		
洋画	元永定正	作品
1961		
絵画	ジョーゼフ・アルバース	正方形頃
1962		
洋画	斎藤義重	作品
1962		
洋画	荒川修作	作品
1963		

洋画 山口長男 屏形 1963	素描 小山田二郎 夏の虫 1978	版画 北川民次 タスコの裸婦 1941頃	
洋画 菅井汲 ナショナル ルート No.11 1964	素描 小山田二郎 ロマンス 1978	版画 北川民次 版画集『瀬戸十景』 1937 工場の一角(表紙) 窯小屋 土堀り場 煙突のある風景 夜の工場 工場のなか ろくろを廻す男 山の中の窯場 窯入れ 窯焼き 瀬戸市街	
洋画 桑山忠明 茶白青 1968	素描 三上誠 黙示B 1954		
絵画 フランク・ステラ River of Ponds IV 1969	素描 三上誠 胸のはな 下絵1 1954		
絵画 アンディ・ウォーホル レディース・アンド・ジェントルメン 1975	素描 三上誠 花の化石 1955		
洋画 中西夏之 紫・むらさき XIX 1983	素描 三上誠 作品 1958	版画 北川民次 猫と女 1941頃	
洋画 宇佐見圭司 ビッグ・バン 1987	素描 三上誠 作品 1960頃	版画 北川民次 メキシコの浴み 1941頃	
洋画 加納光於 繁み・運動・エレメントB 1988	素描 三上誠 カップサイズ 1965頃	版画 北川民次 Exlibris S.Kubo(蔵書票) 1943頃	
立体 ルイズ・ニーヴェルソン 漂う天界 1959-66	素描 三上誠 作品下絵 1968	版画 北川民次 教育者 1947	
立体 イヴ・クライン 肖像レリーフ アルマン 1962	版画 浜田知明 仮標 1954	版画 北川民次 拳をあげる男 1947	
立体 ジム・ダイン 芝刈機 1962	版画 浜田知明 刑場A 1954	版画 北川民次 メキシコの男 1948	
立体 土谷武 植物空間 1990	版画 浜田知明 人 1956	版画 北川民次 蛇を握る女 1951	
展示室6		版画 北川民次 浴み 1957	
立体 戸谷成雄 地壘 1990	版画 浜田知明 かけ 1962	版画 北川民次 狂女 1957	
立体 戸谷成雄 森 1992	版画 浜田知明 版画集『暁後晴』刊行1977年 ややノイローゼ 1975 顔 1976 お先真っ暗 1976 かけ 1977 叫び 1975 心情不安定 1976 気にしない気にしない 1976 何とかなるさ 1976 浮上 1977	版画 北川民次 群像 1957	
展示室7 (前期)		版画 北川民次 メキシコ三人女 1957	
日本画 三上誠 環1・経路 1967		版画 北川民次 瀬戸の街 1961	
日本画 三上誠 経絡万華経 1967		版画 北川民次 シクラメンを主題にしたブーケ 1964	
日本画 三上誠 機構の生理 窓51 1970	展示室7 (後期)		
素描 池田龍雄 作品56 1956	洋画 北川民次 メキシコ三童女 1937	版画 北川民次 不動明王 1970	
素描 池田龍雄 家来もしくは忠誠 1956	洋画 北川民次 南国の花 1940	版画 北川民次 男女の群れ 1971	
素描 池田龍雄 顔 1956	洋画 北川民次 砂の工場 1959	版画 北川民次 バッタ抱擁 1971	
素描 池田龍雄 思慕鳥 1958	版画 北川民次 メキシコの女 1937頃	展示室8 (前期)	
素描 池田龍雄 風景 1958	版画 北川民次 家族 1937頃	版画 ラースロー・モホリ=ナジ コンストラクション 1922-23	
素描 池田龍雄 街 1959	版画 北川民次 牛 1937頃	版画 ラースロー・モホリ=ナジ コンストラクション 1922-23	

洋画 山本芳翠 1882頃	西洋裸婦		洋画 金山康喜 1956	静物		絵画 ジョーゼフ・アルバース 1962	正方形頬		
洋画 久米桂一郎 1892	秋景		洋画 牛島憲之 1962	埋れる船		絵画 フランク・ステラ 1969	River of Ponds IV		
洋画 黒田清輝 1897	暖き日		洋画 麻生三郎 1964	胴体と頭と電球		絵画 アンディ・ウォーホル 1975	レディース・アンド・ジェントルメン		
洋画 青木繁 1902	太田の森		洋画 小磯良平 1965	婦人像		洋画 山田正亮 1958	Work B 182		
洋画 梅原龍三郎 1909	若き羅馬人		立体 高田博厚 1968	女のトルソ		洋画 元永定正 1961	作品		
洋画 山下新太郎 1909	白耳義の少女		展示室5				洋画 斎藤義重 1962	作品	
洋画 安井曾太郎 1912頃	婦人像		絵画 パブロ・ピカソ 1902	青い肩かけの女		洋画 堂本尚郎 1962	絵画1962-25		
洋画 岸田劉生 1913	斎藤与里氏像		絵画 アルベール・マルケ 1902	ノートルダムの後陣		洋画 山口長男 1963	屏形		
洋画 中村葬 1914	少女裸像		絵画 グスタフ・クリムト 1903	人生は誠いなり(黄金の騎士)		洋画 宇佐見圭司 1964	長い歩み		
洋画 坂本繁二郎 1915	海岸の家		絵画 ラウル・デュフィ 1906	サンタドレスの浜辺		洋画 菅井汲 1964	ナショナル ルート No.11		
洋画 小出楳重 1918	N婦人像		絵画 ピエール・ボナール 1906頃	子供と猫		洋画 桑山忠明 1968	茶白青		
洋画 神原泰 1924	生命の流動		絵画 エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1912	グラスのある静物		洋画 浅野弥衛 1979	作品		
洋画 藤田嗣治 1925	青衣の女		絵画 エミール・ノルデ 1915	静物L(マゾーン、能面等)		洋画 猪熊弦一郎 1979	地図の中の日曜日		
洋画 前田寛治 1925	褐衣婦人像★		絵画 ジャック・ヴィヨン 1920	存在		洋画 佐々木四郎 1979	閉ざされた空間III M-5		
洋画 中山巍 1926	街角		絵画 アンリ・マティス 1921-22	待つ		洋画 中西夏之 1981	M字型-II		
洋画 古賀春江 1927	夏山		絵画 ライオネル・ファインガー 1927	夕暮れの海 I		洋画 村井正誠 1981	フォブル・サン・トノーレ		
洋画 長谷川利行 1927	洒壳場		絵画 ベン・ニコルソン 1933	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)		洋画 荒川修作 1981/82	Blank Stations		
洋画 海老原喜之助 1930	雪山と樵★		絵画 エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1935	日の当たる庭		洋画 元永定正 1982	しろいひかりのあか		
洋画 海老原喜之助 1930	ゲレンデ★★		絵画 パウル・クレー 1939	回心した女の堕落		洋画 加納光於 1988	繁み・運動・エレメントB		
洋画 北川民次 1937	メキシコ三童女		絵画 ポール・デルヴォー 1943	こだま		立体 ルイズ・ニーヴェルソン 1959-66	漂う天界		
洋画 熊谷守一 1938	鳥		絵画 ニコラ・ド・スター 1948	コンポジション		立体 イヴ・クライン 1962	肖像レリーフ アルマン		
洋画 香月泰男 1953	散歩		絵画 アド・ラインハート 1950	No.114		立体 ジム・ダイン 1962	芝刈機		
洋画 山口薰 1953	ボタン雪と騎手		絵画 ジャン・デュビュッフェ 1953	二人の脱走兵		立体 秋山陽 1990	Pho II		
洋画 須田国太郎 1954	樹下		絵画 マックス・エルンスト 1954	ポーランドの騎士		展示室6			
洋画 森芳雄 1954	女たち		絵画 サム・フランシス 1958	消失にむかう地点の青		立体 西村陽平 1992	IRON CONTAINER FOR MUMMIFIED MAGAZINES		

立体	出原次朗	星虫の死骸
1993		
展示室7		
日本画	小茂田青樹	柿
1919頃		
日本画	小川芋銭	沼四題 小蝦網(寄託作品)
1922		
日本画	小川芋銭	沼四題 泥鰌打(寄託作品)
1922		
日本画	小川芋銭	沼四題 檜原(寄託作品)
1922		
日本画	小川芋銭	沼四題 家鴨小屋(寄託作品)
1922		
日本画	速水御舟	西郊小景
1923		
日本画	村上華岳	魔障之図
1923		
日本画	小林古径	洗濯場 その1
1926		
日本画	小林古径	洗濯場 その2
1926		
日本画	萬鐵五郎	砂丘風雨
1919-27		
日本画	安田叡彦	月の兔
1934		
日本画	小杉放菴	花鳥屏風
1946-55頃		
素描	小林古径	洗濯場 その1 下絵
1926		

素描	小林古径	洗濯場 その2 下絵
1926		
第8室		
版画	オットー・ディックス	戦争
1924		
立体	ケーテ・コルヴィッツ	恋人たち 2
1913		
ロビーなど		
立体	メダルド・ロッソ	病める子
1893		
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル	両手のベートーヴェン
1908		
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル	ペネロープ
1909		
立体	エルンスト・バルラッハ	忘我
1911-12		
立体	レイモン・デュシャン=ヴィヨン	恋人たち
1913		
立体	ヴィルヘルム・レームブロック	立ち上がる青年
1913		
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル	力
1914-15		
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル	勝利
1916		
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル	雄弁
1916		
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル	自由
1916		
立体	アレクサンダー・コールダー	片膝ついで
1944		

立体	ジャーコモ・マンズー	ある主題によるガリエーション
1947-66		
立体	久野真	鉛による作品
1962		
立体	樋尾正次	葉っぱのように
1965		
立体	野水信	コの記号 65-3
1965		
立体	荒木高子	砂の聖書
1983		
立体	北山善夫	はなはだ大きいと言ふべきである
1984		
立体	出原次朗	逃げるものはとじこめる
1993		
屋外展示スペースなど		
立体	コルネリス・ジットマン	カリブの女
1983		
立体	アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間
1984		
立体	加藤昭男	大地
1986		
立体	小田襄	円柱の構造
1988		
立体	今井瑾郎	大地
1992		

■1994年度第III期展示作品リスト（9月23日～11月13日）

展示室4		
洋画	久米桂一郎	秋景
1892		
洋画	黒田清輝	暖き日
1897		
洋画	山下新太郎	白耳義の少女
1909		
洋画	梅原龍三郎	若き羅馬人
1909		
洋画	安井曾太郎	婦人像
1912頃		
洋画	岸田劉生	斎藤与里氏像
1913		

洋画	中村葬	少女裸像
1914		
洋画	河野通勢	自画像
1917		
洋画	小出楳重	N婦人像
1918		
洋画	大沢鉢一郎	ジンベを着た少女
1920		
洋画	国吉康雄	帽子の女
1920		
洋画	宮脇晴	お手玉の少女
1922		
洋画	藤田嗣治	青衣の女
1925		

洋画	清水登之	森に憩う人
1929		
洋画	古賀春江	夏山
1927		
洋画	長谷川利行	酒壳場
1927		
洋画	前田寛治	母の像
1928頃		
洋画	海老原喜之助	ゲレンデ
1930		
洋画	北川民次	メキシコ三童女
1937		
洋画	須田国太郎	夏
1941		

洋画	香月泰男 1953	散歩
洋画	荻須高徳 1955	線路に面した家
洋画	小山田二郎 1955	こわす者
洋画	丹羽和子 1964	占う女
洋画	三岸節子 1973	らくがき
洋画	島田章三 1976	石庭女人図
立体	高田博厚 1908	女のトルソ
展示室5		
絵画	アルベール・マルケ 1902	ノートルダムの後陣
絵画	パブロ・ピカソ 1902	青い肩かけの女
絵画	グスタフ・クリムト 1903	人生は戦いなり(黄金の騎士)
絵画	ラウル・デュフィ 1906	サンタドレスの浜辺
絵画	ピエール・ボナール 1906頃	子供と猫
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1912	グラスのある静物
絵画	エミール・ノルデ 1915	静物L(アマゾーン、能面等)
絵画	フランティシェク・クブカ 1919	灰色と金色の展開
絵画	ジャック・ヴィヨン 1920	存在
絵画	アンリ・マティス 1921-22	待つ
絵画	ライオネル・ファインガー 1927	夕暮れの海 I
絵画	ベン・ニコレソン 1933	1933(スペインの結婚書のあるカラージュ)
絵画	ポール・デルヴォー 1943	こだま
絵画	ニコラ・ド・スター 1948	コンポジション
絵画	アド・ラインハート 1950	No.114
絵画	ジャン・デュビュッフェ 1953	二人の脱走兵
絵画	マックス・エルンスト 1954	ボーランドの騎士

絵画	サム・フランシス 1958	消失にむかう地点の青
絵画	ルーチョ・フォンターナ 1960	空間概念
絵画	フランク・ステラ 1969	River of Ponds IV
絵画	アンディ・ウォーホル 1975	レディース・アンド・ジェントルメン
洋画	瑛九 1957-58	黄色い花
洋画	オノサト トシノブ 1958	三つの黒
洋画	山田正亮 1958	Work No.B 182
洋画	斎藤義重 1962	作品
洋画	荒川修作 1963	作品
洋画	宇佐美圭司 1964	長い歩み
洋画	佐々木四郎 1973	閉ざされた空間III M-5
洋画	村井正誠 1981	フォブル・サン・トノーレ
洋画	中西夏之 1983	紫むらさき XIX
洋画	難波田龍起 1987	原初的風景B
洋画	野見山暁治 1988	伝承のかたち
洋画	加納光於 1988	繁み・運動・エレメントB
水彩・素描	ジャコモ・バッラ 1914	太陽の前を通過する水星(習作)
水彩・素描	フランシス・ビカビア 1921-22	糸巻き
立体	レイズ・ニウェルソン 1959-66	漂う天界
立体	イヴ・クライン 1962	肖像レリーフ アルマン
立体	ジム・ダイン 1962	芝刈機
立体	秋山 陽 1990	Pho II
展示室6		
絵画	アントニ・タビエス 1977	コンポジション
素描	ロバート・ラウシェンバーグ 1958	コース

素描	クリスト 1986	旧ドイツ帝国国会議事堂の欄干
素描	ラインハルト・セビエ 1993	思想家
立体	ジョージ・シーガル 1965	ロバート&エセル・スカルの肖像

展示室7

日本画	藤井達吉 1921頃	山芍薬
日本画	藤井達吉 1925頃	小百合
日本画	藤井達吉 1930	舞鶴草
日本画	藤井達吉 1935頃	海辺の月
日本画	藤井達吉 1946頃	雨のおと
日本画	藤井達吉 1946頃	雨
日本画	藤井達吉 1951	むれゆく鷺
日本画	藤井達吉 1951頃	かいとる舟人
日本画	藤井達吉 1952	吹雪
日本画	藤井達吉 1954	扇面流し
日本画	藤井達吉 1956頃	日の出
日本画	藤井達吉 1957頃	樹
日本画	藤井達吉 1964	縹色紙風屏風
日本画	藤井達吉 1964	四国遍路
展示室8		
日本画	我妻碧宇 1950	大仏殿暮色
日本画	福田恵一 1952	ガラス
日本画	平川敏夫 1960	萌林
日本画	川崎小虎 1962	銅鐸
日本画	中村正義 1963	ビエロ
日本画	中川とも 1968	歎異鈔

日本画	田淵俊夫 1969	青木ヶ原
日本画	片岡球子 1979	足利家の人々
日本画	工藤甲人 1982	坐忘
日本画	小山硬 1982	日本海
日本画	小嶋悠司 1985	穢土
ロビーなど		
洋画	樋田伸也 1982	通り過ぎた風景
立体	メダルド・ロッソ 1893	病める子
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル 1908	両手のベートーヴェン
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル 1909	ペネロープ

立体	エルンスト・バルラッハ 1911-12	忘我
立体	レイモン・デュシャン=ヴィヨン 1913	恋人たち
立体	ヴィルヘルム・レームブルック 1913	立ち上がる青年
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル 1914-15	力
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル 1916	勝利
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル 1916	雄弁
立体	エミール=アントワーヌ・ブルデル 1916	自由
立体	アレクサンダー・コールダー 1944	片膝ついて
立体	ジャコモ・マンズー 1947-66	ある主題によるヴァリエーション
立体	オシップ・ザッキン 1956-57	チエロのトルソ

立体	野水信 1965	コの記号 65-3
立体	荒木高子 1983	砂の聖書
立体	北山善夫 1984	はなはだ大きいと言うべきである
立体	田窪恭治 1985	廃墟
屋外展示スペースなど		
立体	コレネリス・ジットマン 1983	カリブの女
立体	アルナルド・ボモドーロ 1984	飛躍の瞬間
立体	加藤昭男 1986	大地
立体	小田襄 1988	円柱の構造
立体	今井瑾郎 1992	大地

■1994年度第IV期展示作品リスト (★は(11月18日-12月25日)、★★は(12月27日-4月2日)のみの展示)

展示室4

洋画	久米桂一郎 1892	秋景
洋画	黒田清輝 1897	暖き日
洋画	黒田清輝 1906	花と猫
洋画	梅原龍三郎 1909	若き羅馬人
洋画	安井曾太郎 1912頃	婦人像
洋画	岸田劉生 1913	斎藤与里氏像
洋画	中村葬 1914	少女裸像★
洋画	岸田劉生 1915	高須光治君之肖像
洋画	木村荘八 1915	壺を持つ女★★
洋画	坂本繁二郎 1915	海岸の家
洋画	河野通勢 1917	自画像
洋画	小出信重 1918	N婦人像

洋画	大沢鉢一郎 1920	ジンベを着た少女
洋画	国吉康雄 1920	帽子の女
洋画	宮脇晴 1922	お手玉の少女
洋画	清水登之 1929	森に憩う人
洋画	古賀春江 1927	夏山
洋画	長谷川利行 1927	酒売場
洋画	小林和作 1928	薔薇咲くカプリ島★
洋画	村井正誠 1929	ゴルフジュアンの船
洋画	海老原喜之助 1930	雪山と樵
洋画	北川民次 1937	メキシコ三童女
洋画	安井曾太郎 1938	承德喇嘛廟★★
洋画	熊谷守一 1938	鳥
洋画	須田国太郎 1941	夏

洋画	矢橋六郎 1941	武藏野 冬 杉林
洋画	福沢一郎 1950	大地の果て一根室にて
洋画	児島善三郎 1951	伊豆の海
洋画	三岸節子 1952	魚とインカの壺
洋画	山口薰 1953	ボタン雪と騎手
洋画	桂ゆき 1954	人と魚
洋画	荻須高徳 1955	線路に面した家
洋画	脇田和 1970	黄いろの鳥
素描	鍛光 1934	自顔像
展示室6		
絵画	アルベルト・マルケ 1902	ノートルダムの後陣
絵画	パブロ・ピカソ 1902	青い肩かけの女
絵画	グスタフ・クリムト 1903	人生は戦いなり(黄金の騎士)★

絵画	ピエール・ボナール	子供と猫		洋画	中西夏之	紫むらさき XIX		田中恭吉	冬虫夏草
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912	洋画	難波田龍起	原初的風景 B		藤森静雄	死によりて結ばれる心
絵画	エミール・ノルデ	静物 L (アマゾーン、熊面等)	1915	洋画	野見山暁治	伝承のかたち		藤森静雄	水平線
絵画	フランティシェク・クプカ	灰色と金色の展開	1919	洋画	加納光於	繁み・運動・エレメント B		藤森静雄	我はつねにただ一つの心のみ知る
絵画	ジャック・ウイヨン	存在	1920	水彩・素描	ジャコモ・バッラ	太陽の前を通過する水星(習作)		藤森静雄	夜のいのり
絵画	ライオネル・ファインガー	夕暮れの海 I	1927	水彩・素描	フランシス・ピカビア	糸巻き		藤森静雄	永遠の頌
絵画	ベン・ニコルソン	1933(スペインの絶景書のあるコラージュ)	1933	立体	ルイス・ニー・ヴェルソン	漂う天界		恩地孝四郎	愚人願求
絵画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	日の当たる庭★★	1935	立体	ジム・ダイン	芝刈機		恩地孝四郎	つきにひくかげ
絵画	ポール・デルヴォー	こだま	1943	立体	ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像		恩地孝四郎	そらにかかるもの
絵画	ニコラ・ド・スター	コンポジション	1948	立体	田窪恭治	廃墟		恩地孝四郎	やまひ地を這ふ
絵画	アド・ラインハート	No.114	1950	展示室6、7、8(11月18日-1995年1月22日)					
絵画	ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1953	テーマ展「エルンストの挿絵本と版画」 共催:関西ドイツ文化センター 協力:ifa(ドイツ对外文化交流研究所)					
絵画	マックス・エルンスト	ポーランドの騎士	1954	展示室6(1995年2月3日-4月2日)					
絵画	サム・フランシス	消失にむかう地点の青	1958	テーマ展「中西夏之(山頂の石蹴り)へ」					
絵画	フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969	展示室7(1995年2月3日-4月2日)					
絵画	アンディ・ウォーホル	レディース・アンド・ジェントルメン	1975	日本画	加山又造	黒い鳥		恩地孝四郎	死によりてあげらるる生
洋画	藤田嗣治	青衣の女	1925	日本画	平川敏夫	樹峠		田中恭吉	埋葬の日
洋画	瑛九	黄色い花	1957-58	日本画	山本丘人	幻雪		藤森静雄	亡びゆく肉
洋画	オノサト トシノブ	三つの黒	1958	日本画	池田遙邨	稻掛け		藤森静雄	枝を離れし一つの果
洋画	斎藤義重	作品	1962	日本画	田渕俊夫	すぎばやし		藤森静雄	聖なる夜
洋画	山口長男	屏形	1963	日本画	平山郁夫	樓蘭の遺跡・昼		藤森静雄	墓穴を掘る
洋画	菅井汲	ナショナル ルート No.11	1964	日本画	東山魁夷	雪の山郷		藤森静雄	妹の葬らるべき日
洋画	宇佐美圭司	長い歩み	1964	展示室8(1995年2月3日-4月2日)					
洋画	島田章三	石庭女人図	1976	版画 月映III					
洋画	横田伸也	通り過ぎた風景	1982	田中恭吉	去勢者と緋墨栗			恩地孝四郎	へだてられたるもの
								恩地孝四郎	悲しきねがひ
								恩地孝四郎	涙してあふぐ日
								恩地孝四郎	おさむるものと地の哀傷
								恩地孝四郎	とぶもの、つけるもの
								恩地孝四郎	のこるこころ

恩地孝四郎 そらよりくだるかげ
1915

版画 月映V

田中恭吉 あをそら
1915

藤森静雄 一つのかげ
1915

藤森静雄 内省
1915

藤森静雄 現身
1915

藤森静雄 宇宙の流れを我は聞く
1915

藤森静雄 捧げもてるもの
1915

恩地孝四郎 太陽額に照る(抒情五種のうち)
1915

恩地孝四郎 生はみしき夜半目ざめて涙ながれながら(抒情五種のうち)
1915

恩地孝四郎 くるしみのうち懐に入るものあり(抒情五種のうち)
1915

恩地孝四郎 苦惱のうちに光る(抒情五種のうち)
1915

恩地孝四郎 あかるい時(抒情五種のうち)
1915

堀義二 なやみ
1915

版画 月映VI

田中恭吉 病鳥
1915

藤森静雄 二つの黙思
1915

藤森静雄 ただよふもの
1915

藤森静雄 映心
1915

藤森静雄 人の世の想
1915

藤森静雄 すすりなくたましひ
1915

恩地孝四郎 いとなみ祝福せらる(抒情五種のうち)
1915

恩地孝四郎 相信するこころ(抒情五種のうち)
1915

恩地孝四郎 慈に泪す(抒情五種のうち)
1915

恩地孝四郎 踊る(抒情五種のうち)
1915

恩地孝四郎 真実ひとり輝きめぐる(抒情五種のうち)
1915

香山小鳥 習作
1912頃

ロビーなど

絵画 アントニ・タピエス コンポジション
1977

立体 メダルド・ロッソ 病める子
1893

立体 エミール=アントワーヌ・ブルデル 背手のベートヴェン
1908

立体 エミール=アントワーヌ・ブルデル ベネロープ
1909

立体 エルンスト・バルラッハ 忘我
1911-12

立体 レイモン・デュシャン=ヴィヨン 恋人たち
1913

立体 ウィルヘルム・レームブルック 立ち上がる青年
1913

立体 エミール=アントワーヌ・ブルデル 力
1914-15

立体 エミール=アントワーヌ・ブルデル 勝利
1916

立体 エミール=アントワーヌ・ブルデル 雄弁
1916

立体 エミール=アントワーヌ・ブルデル 自由
1916

立体 アレクサンダー・コールダー 片膝ついで
1944

立体 ジャーコモ・マンズー ある主題によるヴァリエーション
1947-66

立体 オシップ・ザッキン チェロのトルソ
1956-57

立体 野水信 コの記号 65-3
1965

立体 檀尾正次 まるい穴いっぱい
1965

立体 荒木高子 砂の聖書
1983

立体 北山善夫 はなはだ大きいと言うべきである
1984

屋外展示スペース

立体 コルネリス・ジットマン カリブの女
1983

立体 アルナルド・ボモドーロ 飛躍の瞬間
1984

立体 加藤昭男 大地
1986

立体 小田襄 円柱の構造
1988

立体 今井瑾郎 大地
1992

テーマ展

エルンストの挿絵本と版画

(1994年11月18日～1995年1月22日：展示室6-8)

共催：関西ドイツ文化センター

協力：ifa（ドイツ対外文化交流研究所）

ケルン近郊のブリュールで生まれ、ボン大学で哲学と精神病理学を学んだマックス・エルンスト（1891-1976）は1919年ケルンでアルプらと「ダダ」の運動を起こし、21年には詩人アンドレ・ブルトンの招きでパリに移り、24年のシュルレアリスム宣言以降、ミロとともにこの運動の中心的な画家として活躍した。彼はコラージュやフロッタージュ、デカルコマニーなどの新しい技法と表現を開発し、偶然によるかたちや意外な場面から意識下のイメージを呼び起そうとした。

この企画展はエルンストの多彩な芸術の一端を、挿絵など本のための作品と版画によって紹介したもので、彼が初めてコラージュを用いた1919年から最晩年の1974年にわたる作品を展示了。エルンストの本の作品には詩人エリュアールなどの著書の挿絵のほか、彼自身の作品としてつくられたものも数多く、『百頭女』や『カルメル修道会に入ろうとしたある少女の夢』などの「コラージュ小説」や、フロッタージュによる『博物誌』などは彼の代表作に数えられている。

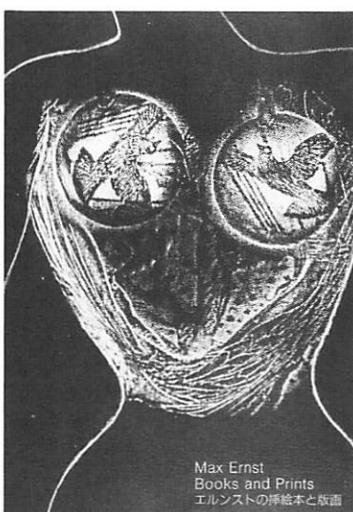
この企画はifa（ドイツ対外文化交流研究所）によって国際的に巡回されているもので、当館の前には町田市立国際版画美術館で全館的に展観されたが、当館では展示スペースの都合により97点を選んだ。（担当：深山孝彰）

小冊子：A5判8ページ

編集 深山

制作 凸版印刷

発行 愛知県美術館



中西夏之一（山頂の石蹴り）へ

(1995年2月3日～4月2日：展示室6)

ミクストメディアによる平面作品から出発し、1960年代にはオブジェの制作やハプニング、舞踏家土方巽のための舞台美術などの活動を行った中西夏之は、1967年頃から絵画をその成立の原理から考察する独自の作品を展開している。

1969年から72年にかけて制作された《山頂の石蹴り》と題する13点の油彩画は中西が系統的に制作した最初の絵画群であった。このテーマ展では、このシリーズのためのドローイングによって彼の絵画に対する問題意識の原点を探ろうとした。64点のドローイングから25点を選んで展示したが、そこでは“二つの正三角形に支えられたハート”という半ば幾何学的な図形が画面に置かれ、これを座標軸のようにして、色彩や空間についての観念的な考察とともに、触覚的な身体性、魚や兎の一部を想起させる不思議な形態、多彩な筆触、といった感覚的な要素の探求が線描と文字によって繰り広げられている。これらの視覚的な魅力とそこに盛り込まれた意味内容の豊富さは、絵画のもつ可能性について多くの示唆を与えるものと思われた。なお、参考出品として当時の《山頂の石蹴り（紙型）》とオブジェ《正三角儀 No.12》、そしてこのドローイングにもそづくステンシルによる大型の新作2点を併せて展示した。（担当：深山孝彰）

小冊子：A5判16ページ

編集 深山

制作 凸版印刷

発行 愛知県美術館

関連記事：

無署名「模索ぶり伝える絵画の“設計図”」

『朝日新聞』1995年2月17日夕刊

〈山頂の石蹴り〉へ

中 西 夏 之

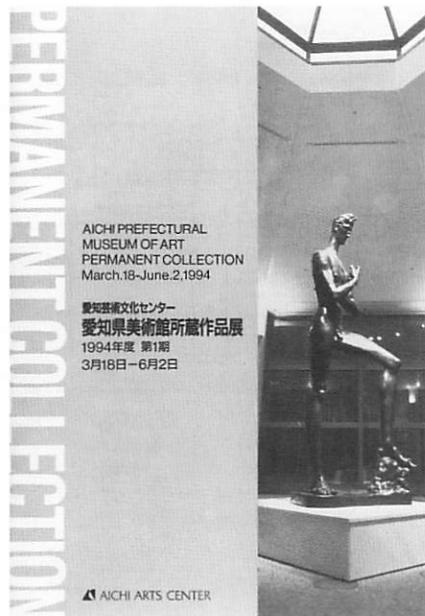
貸出 Loan of Collection

貸出作品一覧

No.	作家名	作品名	貸出先、会場	貸出期間	展覧会名
1.	守屋多々志 守屋多々志	醜聞 (北条政子) 大原寂光	岐阜県美術館 同上	1994.4.5-1994.5.18 "	守屋多々志展 同上
2.	松本哲男	火焔山残照	パリ三越エトワール・日本橋三越本店	1994.4.13-1994.9.20	松本哲男展
3.	鬼頭鍋三郎	浴後	愛知県美術館ギャラリー	1994.4.25-1994.5.2	第80回記念光風会名古屋展 (鬼頭鍋三郎記念室)
	鬼頭鍋三郎	室内	同上	"	同上
	鬼頭鍋三郎	マドモアゼルM	同上	"	同上
	鬼頭鍋三郎	西洋婦人	同上	"	同上
	鬼頭鍋三郎	アルカンタラ橋	同上	"	同上
	鬼頭鍋三郎	紫陽花	同上	"	同上
	鬼頭鍋三郎	紫威花	同上	"	同上
	鬼頭鍋三郎	春装譜	同上	"	同上
	鬼頭鍋三郎	宵山に	同上	"	同上
4.	フランティシェク・クブカ フランティシェク・クブカ	灰色と金色の展開 白と黒の4つの物語	宮城県美術館・世田谷美術館 同上	1994.5.15-1994.9.10 "	クプカ展 同上
5.		七宝制作工程見本	名古屋国際ホテル・岐阜高島屋・ 中部近鉄四日市店	1994.5.19-1994.5.20	(社)日本工芸会東海支部各 部会制作工程研修会/第25 回東海伝統工芸展
6.	平川敏夫 平川敏夫	樹峠 黄山松雨	松坂屋美術館 同上	1994.5.24-1994.6.28 "	平川敏夫屏風展 同上
7.	ロバート・ラウシェンバーグ	コース	国立国際美術館	1994.5.26-1994.7.3	ジョーンズとラウシェンバ ーグ展
8.	エーリヒ・ヘッケル パウル・クレー エミール・ノルデ エミール・ノルデ	疲れ 喜劇役者 騎士 おしゃべり	北海道立帯広美術館・高崎市美術館・ 平塚市美術館 同上 同上 同上	1994.7.1-1994.10.31 " " " "	ドイツ表現主義の版画展 同上 同上 同上
9.	伊藤廉 里見勝蔵 林武	ギター奏者 裸婦 石膏像のある静物	北海道立三岸好太郎美術館 同上 同上	1994.7.14-1994.8.28 " " "	三岸好太郎と独立展創立の 画家たち 同上 同上
10.	小磯良平 猪熊弦一郎 伊勢正義 伊勢正義 伊勢正義 伊勢正義 伊勢正義 伊勢正義 鈴木誠	室内A 馬と裸婦 鳩と少年 子供たち 椅子による 丘 青年 ローマにて 白い遺跡 横臥裸婦	秋田県総合生活文化会館	1994.7.18-1994.8.26	藤島武二と9人の若き洋画 家たち展

No.	作家名	作品名	貸出先、会場	貸出期間	展覧会名
11.	近藤弘明	幽光	平塚市美術館	1994.8.5-1994.9.20	近藤弘明展
12.	平松礼二	峠四題 4点	名都美術館	1994.8.17-1994.10.9	平松礼二展
13.	高橋由一	厨房具	神奈川県立近代美術館・香川県文化会館・三重県立美術館・福島県立美術館	1994.8.19-1995.2.28	没後100年 高橋由一展
14.	横山大観	飛泉	郡山市立美術館	1994.8.22-1994.10.15	日本画家の青春
15.	前田寛治	褐衣婦人像	岡山県立美術館	1994.8.31-1994.10.20	1920年代ーパリの日本人画家
	海老原喜之助	雪山と樵	同上	"	同上
16.	木村荘八 大沢鉢一郎	壺を持つ女 大曾根風景	長野県信濃美術館 同上	1994.9.2-1994.10.20 "	河野通勢とその周辺 同上
17.	橋本雅邦 前田青邨 麻田鷹司	秋景山水 江島詣 鬼界ヶ島	福島県立美術館 同上 同上	1994.9.2-1994.10.30 " "	日本画の風景展 同上 同上
18.	山口薰	ボタン雪と騎手	練馬区立美術館	1994.9.2-1994.10.30	山口薰展
19.	田渕俊夫	すぎばやし	富山県立近代美術館	1994.9.6-1994.11.15	現代日本画の展開
20.	佐藤太清	旅の夕暮	板橋区立美術館	1994.9.14-1994.10.20	佐藤太清展
21.	工藤哲巳	累(うつ)しが(機がまわるマルセル・デュシャン)	国立国際美術館・岡山県立美術館	1994.9.20-1995.2.15	工藤哲巳回顧展
22.	安井曾太郎	承德喇嘛廟	東京国立近代美術館・京都国立近代美術館	1994.9.21-1994.12.27	写実の系譜IV[絵画]の成熟
23.	池田遙邨	稲掛け	倉敷市立美術館	1994.9.24-1994.11.13	池田遙邨
24.	林重義	舞妓(赤)	神戸市立小磯記念美術館	1994.9.24-1994.12.15	林重義没後50年展
25.	吉岡堅二 鬼頭鍋三郎	鶴 宵山に	石川県立美術館 同上	1994.9.27-1994.11.5 "	戦後日本の具象美術展 同上
26.	恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎 恩地孝四郎	「月映」から友病あり 他20点 卓上静物 Image No.2 Weiss Blume Lyrique No.24	横浜美術館・宮城県美術館・和歌山県立近代美術館 同上 同上 同上	1994.9.27-1995.2.28 " " "	恩地孝四郎展 同上 同上 同上
27.	麻生三郎	胴体と頭と電球	三重県立美術館・神奈川県立近代美術館・茨城県近代美術館・三重県立美術館	1994.9.29-1995.3.19	麻生三郎展
28.	野口弥太郎	門	青梅市立美術館	1994.10.1-1994.10.30	1930年協会回顧展
29.	北川民次	南国の花	瀬戸市文化センター	1994.10.1-1994.10.31	北川民次展
30.	牛島憲之	埋れる船	リアス・アーク美術館	1994.10.14-1994.12.11	境界の風景
31.	クルト・シュヴィッタース	メルツ絵画52 美容	ポンピドゥー芸術文化センター/IVAMフリオ・サンザ レス・センター、パレンシア/グルノーブル美術館	1994.10.17-1995.11.30	クルト・シュヴィッタース展

No.	作家名	作品名	貸出先、会場	貸出期間	展覧会名
32.	戸張孤雁	煌めく嫉妬	小田原市郷土文化館	1994.10.18-1994.11.9	戸張孤雁展
	戸張孤雁	トルソ	同上	"	同上
	戸張孤雁	立てる女	同上	"	同上
33.	前田青邨	江島詣	山種美術館	1994.10.22-1994.11.30	前田青邨展－その人と芸術
	前田青邨	雨の蘇州	同上	"	同上
	前田青邨	稚児文殊	同上	"	同上
34.	東郷青児	月夜	鹿児島市立美術館	1994.10.25-1994.12.8	東郷青児展
35.	エーリヒ・ヘッケル	新時代のドイツ美術展 I ポスター	滋賀県立近代美術館	1994.11.10-1994.12.28	アートベンチャー 冒険美術
	齊藤清	競艶	同上	"	同上
	木原康行	コンセプス(1,3,5,7,8,9)6点	同上	"	同上
	土谷武	植物空間	同上	"	同上
36.	星野真吾	喪中の作品 昇天	豊川地域文化広場	1994.11.11-1994.12.18	日本画家五人展
	大森運夫	島の鬼太鼓	同上	"	同上
	高畠郁子	聖界	同上	"	同上
37.	加山又造	黒い鳥	東京芸術大学芸術資料館	1994.11.16-1994.12.10	退官記念展加山又造
38.	グスタフ・クリムト	人生は戦いなり	東武美術館・山口県立美術館	1994.12.13-1995.3.29	ウィーンのジャポニズム展
39.	ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	姫路市立美術館・豊橋市美術博物館	1995.1.4-1995.3.21	デュフィ展
40.	中村聟	少女裸像	石橋財団ブリヂストン美術館	1995.1.5-1995.4.4	ルノワールと日本展
41.	古茂田守介	裸婦A	目黒区美術館	1995.1.5-1995.4.28	古茂田守介展
42.	香月泰男	散歩	下関市立美術館・そごう美術館（横浜）	1995.1.19-1995.4.10	香月泰男展



修復作品一覧

NO	作家名	作品名	種別	状態	修復内容	修復者
1	太田三郎	カフェの女 93-JP-001	版画	平面性の欠如、紙の酸化	旧台紙の除去、脱酸処理、 プレス、マット装	森京子(館内修復)
2	小野忠重	燈台の道 93-JP-005	版画	酸性紙製台紙への糊付け	旧台紙の除去、マット装	森京子(館内修復)
3	小野忠重	廣島の水 93-JP-006	版画	酸性紙製台紙への糊付け	旧台紙の除去、マット装	森京子(館内修復)
4	アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間 89-FS-003	立体	コーティングの劣化、 雨水等の内部蓄積、 回転軸及び内部構造物の劣化(鉄部の腐食)	再研磨、再コーティング、 大型クラックのパテ埋、 内部の水抜口(ドレン)の設置	山岸鋳金(館内修復)
5	薮野正雄	砂上 93-JO-003	洋画	絵の具層の浮き、剥落、 支持体の劣化	膠による剥落留、 旧補彩の除去、 ルースライニング	高澤学院創形修復研究所
6	キルヒナー、ヘッケル 等	ブリュッケ版画集 91-FP-002	版画	形状冊子(ステップル留)、 紙の酸化	解体・画面洗浄、 一部マット装(10点)、 継ぎ代の追加(将来的に再製作可)	森京子(館内修復)
7	近藤文雄	あいつ 94-JD-001	素描	酸性紙製マットにボンドによる糊付	旧マットの除去 接着剤の除去、マット装	森京子(館内修復)
8	近藤文雄	裁き 94-JD-002	素描	酸性紙製マットにボンドによる糊付	旧マットの除去 接着剤の除去、マット装	森京子(館内修復)
9	近藤文雄	さらしもの 3 94-JD-003	素描	酸性紙製マットにボンドによる糊付	旧マットの除去 接着剤の除去、マット装	森京子(館内修復)
10	近藤文雄	M氏の肖像 94-JD-004	素描	酸性紙製マットにボンドによる糊付	旧マットの除去 接着剤の除去、マット装	森京子(館内修復)
11	近藤文雄	6人の盲人たち 94-JD-005	素描	酸性紙製マットにボンドによる糊付	旧マットの除去 接着剤の除去、マット装	森京子(館内修復)
12	近藤文雄	連なるとみえて 94-JD-006	素描	酸性紙製マットにボンドによる糊付	旧マットの除去 接着剤の除去、マット装	森京子(館内修復)

状態調査作品一覧

NO	作家名	作品名	制作年	技法材料	調査目的	調査者
1	ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906	油彩、麻布	修復計画	森直義
2	E.R.キルヒナー	グラスのある静物	1912	油彩、麻布	修復計画	森直義
3	F.クプカ	灰色と金色の展開	1919	油彩、麻布	修復計画	森直義
4	K.シュヴィッタース	マルツ絵画305 ロボジツ	1921	コラージュ、着色、紙	保存方法計画	森直義
5	パウル・クレー	回心した女の堕落	1939	グアッシュ、油彩、紙	保存方法計画	森直義
6	ルーチョ・ファンタナ	空間概念	1960	水性絵具、麻布	修復計画	森直義
7	伊東深水	大島の黎明	1916	絹本着色、軸	再装軸計画、保存計画	岡墨光堂
8	上村松策	玄鶴	1968	紙本着色、2点1対	修復計画	岡墨光堂
9	小茂田青樹	漁村早春	1921	紙本着色	修復計画	岡墨光堂
10	加山又造	黒い鳥	1957	紙本着色	修復計画	岡墨光堂
11	川崎千虎	佐々木高綱被甲図	1884	絹本着色、軸	再装軸計画、保存計画	岡墨光堂
12	川崎千虎	頼朝朽木隠れ		紙本着色、軸	再装軸計画、保存計画	岡墨光堂
13	竹内栖鳳	狐狸図	1908頃	絹本墨画淡彩、六曲一双	再装軸計画、保存計画	岡墨光堂
14	中川とも	歎異鈔	1968	紙本着色	修復計画	岡墨光堂
15	中村正義	爽爽	1966	紙本着色、四曲一双の右	再装軸計画、保存計画	岡墨光堂
16	中村正義	おねえちゃん	1968	紙本着色、六曲一双	修復計画	岡墨光堂
17	中村岳陵	芦に白鷺鶴鶴図	1921頃	絹本着色、六曲一双	再装軸計画、保存計画	岡墨光堂
18	橋本雅邦	秋景山水図	1887頃	紙本着色、軸	再装軸計画、保存計画	岡墨光堂
19	速水御舟	西郊小景	1923	紙本着色	再装軸計画、保存計画	岡墨光堂
20	藤井達吉	山芍薬		紙本着色、軸	再装軸計画、保存計画	岡墨光堂
21	山元春挙	渓村暮靄図	1897頃	絹本墨画淡彩、軸	再装軸計画、保存計画	岡墨光堂
22	A.ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984	鉄骨構造体にブロンズ	修復計画 山岸鋳金工房 (表層部、腐食部の X線回折はアグネ 技術センター)	山岸鋳金工房 (表層部、腐食部の X線回折はアグネ 技術センター)
23	柳原義達	風の中の鳩	1982	ブロンズ	修復計画	山岸鋳金工房 (表層部、腐食部の X線回折はアグネ 技術センター)

教育普及

Educational Service

1994年度は下記の事業を実施した。

1) 展覧会カタログ等の資料作成

『画業70年のあゆみ 杉本健吉展』

A4判変形、191ページ、1994.5編集・発行

『シカゴ美術館展－近代絵画の100年－』

B5判変形、281ページ、1994.4発行（共同編集）

『レジェ展』

A4判変形、219ページ、1994.4発行（翻訳参加）

『聖なるかたち 後期ゴシックの木彫と板絵』

－アーヘン市立ズエルモント＝ルートヴィヒ美術館所蔵－』

A4判変形、279ページ、1994.4発行（共同編集）

『没後20年 香月泰男展』

A4判変形、277ページ、1994.11編集・発行

『アンドリュー・ワイエス展 アメリカの郷愁－心の風景を描く』

A4判変形、266ページ、1995.2編集・発行

『愛知県美術館所蔵作品展 1994年度 第Ⅰ期』

21.5×11.5センチ 15ページ 1994.3発行

『愛知県美術館所蔵作品展 1994年度 第Ⅱ期』

21.5×11.5センチ 23ページ 1994.6発行

『愛知県美術館所蔵作品展 1994年度 第Ⅲ期』

21.5×11.5センチ 10ページ 1994.9発行

『愛知県美術館所蔵作品展 1994年度 第Ⅳ期』

21.5×11.5センチ 14ページ 1994.11発行

『オットー・ディックス 戦争』

21.5×11.5センチ 14ページ 1994.7発行

『聖なるかたち 鑑賞のてびき』

21.5×11.5センチ 8ページ 1994.9発行

『香月泰男〈シベリヤ・シリーズ〉作者の言葉による全作品解説』

21.5×11.5センチ 14ページ 1994.11発行

『エルンストの挿絵本と版画』

21.5×11.5センチ 8ページ 1994.11発行

『〈山頂の石蹴り〉へ 中西夏之』

21.5×11.5センチ 16ページ 1995.2発行

『愛知県美術館【展覧会】のご案内』

リーフレット 1994.3発行

2) 企画展関連の記念講演会の開催

『画業70年のあゆみ 杉本健吉展』

記念講演会：5月21日(土)

講師：杉本健吉

聞き手：浅野徹（愛知県美術館長）

『シカゴ美術館展』

第1回記念講演会 7月2日(土)

講師：栗田秀法（愛知県美術館学芸員）

第2回記念講演会 7月16日(土)

講師：國府寺司（広島大学助教授）

『レジェ展』

記念講演会 8月27日(土)

講師：村上博哉（愛知県美術館学芸員）

『聖なるかたち』

*美術講座として「聖人と人間」と題し、全5回の講演会を開催した。

第1回：9月24日(土)「ゴシックのステンドグラスを読む」

講師：木俣元一（名古屋大学助教授）

第2回：10月14日(金)「後期ゴシックの木彫」

講師：田辺幹之助（国立西洋美術館主任研究官）

第3回：10月15日(土)「民衆と聖人信仰」

講師：阿部謹也（一橋大学学長）

第4回：10月21日(金)「描かれた聖女たち－後期ゴシックのフランドル絵画－」

講師：寺門臨太郎（愛知県美術館学芸員）

第5回：10月22日(土)「中世末期の女性のアレゴリー」

講師：川上実（愛知県立芸術大学教授）

『香月泰男展』

記念講演会 12月4日(日)

講師：馬場駿吉（名古屋市立大学教授／美術評論家）

『アンドリュー・ワイエス展』

第1回記念講演会 3月5日(日)

講師：早川博明（福島県立美術館学芸課長）

第2回記念講演会 3月11日(土)

講師：小此木啓吾（慶應義塾大学教授）

3) ビデオテークでのAV機器を利用した鑑賞教育

ア ハイビジョン番組の制作

所蔵作品ならびに企画展に関する番組を制作した。

「安田敦彦 『月の兎』」

イ ビデオ番組の制作

「北山善夫の世界」

ウ 所蔵作品画像検索情報の作成

既に公開している250件の画像情報に追加するため、新たに50件の画像情報を制作した。

4) ワークシートの制作とそれによる鑑賞教育の実施

小・中学生を対象とした所蔵作品に関するワークシートを発行し、所蔵作品展観覧の小・中・高校生に配布した。作品はサム・ランシス《消失にむかう地点の青》、ラウル・デュフィ《サンタドレスの浜辺》を取り上げた。また、企画展「アンドリュー・ワイエス展」を観覧の小学生を対象にセルフ・ガイド（A4判4ページ）を配布した。

5) 移動美術展

(1) 名称

愛知県美術館所蔵 20世紀の美術

(2) 主催

愛知県美術館／財団法人愛知県文化振興事業団／南知多町

(3) 開催期間

1994年10月8日(土)～10月16日(日)

(4) 会場

南知多町総合体育館 サブアリーナ

(5) 観覧料

無料

(6) 展示内容ならびに展示点数

日本の近、現代の洋画を中心とし、これに海外の作品も加え20世紀の美術の展開を38点で紹介。

展示作品：〈絵画〉黒田清輝「花と猫」1906年／坂本繁二郎「海辺の家」1915年／岸田劉生「高須光治君之肖像」1915年／太田三郎「婦人像」1915年頃／佐伯祐三「自画像」1917年／宮脇晴「自画像」1920年／林俊衛「サント・ヴィクトワール」1925年／佐分真「裸婦」1925年頃／萬鐵五郎「紅葉風景」1926年／萬鐵五郎「水郷風景」1926年／小島善太郎「房州風景」1930年／野口弥太郎「摩周湖」1939年／川口軌外「二婦」1939年／岡田謙三「窓辺(ノクターン)」1948年／矢橋六郎「牡丹」1949年／岡鹿之助「窓(橋)」1949年／児島善三郎「伊豆の海」1951年／鬼頭鍋三郎「二人のバレリーナ」1952年／三岸節子「魚とインカの壺」1952年／桂ゆき「人と魚」1954年／瑛九「白い輪」1954年／金山康喜「静物」1956年／北川民次「砂の工場」1959年／福沢一郎「王、王妃及び見者」1959年／鳥海青児「石の街(ペルー・マチュピチュ)」1961年／難波田龍起「萌」1961年／荻須高徳「サン・ドニ(2)」1964年／小磯良平「婦人像」1965年／上田薰「なま玉子G」1976年／猪熊弦一郎「地図の中の日曜日」1979年／高田誠「アルプス雨後」1979年／元永定正「しおりひかりのあか」1982年／三尾公三「鏡の前」1982年／ピエール・ボナール「子供と猫」1906年頃／アンリ・マティス「待つ」1921～1922年／エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー「日の当たる庭」1935年
〈立体〉エミール＝アントワーヌ・ブルデル「勝利の像」1919年／舟越保武「シオン」1979年

(7) 教育普及事業

- ・鑑賞ガイド……この展覧会のために、主な作品の鑑賞ポイントを簡単に解説したガイドを作成した。B5判4ページ。
- ・講演会……美術館長による講演会を会期初日の10月8日(金)に開催。約80人の参加。
- ・鑑賞会……学芸員による鑑賞会を10月14日(金)の昼と夜に2回開催(講師:村田真宏、昼12名、夜20名の参加)。
- ・団体解説……中学校の団体見学へのガイダンスのほかに、事前申し込みによるグループへの解説を展覧会場で随時行った。

(8) 観覧者数……3,190人

(9) 業務分担

- ・美術館………展覧会の内容にかかわること

(展覧会の構成、作品の輸送展示、講演会等の普及事業等)

- ・事業団………基本経費の執行にかかわること(輸送展示費、展示工事費、保険料、広報印刷物の作成等)
- ・南知多町………会場の提供と運営ならびに広報にかかわること(会場管理、特別警備の実施、町内外への広報と動員等)

6) 美術館友の会

(1) 名称

愛知県美術館友の会

(2) 経緯

1994年9月17日 設立発起人会開催

会員募集

10月1日 友の会発足

10月22日 聖なるかたち展鑑賞会

1995年1月12日 友の会理事会

香月泰男展鑑賞会

2月4日 アンドリュー・ワイエス展鑑賞会

3月以降 会員募集

4月20日 ウィーンのジャポニズム展鑑賞会

(3) 会員数

1995年3月末現在

総数 250 (男:113 女:135 その他:2)

内訳 一般会員 224人

特別会員(個人) 24人

特別会員(団体) 2団体

(4) 事業概要

- ・企画展鑑賞会の実施

- ・展覧会の広報活動

- ・会報の発行 など

7) 第4回国際美術映像ビエンナーレへの参加

1994年10月にパリのポンピドゥーセンターで開催された第4回国際美術映像ビエンナーレに、美術館の教育普及用のビデオ番組として1992年に自主制作した「戸谷成雄の世界」を出品し入選した。この番組はパリ、ケルン等で上映された。

8) 博物館実習生の受け入れ

本年度は、下記の通り計7名の博物館実習生を受け入れた。

8月1日～5日

近藤美幸(多摩美術大学4年)

長屋光枝(名古屋大学大学院前期課程2年)

山田真規子(名古屋大学大学院前期課程2年)

永井仁絵(名古屋芸術大学4年)

磯畑みか(金沢美術工芸大学4年)

宮崎幹子(愛知淑徳大学大学院前期課程1年)

韓美愛(名古屋大学研究生)

学芸員の調査研究

- 浅野徹
 ・「素描即タブロー—杉本健吉氏の絵の魅力—」
 『杉本健吉展』カタログ
 ・「シベリア・シリーズと初期作品—香月泰男展に寄せて—」『香月泰男展』カタログ
- 木本文平
 ・「章解説」「作品解説」「杉本健吉年譜」「杉本健吉関係文献」『杉本健吉展』カタログ
 ・「杉本健吉展」『AAC』8号
 ・「阪神・淡路大震災被災文化財等救援委員会(平成7年2月14日文化庁次長裁定による)救援ボランティア」に参加、災害時の対応についての調査研究
- 栗田秀法
 ・「作品解説」『シカゴ美術館展』カタログ
 ・「アルルのファン・ゴッホ、ゴーギャンとジャポニスム」『AAC』8号
 ・「展覧会カタログの歴史」『AAC』10号
 ・「研究ノート ブッサン作《キリストの洗礼》について」『愛知県美術館研究紀要』第2号
- 坂下雄彦
 ・「杉本健吉—生い立ちから“奈良”への途—」
 「作品解説」『杉本健吉展』カタログ
- 高橋秀治
 ・「ワイエス—その内なる世界」『アンドリュー・ワイエス展』カタログ
 ・「ワイエス家訪問」『AAC』11号
- 寺門臨太郎
 ・「マリア、バテシバ、エヴァの系図と初期フランドル絵画」『聖なるかたち』カタログ
 ・『聖なるかたち 鑑賞の手引き』
 ・『聖人と人間』『AAC』9号
 ・『序文』『オットー・ディックス 戦争』(所蔵作品展パンフレット)
- 長屋菜津子
 ・「愛知県美術館の状態調書(試案)の報告」、
 全国美術館会議第4回保存ワーキング・グループ(1994年8月23日)
 ・「愛知県美術館の保存環境の現状について」、
 東京国立文化財研究所『文化財施設の保存環境に関する共同研究』(1995年3月2日)
- 押戸雅彦
 ・「再出発点としての絵画の「零度」」「作品解説」『シカゴ美術館展』カタログ
 ・「アルベルティ『絵画論』研究状況—アルベルティのもう一つの世界」『愛知県美術館研究紀要』第2号
 ・「亡命する芸術」『AAC』8号
 ・「青騎士年鑑」『AAC』9号
 ・「mETRO」『AAC』11号
- 藤島美菜
 ・「ワイエス年譜／主要展覧会歴」「文献目録」
- 『アンドリュー・ワイエス展』カタログ
 ・『ワークシート サム・ランス《消失に向かう地点の青》』
 ・『ワークシート ラウル・デュフィ《サンタドレスの浜辺》』
 ・「日本で作成されたワークシートの属性分析の試み(共同調査発表)」第6回アミューズ・ヴィジョン研究会(1994年6月4日)
 ・「所蔵作品展ワークシート」についてその後のアンケートをもとに第6回アミューズ・ヴィジョン研究会(1994年6月4日)
 ・「愛知県美術館移動美術展について、および移動美術展のため的一般むけセルフガイドの作成について」第7回アミューズ・ヴィジョン研究会(1994年11月3日)
- 古田浩俊
 ・「香月泰男展覧会歴」「文献目録」『香月泰男展』カタログ
 ・「レジェ展」『AAC』9号
- 牧野研一郎
 ・「香月泰男 初期作品の成立に関する試論」「章解説」「香月泰男年譜」「香月泰男展」カタログ
 ・「香月泰男展」『AAC』10号
- 深山孝彰
 ・「序文」『エルンストの挿絵本と版画』(テーマ展パンフレット)
 ・「〈山頂の石蹴り〉ドローイング」「中西夏之—〈山頂の石蹴り〉へー」(テーマ展パンフレット)
 ・「オットー・ディックス 銅版画集《戦争》」『AAC』9号
 ・「エルンストの挿絵本と版画」『AAC』10号
 ・「館蔵資料研究 戸張孤雁の版本について」『愛知県美術館研究紀要』第2号
- 村田真宏
 ・「美術館と画像データベース」シンポジウム(パネラーとして参加)ハイビジョン・ミュージアム推進協議会(1995年2月28日)
 ・「阪神・淡路大震災被災文化財等救援委員会(平成7年2月14日文化庁次長裁定による)救援ボランティア」に参加、災害時の対応についての調査研究

愛知県美術館所蔵
20世紀の美術



1994年10月8日(土)～10月16日(日)
午前10時～午後5時 (14日(金)・15日(土)は午後8時まで)
会場／南知多町総合体育館・サブアリーナ [入場無料]
主催／愛知県美術館・(財)愛知県文化振興事業団・南知多町

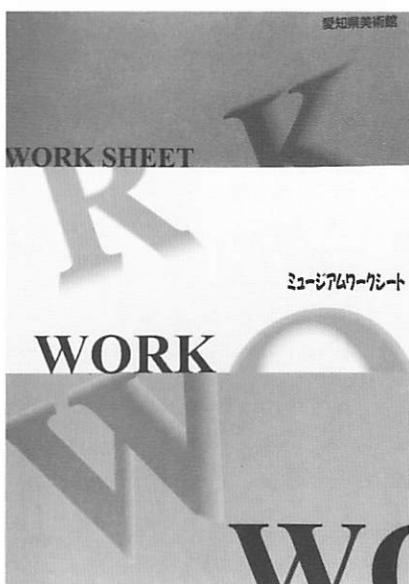
FROM THE COLLECTION OF AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART



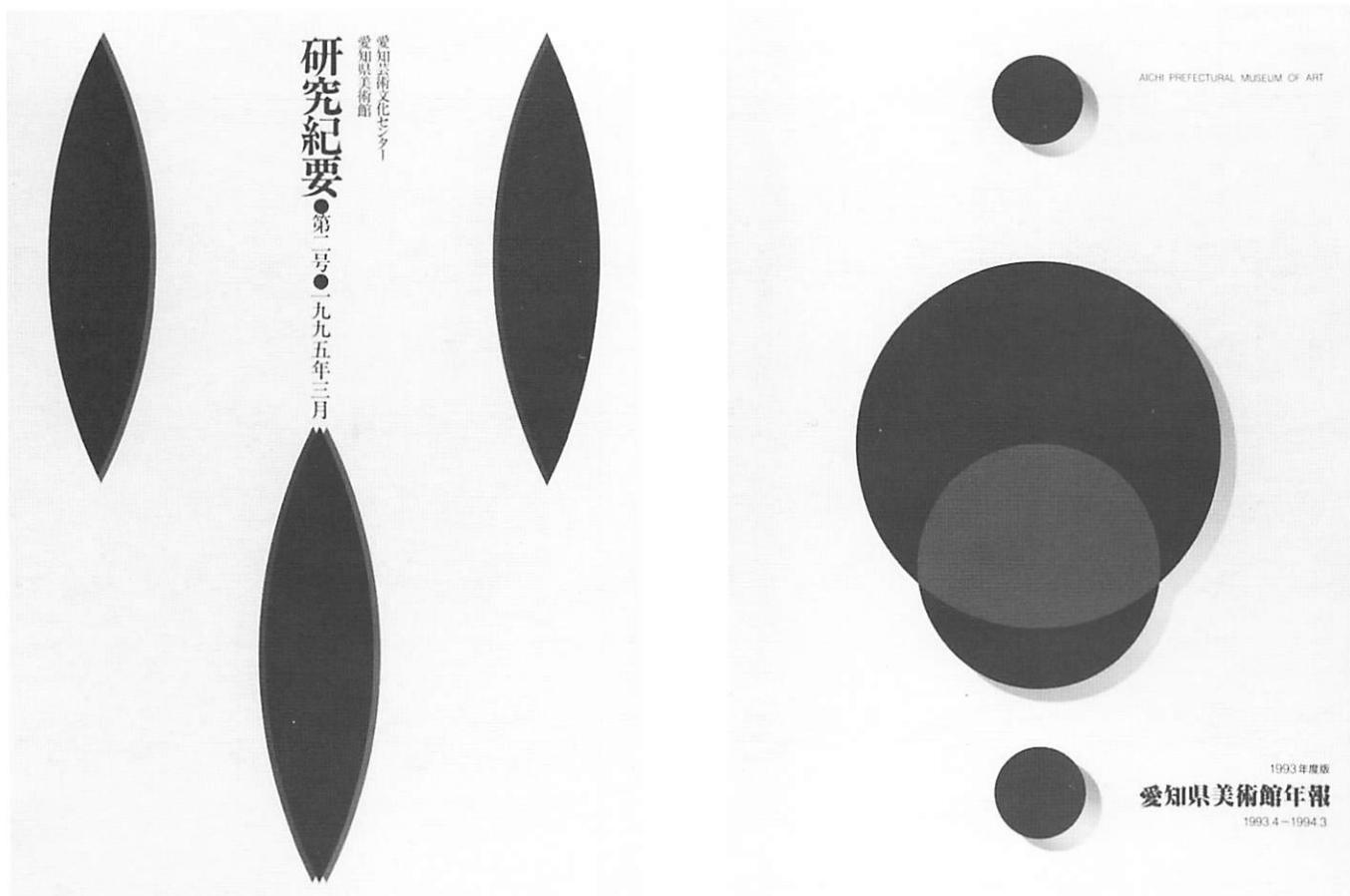
展覧会スケジュール



ワークシート サム・フランシス《消失に向かう地点の音》表紙



ワークシート ラウル・デュフィ《サンタドレスの浜辺》表紙



研究紀要表紙

年報表紙

貸館事業（ギャラリー）

Galleries for Rent

ア 利用状況（1994年度）

美術館ギャラリーの展示室において開催された展覧会は、159件で、各展示室の利用率は、すべて100%でした。また入場者数は95万人となっており、多数の県民に親しまれ、利用されました。

(ア)展示室別利用状況

利 用 月	展 示 室 别 利 用 日 数										
	A室	B室	C室	D室	E室	F室	G室	H室	I室	J室	審査保管室
											第 1
1994年 4月	26日	26日	26日	26日	26日	26日	26日	26日	26日	26日	14日 22日
5月	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	6 18
6月	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	3 14
7月	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	13 31
8月	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	9 20
9月	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	8 16
10月	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	16 23
11月	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	17 9
12月	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	6 14
1995年 1月	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	5 9
2月	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	— —
3月	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	2 15
計	298	298	298	298	298	298	298	298	298	298	99 191
利用可能日数(A)	298日	298日	298日	298日	298日	298日	298日	298日	298日	298日	358日 358日
利用日数(B)	298日	298日	298日	298日	298日	298日	298日	298日	298日	298日	99日 191日
利用率(B/A)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	27.7% 53.4%

(イ)展覧会種別利用状況及び入場者数

利 用 月	展 覧 会 種 别 利 用 件 数								入場者数
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	
1994年 4月	4 件	6 件	— 件	— 件	3 件	— 件	— 件	13 件	41,836 人
5月	4	5	2	—	4	—	—	15	47,189
6月	3	4	2	2	4	—	—	15	41,440
7月	7	4	—	1	4	—	2	18	302,812
8月	6	6	—	—	3	—	—	15	52,240
9月	6	3	—	—	2	1	2	14	55,746
10月	5	4	—	—	1	1	—	11	130,232
11月	6	5	—	1	2	—	—	14	40,687
12月	5	7	—	—	4	1	—	17	35,245
1995年 1月	2	5	—	1	1	—	—	9	151,119
2月	2	—	—	—	1	2	—	5	20,405
3月	2	5	—	—	4	1	1	13	39,935
計	52	54	4	5	33	6	5	159	958,886

(注)総合展とは、複数の種別にまたがる展覧会であり、規模の大小には関係ない。件数及び入場者数は、展覧会会期の初日の属する月で整理。

(ウ)国民体育大会スポーツ芸術主催事業について

1994（平成6）年に愛知県において開催された第49回国民体育大会の事業の一環として、ギャラリーにおいて次のスポーツ芸術主催事業が実施された。

事業の名称	会 期	内 容	備考
～時代をこえる技術～ 「からくり夢工房」展	10月20日－11月6日 (17日間) 72,328人	山車からくり、座敷からくり 西洋からくり、覗きからくりなど、東西のあらゆるジャンルの からくり約750点が出品される 我国最大規模のからくり展	日本体育 協会、文 部省、愛 知県、名 古屋市ほ か
特別展 「国体のある風景」	10月25日－11月6日 (13日間) 32,476人	「わかしやち国体」の各競技会 場地をテーマとした風景絵画展	

(エ)その他

事業の名称	会 期	内 容	備考
大ナポレオン展	7月7日－7月31日 (22日間) 176,343人	絵画、彫刻、王冠、直筆原稿 など、英雄ナポレオンの劇的な 生涯と業績を伝える約500点の 作品・資料を日本初公開	東京富士 美術館

1994年度ギャラリー展示室利用団体一覧表

月	1994年 4月		5月				
日	4	5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30				
曜日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	
A					中部		
B	中部	白日展	美術文化展	光風会展	一陽展		
C	二紀展			以文会		国展	
D				書展	創炎展	春陽展	
E							
F	東方展		中部	日彫	東海展		
G		水彩連盟展	一水会展				
H	牛刀書道展			玄之会書展	版画伍人展		
I					春艸会展		
J	書玄展	青炎展	東海地区	蒼翔会展	書道東門展	中部	
			正筆会展	一丘会展	千紫会書展	近代水墨 画院展	
						創彫会展	
月	6月		7月				
日	31 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 1						
曜日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	
A					三軌会展		
B			日府展	示現会展	モダン	現展	
C	春陽展	中日	新世紀展		アート展	第一美術展	
D		書道展	施設	日本現代	収蔵庫	光陵展	
E			施設	工芸美術展	大ナボ	レオン展	
F		点検	施設	中部	燻蒸		
G			点検	染色展	グループ・ウム展		
H		日	新美術展	中部	JPS展	独立愛知書展	
I			日	旺玄会展	一樹会展	玉信書展	
J	聰美会展	瀬戸造形集團展	NSG	春月	好古篆刻展	臥龍桜	
	風の会展	耕彫刻展	彫刻展	愛知一東書道会展	カニ会展	日本画大賞展	
月	8月		9月		10月		
日	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 1 2						
曜日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	火 水 木 金 土 日	
A							
B	太平洋展	日本水彩展	形象派展	毎日書道展	白士会展	読売書法展	
C				中部総合		主体展	
D				美術展		二科展	
E						BAK展	
F						秋季東美展	
G	二元展	新象展	玄玄展		中部	スペースコン	
H					美術文化展	日本アリズム	
I						セブション	
J	真空感展	あいち	遊心書展	欣美会展	中部	写真集団 視点展	
		平和美術展	YAG美術展	中部果の会展	中連写真展	チャンバ王国の	
				一線美術展	J.A.展	跡と文化展	
						中日クリエーターズ	
						クラブグラフィック展	

管理・運営

Basic Concept/Major Objectives

美術館運営の基本方針

美術館の運営に当たっては、次に掲げる基本理念等のもと、県民に親しまれる事業展開を図ることとしている。

● 基本理念

県民の芸術文化ニーズの高度化・多様化に応えていく美術館として、我々の生きる“現代の視点”に立ち、美術文化の動向とその新たな展開に積極的に取り組んでいく、“活動する”美術館をめざす。

● 基本的性格

ア 美術文化の将来を切り拓く視点の確保

現代美術の動向を踏まえつつ、他の芸術分野との結びつきも含めた新しい美術文化動向に柔軟に対応する。

イ 中部圏の美術文化の発振力向上への寄与

中部圏を中心とする美術館等の協力と連係による活動のセンター的性格を有することにより、美術文化の発振力の向上に寄与する。

ウ 國際的な美術文化の交流の場

国際的な視野にたった美術文化の交流を促進する上で、わが国の拠点の一つとして活動し、その中から新たな創造の芽を育む。

エ 日常生活と美術文化がコミュニケーションする場の形成

日常生活の中で気軽に優れた美術に接することができ、その中で親しみや潤いの得られる開かれた美術館とする。

オ 県民の参加による積極的な活動の展開

あらゆる世代の県民が美術について知性・感性を磨き、また、創造の喜びを味わうことのできるような活動の場としての美術館をめざす。

カ 複合機能を活かした柔軟な活動の展開

複合施設としての芸術文化センターの一翼を担う美術館として、その諸機能を活かして他部門の協力のもと、施設枠を超えた機能・スペースの活用などにより、広がりと多様性のある展示等を柔軟に展開する。

● 事業展開

ア 収集・保存

旧美術館の30余年にわたるコレクションに加え、以下の収集方針のもとにコレクションの一層の充実をめざして収集に取り組んでいる。

(ア) 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解するうえで役立つ作品

(イ) 現代を刻印するにふさわしい作品

(ウ) 愛知県としての位置を踏まえた特色あるコレクションを形成する作品

(エ) 上記の作品・作家を理解するうえで役立つ資料

収集した美術品を良好な状態に保ち、後世に伝えてい

くために、作品の保存には十分な配慮が払われねばならない。そのため、5階及び6階に収蔵庫、5階に企画保管庫、修復室などの設備などが設けられており、保存・修復の専門的な知識と経験をもった専門の学芸スタッフが配属されている。

イ 調査研究

作品収集や企画展開催の基盤となるのは、豊かな経験と知識を有する学芸スタッフによる専門的で幅広い研究活動である。研究用の施設として5階に撮影室と暗室、11階に研究資料室が設けられている。その他、調査研究に欠くことのできない文献資料は、貴重な「西洋美術文献資料」22,398冊を含め、1階のアートライブラリーに収蔵されている。

ウ 企画展示

美術館の企画による展覧会は、10階の展示室1～3で開催される。美術の様々な領域に目を向け、歴史に残る優れた芸術家の回顧や新しい美術動向の紹介など、多彩なテーマの企画展を概ね下記の方針に沿って開催している。

(ア) 20世紀美術を系統的に紹介する国際展

(イ) 世界の現代美術を紹介する国際展

(ウ) 時代・地域に限定されない国際展

(エ) 近代日本美術に関するテーマ展、回顧展

(オ) 現代日本美術に関するテーマ展、個展

(カ) 愛知県、東海地域に関する美術展

(キ) 地域に関連の深い近現代作家の小規模展または学芸員の研究成果をもとにした小規模展

エ 所蔵作品展示

美術館が収集した作品は、10階の展示室4～8及び10階と12階に設けられた屋外展示スペースで、原則として以下の展示構成に基づいて公開している。

展示室4 20世紀前半の国内外の美術動向の展示

展示室5 20世紀後半の国内外の美術動向の展示

展示室6 音や光を伴う作品の展示、各種のテーマによる特集展示

展示室7 近現代日本画の展示

展示室8 20世紀版画・素描の展示

屋外展示スペース 屋外での展示が望ましい大型彫刻・立体の展示

展示室の一部に自然光を取り入れるなど、個々の作品を最適の条件のもとで鑑賞できるように配慮されている。これらの展示室、展示スペースを一巡することにより、20世紀初頭から今日に至るまでの国内外の美術の歴史的展開をたどることができる。また、各展示室の基本的性格に基づいたテーマ設定を行い、年間4～6回の展示替

えを行っている。

オ 教育普及

あらゆる世代の人々が美術に対する親しみと理解を深めることができるよう、以下の活動を行っている。

(ア) 10階ビデオテークでのAV機器による情報提供

54インチハイビジョンプロジェクター2台に企画展の見所や展示作品の解説、所蔵作品に関連するものなどのビデオソフトを放映し、作品鑑賞の手引きとしている。また、32インチハイビジョン受像機2台を備えた画像検索ブースでは、所蔵作品をはじめとする美術作品を、精細な静止画像と文字情報を組み合せて紹介している。

(イ) 移動展

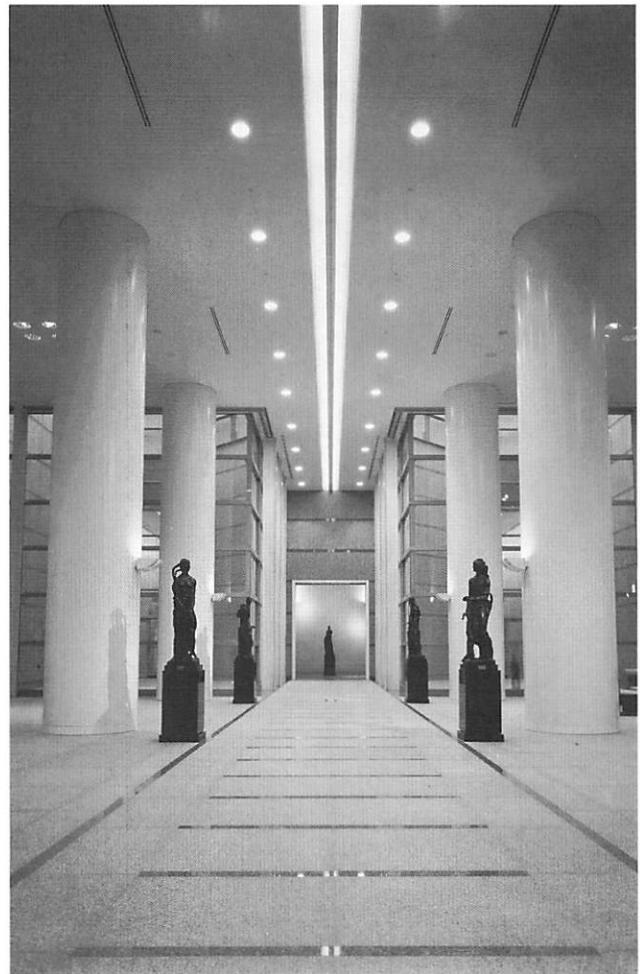
美術館の活動を日常的に利用することが困難な地域において、年に1～2回、所蔵作品の公開とこれに関する講座・講演等を行う。

(ウ) 講座・講演会

12階のアートスペースにおいて、外部講師または当館学芸員による企画展に関連した講演会や様々なテーマによる定期講座を開いている。

カ ギャラリー

8階の展示室A～Jでは、公募展、団体展から地域の人々による作品発表まで多彩な展覧会が行われている。10室ある展示室は、展覧会の規模や性格に応じて自由に使い分けることが可能となっている。



8階ギャラリー

施設概要（展示・保存環境等）

Facilities and Equipment

作品展示

ワイヤーによる壁面展示、小型作品は壁面釘止め可能

固定展示ケースのほか移動型展示ケース、展示台等保有

区分	室名	固定壁長	可動壁長	ケース長	床材	天井高	積載荷重t/m ²
企画・所蔵作品展示室(10階)	展示室1	68.0	25.2	28.0	タイルカーペット	4.50	1
	展示室2	102.0	126.5	28.5	タイルカーペット	5.50	1
	展示室3	32.5	—	—	タイルカーペット	3.50	1
	展示室4	53.2	24.0	17.5	ナラフローリング	5.35	1
	展示室5	82.5	67.2	21.0	ナラフローリング	6.00	1
	展示室6	32.2	—	—	タイルカーペット	6.25	0.5
	展示室7	37.0	—	20.0	タイルカーペット	4.00	1
	展示室8	36.8	—	20.5	タイルカーペット	4.50	1
	前室2	—	—	3.6	タイルカーペット	—	—
	展示室A	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
ギャラリー展示室(8階)	展示室B	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室C	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室D	62.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室E	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室F	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室H	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.50	1
	展示室I	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室G	79.0	30.0	—	長尺シート	4.90	1
	展示室J	70.0	—	—	長尺シート	5.80	1

(単位:m)

照明

区分	部屋名	照 明 器 具
企画・所蔵作品展示室(10階)	展示室1～4	ウォールウォッシャー(ハロゲン) +螢光灯間接照明 +スポットライト(着脱式)
	展示室5	自然光間接照明 +ウォールウォッシャー(ハロゲン) +螢光灯間接照明 +スポットライト(着脱式)
	展示室6	スポットライト(昇降トラス)
	展示室7～8	螢光灯ライン照明 +スポットライト(着脱式)
	展示ケース	螢光灯 +スポットライト(着脱式)
	展示室A～I	螢光灯ライン照明 +スポットライト(着脱式)
	展示室G	螢光灯ライン照明 +スポットライト(昇降トラス)
	展示室J	光天井(螢光灯+ルーバー) +スポットライト(着脱式)

すべて紫外線防止、高演色タイプ、無段階調光可能

空気調和

- 美術館(10階)、収蔵庫 各収蔵庫、展示室及び各展示ケースで独立空調可能、24時間運転、中性能フィルター及び化学吸着フィルター装備
- ギャラリー(8階) 各展示室で独立空調可能、8時間運転、中性能フィルター装備

区 分	展示室1～8	収 蔵 庫
設定温度	夏期 25°C	22°C
	冬期 22°C	
温度変化	1日 ± 1°C	
設定湿度	通年 55%(変更可能)	
湿度変化	1日 ± 3%	

区 分	展示室A～J
設定温度	夏期 25°C
	冬期 22°C
温度変化	1日 ± 2°C
設定湿度	通年 55%(変更可能)
湿度変化	1日 ± 6%

収蔵・保管設備

区 分	数	階	備 考
収蔵庫	4室	5,6	1,823m ²
企画保管庫	1室	5	178m ²
荷解梱包室	1室	5	94m ²
専用搬入口	2箇所	1	他に1箇所(B5)使用可能
専用昇降機	3機		最大積載量3.5t W3×D4×H3m

防災設備・体制

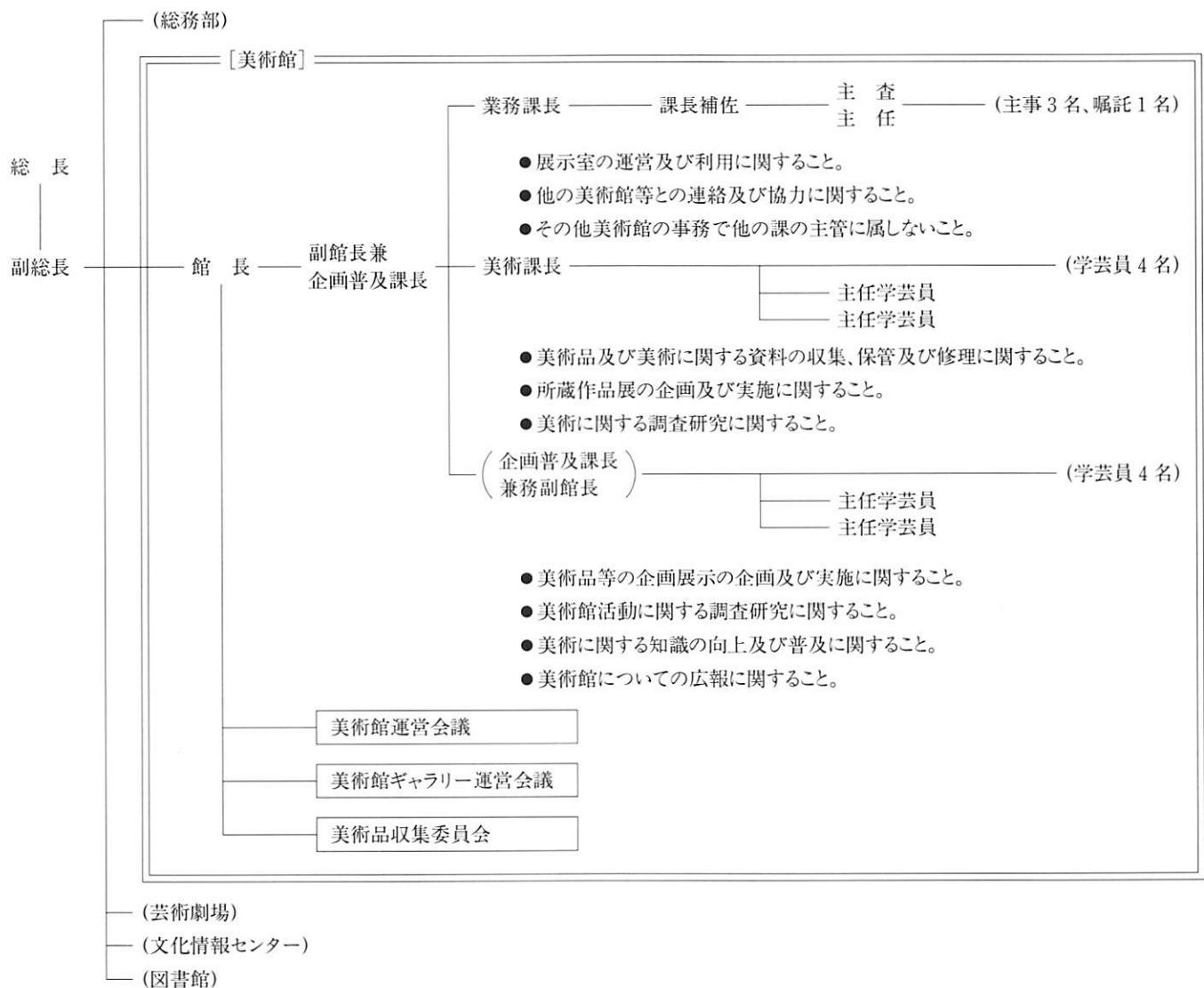
(ア) 防火：館内防災センターにて集中管理

区 分	種 别
火災報知器	複合GR型
煙感知器	光電式スポット型 1、2種他
熱感知器	差動式スポット型 2種他
消防装置	ハロンガス消火設備 (展示室、収蔵庫、企画保管庫等)
消 火 器	ABC型粉末消火器を館内各所に設置

(イ) 防犯：館内防災センターにて集中管理

区 分	内 容
警 備	24時間有人警備
展示監視	開館時には常時展示室内に監視員を配置 警備員と職員による巡回
監視カメラ	展示室等各所に設置 防災センター、事務室、学芸員室でモニタ ー可能
防犯センサー	赤外線センサーの設置
扉 管 理	展示室進入経路の各扉には開閉信号取 り出し機能
作品センサー	作品取り付けセンサーによる防犯システム
防犯ブザー	作品盗難防止用ブザーの取り付け可能

愛知県美術館組織図 Organization



■愛知県美術館職員名簿 (1995年3月)

館長	浅野 徹	美術課技師(学芸員)	村上 博哉
副館長兼企画普及課長	長谷川三郎	" "	深山 孝彰
業務課長	柴原 知幸	" "	寺門臨太郎
" 課長補佐	榎原 勝雄	" "	長屋菜津子
" 主査	成田 佳隆	企画普及課主任学芸員	高橋 秀治
" 主任	永井 陽子	" "	村田 真宏
" 主事	土屋 仁	" 技師(学芸員)	古田 浩俊
" "	高木 伸彦	" "	栗田 秀法
" "	水口 真司	" "	押戸 雅彦
美術課長	坂下 雄彦	" "	藤島 美菜
" 主任学芸員	木本 文平		
" "	牧野研一郎		

関係委員会名簿(1995年3月現在)

Members of Committees

■愛知芸術文化センター愛知県美術館運営会議委員名簿

秋田一彦 愛知県文化振興局長
陰里鐵郎 横浜美術館長
笠井誠一 愛知県立芸術大学美術学部教授
川上 實 愛知県立芸術大学音楽学部教授
酒井哲朗 三重県立美術館長
柴田 茂 愛知県文化振興事業団事務局長
清水 武 名古屋市博物館長
千足伸行 成城大学教授
建畠嘉門 愛知県立芸術大学学長
谷 隆夫 名古屋市美術館長
中村英樹 名古屋造形芸術大学教授
村田慶之輔 美術評論家
森田恒之 国立民族学博物館教授

■愛知県美術館ギャラリー運営会議委員名簿

秋田一彦 愛知県文化振興局長
石黒鏘二 彫刻家・行動美術協会会員
笠井誠一 愛知県立芸術大学美術学部教授
洋画家・立軸会会員
加藤清之 陶芸家・日展会員
柴田 茂 愛知県文化振興事業団事務局長
島田章三 洋画家・国画会会員
清水 武 名古屋市博物館長
高木桑風 中日書道会理事長
書家・日展会員
中村英樹 名古屋造形芸術大学教授
平川敏夫 日本画家・創画会会員
山脇一夫 名古屋市美術館学芸課長

■愛知県美術館美術品収集委員会委員名簿

内山武夫 東京国立近代美術館次長
陰里鐵郎 横浜美術館長
千足伸行 成城大学教授
中村英樹 名古屋造形芸術大学教授
村田慶之輔 美術評論家

美術館の利用状況

Statistics of Visitors

ア 企画展の開催状況

企画展名	会期	日数(日)	入場者数(人)	1日平均(人)
色彩の宇宙 クプカ展	1994年 4月 1日— 5月 8日	33	26,594	805
画業70年のあゆみ—杉本健吉展	5月14日— 6月 2日	17	19,568	1,151
シカゴ美術館展—近代絵画の100年—	6月10日— 7月24日	38	89,204	2,347
レジェ展	8月 5日— 9月11日	33	22,793	690
聖なるかたち 後期ゴシックの木彫と板絵 アーヘン市立ズエルモントニルートヴィヒ美術館所蔵	9月23日— 11月 3日	37	27,976	756
没後20年 香月泰男展	11月18日—1995年 1月16日	46	27,164	590
アンドリュー・ワイエス展	1995年 2月 3日— 3月31日	49	108,296	2,210
合 計		253	321,595	1,271

(注)「色彩の宇宙 クプカ」展は、1994年3月18日から5月8日まで開催
 「アンドリュー・ワイエス」展は、1995年2月3日から4月2日まで開催

イ 所蔵作品展の開催状況

展覧会名	会期	日数(日)	入場者数(人)	1日平均(人)
第Ⅰ期	1994年 4月 1日— 6月 2日	50	46,964	939
第Ⅱ期	6月10日— 9月18日	83	114,227	1,376
第Ⅲ期	9月23日— 11月13日	46	30,170	655
第Ⅳ期	11月18日—1995年 3月31日	100	136,793	1,367
合 計		279	328,154	1,176

第Ⅰ期は、1994年3月18日から6月2日まで開催
 第Ⅳ期は、1994年11月18日から1995年4月2日まで開催

ウ ギャラリー展示室利用状況

利用月	展覧会種別利用件数 (件)								ギャラリー展示室 (A~J室)		
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	利用日数(日)	入場者数(人)	1日平均(人)
1994年 4月	4	6	—	—	3	—	—	13	26	41,836	1,609
5月	4	5	2	—	4	—	—	15	26	47,189	1,814
6月	3	4	2	2	4	—	—	15	22	41,440	1,883
7月	7	4	—	1	4	—	2	18	26	302,812	11,646
8月	6	6	—	—	3	—	—	15	26	52,240	2,009
9月	6	3	—	—	2	1	2	14	26	55,746	2,144
10月	5	4	—	—	1	1	—	11	27	130,232	4,823
11月	6	5	—	1	2	—	—	14	26	40,687	1,564
12月	5	7	—	—	4	1	—	17	23	35,245	1,532
1995年 1月	2	5	—	1	1	—	—	9	19	151,119	7,953
2月	2	—	—	—	1	2	—	5	24	20,405	850
3月	2	5	—	—	4	1	1	13	27	39,935	1,479
合計	52	54	4	5	33	6	5	159	298	958,886	3,217

(注)総合展とは、複数の種別にまたがる展覧会であり、規模の大小には関係ない。

件数及び入場者数は、展覧会会期の初日の属する月で整理。

関係法規(条例・規則等)

Laws and Regulations

愛知芸術文化センター条例（抜粋）

(設置)

第1条 芸術文化の振興及び普及を図るため、愛知芸術文化センター（以下「センター」という。）を設置する。

2 センターは、次に掲げる施設をもって構成する。

(1) 愛知県美術館

(2) 愛知県芸術劇場

(3) 愛知県文化情報センター

(4) 愛知県図書館

(位置及び業務)

第2条 センターの各施設の位置及び業務は、別表第1のとおりとする。

(運営)

第3条 センターは、センターを構成する各施設相互の連携を図ることにより、芸術文化に関する総合施設として有機的に運営されなければならない。

(職員)

第4条 センターに、総長その他の職員を置く。

(利用の許可等)

第5条 次に掲げる者は、センターの利用について、各施設の長の許可を受けなければならない。

(1) 愛知県美術館の展示室を利用して、展覧会を行おうとする者

(2) 愛知県芸術劇場のホール又はリハーサル室を利用して、舞台芸術の公演、国際会議等を行おうとする者

(3) 愛知県文化情報センターの催事室を利用して、講演会、展示会等を行おうとする者

2 各施設の長は、施設の管理上必要があるときは、前項の許可に条件を付けることができる。

(使用料)

第6条 前条第1項の許可を受けた者からは、別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 使用料は、当該施設の利用開始日までにおいて知事が指定する日までに、納付しなければならない。

3 納付された使用料は、次に掲げる場合を除き、還付しない。

(1) 第9条第2項の規定により、知事が公共の福祉のために許可を取り消し、又は利用の中止を命じたとき。

(2) 前条第1項の許可を受けた者が各施設の長の承認を受けて利用を中止したとき。

4 知事は、災害その他の特別の理由がある者に対しては、使用料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を延期することができる。

5 使用料を納期限までに納付しなかった者からは、納付すべき金額（千円未満の端数金額及び千円未満の金額は、切り捨てる。）に、当該期限の翌日から納付の日までの期間の日数に応じ、年14.5パーセントの割合を乗じて計算した金額に相当する延滞金を徴収する。ただし、延滞金に百円未満の端数があるとき、又は延滞金が百円未満であるときは、その端数金額又は、その全額を切り捨てる。

6 第4項の規定は、前項の延滞金について準用する。

(観覧料)

第7条 愛知県美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者は、別表第3に定める額の観覧料を納付しなければならない。

ただし、次に定める者は、この限りでない。

(1) 小学校就学前の者

(2) 常設展示を観覧しようとする中学生及び小学生

(3) 学校行事として常設展示を観覧しようとする高校生

(4) 学校行事として常設展示を観覧しようとする高校生、中学生又は小学生の引率者

2 納付された観覧料は、特別の理由がある場合を除き、還付しない。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(利用者の義務)

第8条 センターの利用者は、センターの利用に際しては、この条例及びこれに基づく規則の規定並びに第5条第2項の規定により許可に付けられた条件及び関係職員の提示に従うとともに、センターの秩序を乱すような行為をしてはならない。

(許可取消し及び利用の中止命令)

第9条 各施設の長は、センターの利用者が前条の規定に違反したときは、第5条第1項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

2 知事は、公共の福祉のためやむを得ない理由があるときは、第5条第1項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

(規則への委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、センターの利用条件その他のセンターの管理に関し必要な事項は、規則で定める。

(過料)

第11条 詐偽その他不正の行為により、第6条の規定による使用料又は第7条の規定による観覧料の徴収を免れた者に対しては、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料を科する。

2 前項に定めるものを除くほか、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、一円以下の過料を科する。

(1) 第5条第2項の規定により許可に付けられた条件に違反してセンターを利用した者

(2) 第9条の規定による許可の取消し又は利用の中止命令に違反してセンターを利用した者

(3) その他不正の方法により許可を受けてセンターを利用した者

3 第8条の規定に違反してセンターの秩序を乱した者に対しては、五千円以下の過料を科する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第5条及び第7条の規定並びに別表愛知県図書館の項業務の欄の規定中県民の利用に関する部分は同月20日から、第1条第2項第1号から第3号まで及び同表愛知県美術館の項から愛知県文化情報センターの項までの規定は規則で定める日から施行する。

附 則

この条例は、平成4年10月30日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成6年7月1日から施行する。ただし、附則第3項（中略）の規定は公布の日（中略）から施行する。

別表第1（第2条関係）抜粋

施設の名称	位置	業務
愛知県美術館	名古屋市東区	(1) 美術品及び美術に関する資料を収集し、保管及び展示すること。 (2) 美術に関する調査研究を行うこと。 (3) 展示室を利用させること。

別表第2（第6条関係）抜粋

愛知県美術館 展示室使用料

区分	単位	使用料の額(単位円)
A室、日室又はC室	全日	13,500
	時間外1時間につき	2,000
D室	全日	14,100
	時間外1時間につき	2,100
E室	全日	8,800
	時間外1時間につき	1,300
F室	全日	8,900
	時間外1時間につき	1,300
G室	全部利用	22,100
	時間外1時間につき	3,300
	2分の1利用	11,000
	時間外1時間につき	1,700
H室	全日	10,200
	時間外1時間につき	1,500
I室	全日	10,400
	時間外1時間につき	1,600
J室	全部利用	9,500
	時間外1時間につき	1,400
	2分の1利用	4,700
	時間外1時間につき	700
附属第1審査	全部利用	5,200
	時間外1時間につき	800
保管室	2分の1利用	2,600
	時間外1時間につき	400
附属第2審査	全部利用	4,400
	時間外1時間につき	700
保管室	2分の1利用	2,200
	時間外1時間につき	300

備考

- (1) この表において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによる。
イ～ハ省略
- 二 全日 愛知県美術館にあっては午前10時から午後6時（金曜日にあっては、午後8時）までを、愛知県芸術劇にあっては午前9時から午後10時までを、愛知県文化情報センターにあっては午前9時から午後9時までをいう。
- ホ 時間外 愛知県美術館にあっては午後6時（金曜日にあっては、午後8時）以後を、愛知県芸術劇場にあっては午後10時以後を、愛知県文化情報センターにあっては午後9時以後をいう。
- 二 特別の設備又は器具を設けて電力又は水道を使用する場合の使用料の額は、この表に定める額に実費として知事が定める額を加算した額とする。

表第3（第7条関係）

区分	単位	観覧料の額(単位円)
常設展示	個 人	大学生又は高校生 1人1回につき 300
	そ の 他 の 者	1人1回につき 500
企 画 展 示	団 体 (20人以上)	大学生又は高校生 1人1回につき 240
	そ の 他 の 者	1人1回につき 400
企 画 展 示	1人1回につき	2,000円以内でその都度知事が定める額

愛知県芸術文化センター管理規則（抜粋）

目次

- 第1章 総則（第1条）
第2章 センターの管理
第1節 通則（第2条～第4条）

第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理

第1款 利用期間（第5条）

第2款 利用の許可等（第6条～第10条）

第3款 美術品等の観覧及び模写等（第11条～第13条）

第4款 文化情報センターの図書等の利用（第14条～第23条）

第3節 図書館の管理

第1款 図書等の館内利用（第24条～第26条）

第2款 図書等の館外貸出し（第27条～第30条）

第3款 図書等の郵送による貸出し（第31条～第33条）

第4款 利用の停止（第34条）

第3章 雜則（第35条～第36条）

附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、愛知芸術文化センター（以下「センター」という。）の管理に関する事項を定めるものとする。

第2章 センターの管理

第1節 通則

(休館日)

第2条 センターの各施設の休館日は、次のとおりとする。

愛知県美術館 月曜日（当該月曜日が国民の祝日にに関する法律（昭和23年法律（以下「美術館」 第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に該当するという。）場合はその翌日以降の最初の休日でない日）

12月28日から翌年1月3日まで

2 総長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の休館日を変更し、又は休館日を設けることができる。

(利用時間)

第3条 センターの各施設の利用時間は、次のとおりとする。

美術館 午前10時から午後6時（金曜日にあっては、午後8時）まで

2 美術館が主催して展示する美術品等を観覧するため美術館に入館できる時間（次項において「入館時間」という。）は、午前10時から午後5時30分（金曜日にあっては、午後7時30分）までとする。

3 センターの各施設の長は、必要があると認めるときは、臨時に第1項の利用時間又は入館時間を変更することができる。

(入館の禁止等)

第4条 総長及びセンターの各施設の長は、めいてい者その他センターの秩序を乱し、若しくは乱すおそれがある者又はセンターの施設に損害を加え、若しくは加えるおそれのある者に対し、センターへの立入りを禁じ、又は立ち退かせることができる。

第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理

第1款 利用期間

(利用期間)

第5条 美術館、芸術劇場及び文化情報センター（以下「美術館等」という。）の利用期間は、次のとおりとする。

美術館

展示室 35日以内

展示室附属審査保管室 20日以内

2 美術館等の長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の利用期間を変更することができる。

第2款 利用の許可等

(利用の許可)

第6条 愛知芸術文化センター条例（平成3年愛知県条例第2号。以下「条例」という。）第5条第1項の許可を受けようとする者は、利用許可申請書（様式第1）を美術館等の長に提出しなければならない。

2 美術館等の長は、前項の規定により利用許可申請書を提出した者について利用を許可したときは、利用許可書（様式第2）を交付するものとする。

3 前2項の規定により利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）の美術館等を利用する権利は、他人に譲渡し、又は転貸することができない。

(利用の変更の許可)

第7条 利用者は、利用期間その他利用許可書に記載された事項を変更しようとする

ときは、利用変更許可申請書（様式第3）に利用許可書を添えて美術館等の長に提出し、その許可を受けなければならない。

（利用の取消しの承認）

第8条 利用者は、美術館等の利用の取消しをしようとするときは、利用取消承認申請書（様式第4）に利用許可書を添えて速やかに美術館等の長に提出し、その承認を受けなければならない。

（利用後の届出）

第9条 利用者は、美術館等の利用を終わり、又は利用を中止したときは、速やかに利用した設備を原状に回復し、その旨を美術館等の長に届け出なければならない。（指示及び調査）

第10条 美術館等の長は、美術館等の秩序の維持及び美術館等の管理上必要があると認めるとときは、利用者に対し美術館等の利用に関し、指示をし、又は利用中の施設に職員を立ち入らせ、利用の状況を調査させることができる。

第3款 美術品等の観覧及び模写等

（観覧券の交付）

第11条 美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者（条例第7条第1項ただし書きに規定する者及び同条第3項の規定により観覧料の全部を免除された者を除く。）は、観覧料の納付と引換に観覧券（様式第5）の交付を受けるものとする。

2 団体で観覧券の交付を受けようとするときは、その団体の代表者は、あらかじめ団体観覧券交付申込書（様式第6）を美術館長に提出しなければならない。

（学校行事の観覧）

第12条 高等学校、中学校又は小学校の学校行事として常設展示を観覧しようとする者は、あらかじめ学校行事観覧届（様式第7）を美術館長に提出しなければならない。

（模写等の許可）

第13条 美術館が主催して展示する美術品等の模写及び複写をしようとする者は、美術品等模写等許可申請書（様式第9）を美術館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 美術館長は、模写等を許可するときは、美術品等模写等許可書（様式第10）を交付するものとする。

第3章 雜則

（損害賠償）

第35条 センターを利用する者は、故意又は過失によってセンターの施設、附属設備、美術品等及び図書等を損傷し、滅失し、又は忘失したときは、それによって生じた損害を賠償しなければならない。

（雜則）

第36条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、総長が定める。ただし、次に掲げる利用等に関し必要な事項は、センターの各施設の長が定める。

（1）美術館の展示室の利用
（2）美術品等の模写及び複写
（3）芸術劇場のホール及びリハーサル室の利用
（4）文化情報センターの催事室及びアートプラザの利用
（5）文化情報センター及び図書館の図書等の利用

附 則

（施行期日）

1 この規則は、平成4年10月30日から施行する。
(愛知芸術文化センター愛知県図書館規則の廃止)

2 愛知芸術文化センター愛知県図書館規則（平成3年愛知県規則第41号）は、廃止する。
(経過措置)

3 この規則の施行の際、現に前項の規定による廃止前の愛知芸術文化センター愛知県図書館規則（以下「旧規則」という。）第9条第1項の規定により交付を受けている利用カードは、第29条の規定により交付を受けた利用カードとみなす。

4 この規則の施行の際、現に旧規則の規定に基づきなされている図書等の館外貸出し、図書等の郵送による貸出し又は郵送貸出しの登録は、この規則の相当規定に基づきなされたものとみなす。
(愛知県公印規則の一部改正)

5 愛知県公印規則（昭和30年愛知県規則第1号）の一部を次のように改正する。

第2条に次の1号を加える。

（12）愛知芸術文化センターの各施設（愛知県図書館を除く。）の長の印

附 則

- 1 この規則は、平成6年7月1日から施行する。
2 この規則の施行の際、現に改正前の愛知芸術文化センター管理規則の規定に基づいて作成されている申請書等の用紙は、改正後の愛知芸術文化センター管理規則の規定にかかわらず、当分の間、使用することができる。

愛知県美術館運営会議設置要領

（目的）

第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館（以下「美術館」という。）の円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館運営会議（以下「運営会議」という。）を設置する。

（協議事項）

第2条 運営会議は、次の事項について協議する。

（1）美術館の運営に関すること。

（2）企画展、常設展及び教育普及事業等の美術館の事業に関すること。

（3）その他必要と認められる事項。

（構成員）

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。

（1）学識経験を有する者

（2）美術館関係者

（3）県関係者

（4）その他館長が適当と認める者

2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。

（委員の任期）

第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

（会長等）

第5条 運営会議に会長を置く。

2 会長は、委員の互選により選出する。

3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。

4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、会長の職務を代理する。

（召集）

第6条 運営会議は、会長が召集する。

（事務）

第7条 運営会議の事務は、美術館において処理する。

（その他）

第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館美術品収集委員会開催要項

（設 置）

第1条 愛知芸術文化センターに設けられる愛知県美術館において収蔵しようとする美術品及び美術に関する資料（以下「美術品」という。）の選定に関する事務を適正かつ円滑に行うため愛知県美術館美術品収集委員会（以下「収集委員会」という。）を置く。

（所掌事務）

第2条 収集委員会は、次の事項を審議する。

（1）購入する美術品の選定及び評価に関する事。

（2）寄贈又は寄託に係る美術品の受け入れに関する事。

（3）美術品の処分に関する事。

（組 織）

第3条 収集委員会は、7人以内の委員で組織する。

2 委員は、美術に関する専門知識を有する者のうちから、愛知芸術文化センター総長（以下「総長」という。）が依頼する。

3 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は再任されることがある。ただし、当該委員の年齢が、70歳を越えた場合

はこの限りではない。

(委員長)

第4条 収集委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により定める。

2 委員長は、収集委員会の会議を主宰する。ただし、委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 収集委員会は、委員長が招集する。

2 収集委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 収集委員会は、必要があると認めるときは、委員でない者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(評価員)

第6条 収集委員会は、美術品の評価に関し、必要があると認めるときは、総長に対して、特別評価員（以下「評価員」という。）の評価を要請することができる。

2 評価員は、その都度次の各号に掲げる要件を備える者の中から、3人以内を総長が依頼する。

(1) 当該美術品に関して、専門的知識を有すること。

(2) 人格が高潔であり、かつ、公正な判断ができる。

(3) 当該美術品と利害関係を有しないこと。

(庶務)

第7条 収集委員会の庶務は、愛知県芸術文化センター美術館において処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか収集委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、昭和63年6月15日から施行する。

附 則

この要項は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成4年4月1日から施行する。

愛知芸術文化センター愛知県美術館所蔵品貸出要領(平1.12.1施行)

(目的)

第1条 この要領は、県が愛知県美術館の所蔵品とするために収集した美術品等（以下「美術品等」という。）の貸出しに関し、必要な事項を定めるものとする。

(貸出しの承認)

第2条 愛知県美術館長（以下「館長」という。）は、次に掲げるものから美術品等の借用の申請があった場合において、美術文化の普及上適当と認めたときは、無償で美術品等の貸出しを承認することができる。

(1) 国、公共団体又は公益的団体

(2) 館長が特に必要と認めたもの

(貸出しの申請)

第3条 美術品等の貸出しを受けようとする者は、次の事項を記載した美術品等借用申請書を館長に提出しなければならない。

(1) 申請者の住所、団体名及び代表者名

(2) 借用目的

(3) 借用期間

(4) 借用しようとする美術品等の名称及びデータ

(5) 陳列のための施設及び設備の概要

(6) 借用期間中の管理の方法

(7) その他参考となる事項

(貸出期間)

第4条 美術品等の貸出期間は3月以内とする。ただし、館長が必要と認めるときは、貸出期間を延長することができる。

(承認)

第5条 館長は、美術品等の貸出しを承認したときは、申請者に対して承認書を交付するものとする。

(遵守事項)

第6条 美術品等を借り受けるものは、次に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 美術品等の梱包輸送等に要する一切の費用は、貸出しの承認を受けた者の負担とすること。

(2) 貸出期間中の美術品等の保管は、貸出しの承認を受けた者の責任とし、亡失、汚損、き損等のあったときは、館長の指示に従い賠償の責を負うものとすること。

(3) 貸出しを承認された美術品等の撮影、模写、印刷物掲載等については、事前に館長と協議すること。

(4) 美術品等の貸出時及び返還時には、双方の担当者が作品状況を点検確認すること。

(5) 図録等には、愛知県美術館所蔵品であることを明記すること。

(6) その他館長が必要と認めて指示した事項

(撮影模写等の承認)

第7条 館長は、前条第3号の協議があった場合において、著作権者の同意のない美術品等については、承認しないものとする。

(美術品等借用書)

第8条 美術品等の貸出しを承認された者は、美術品等借用書を提出し、これと引換えに美術品等を受領しなければならない。

2 館長は、美術品等が返還されたときは、これと引換えに美術品等借用書を返付する。

附 則

この要領は、平成元年12月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

愛知県美術館美術品等寄託受入れ規程(平5.4.1施行)

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知県美術館（以下「美術館」という。）が行う美術品等の受入れの取扱いについて、愛知県財務規則（昭和39年規則第10号）等に定めるものほか、必要な事項を定めるものとする。

(寄託の申込み)

第2条 美術館に美術品等の展示等に供するため、長期にわたり保管委託（以下「寄託」という。）しようとする者（以下「寄託者」という。）は、美術品等寄託申請申込書（様式第1）を愛知県美術館長（以下「館長」という。）に提出し、その承認を受けるものとする。

(寄託品の決定)

第3条 館長は、寄託申込書の提出があったときは、その内容を調査し、当該美術品等（以下「寄託品」という。）が次のいずれかに該当するときは、受託承認書（様式第2）を交付するものとする。

(1) 美術館の展示又は研究の用に供すると認められるもの。

(2) 美術館に保管することが適当であると認められるもの。

(3) その他館長が特に必要と認めるもの。

(寄託期間)

第4条 寄託期間は、2年とする。ただし、特別の理由があるときは、その都度協議の上、定めるものとする。

(寄託品の預り及び返還)

第5条 館長は、寄託品を受け入れようとするときは、寄託者に預り証（様式第3）を交付するものとする。

2 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

3 寄託品の返還を受けようとする者が寄託者の代理人であるときは、預り証に、委任状その他のこれを証する書面を添えるものとする。

(寄託品の取扱い)

第6条 寄託品の保管の責は、館長が負うものとする。ただし、美術館の責めによらない理由による場合は、この限りでない。

(寄託品の荷造り運搬等)

第7条 館長は、寄託品の受け入れ及び返還に伴う荷造り運搬等に要する経費の一部又は全部を負担することができる。

(寄託品の変更等)

第8条 寄託者は、次のいずれかに該当するときは、速やかに預り証にその理由を証す書面を添えて館長に提出するものとする。

(1) 寄託者が、他人に寄託品を譲渡するとき。

(2) 住所変更など、寄託申込書の記載事項に変更が生じるとき。

(預り証の再交付)

第9条 寄託者が、預り証を亡失又は破損したときは、寄託品預り証再交付願（様式

- 第4) を館長に提出し、再交付を受けるものとする。なお、預り証を破損した場合は、当該預り証を添付するものとする。
- (寄託品の一時返還)
- 第10条 寄託者は、寄託品の一時返還を求めようとするときは、少なくとも返還日の2か月前に寄託品一時返還願（様式第5）を館長に提出するものとする。
- 2 館長は、寄託品一時返還願の提出があったときは、調査の上、寄託品一時返還承認書（様式第6）を交付するものとする。
- 3 寄託品の一時返還は、預り証と引き換えに行うものとする。
- (寄託期間内の返還申し出)
- 第11条 寄託者は、寄託期間中に寄託品の返還を求めようとするときは、少なくとも2か月前に寄託品期間内返還申出書（様式第7）を館長に提出するものとする。
- 2 館長は、寄託品期間内返還申出書の提出があったときは、調査の上、寄託品期間内返還同意書（様式第8）を交付するものとする。
- 3 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。
- (寄託品の借用)
- 第12条 館長は、展示又は調査研究のため、美術品等を寄託品としてすんで受け入れようとするときは、当該美術品の所有者（以下「所有者」という。）に寄託品依頼書（様式第9）を提出し、その所有者から承諾書（様式第10）を受けるものとする。
- (借用書の発行)
- 第13条 館長は、承諾書を受けたときは、所有者に借用書（様式第11）を発行するものとする。
- (準用)
- 第14条 第4条（寄託期間）、第5条第2項（返還）、同条第3項（代理人による返還）及び第6条から第11条（寄託品の取扱い等）までの規定は、美術館がすんで受け入れようとする寄託品について準用する。この場合において、「預り証」とあるのは、「借用書」と読み替える。
- (公表及び写真撮影等)
- 第15条 館長は、次のいずれかに該当するときは、所有者の承諾を得るものとする。
- (1) 寄託品の所有者名の公表
- (2) 美術館が発行する展覧会目録への掲載、資料としての保管、報道機関に対する資料提供など、美術館が公共の利用に資する目的で行う寄託品の写真撮影、複写等
- (補則)
- 第16条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は館長が定める。
- 附 則
- この規程は、平成5年4月1日から施行する。
- (様式の記載は省略)
- 愛知県美術館ギャラリー運営会議設置要領**
- (目的)
- 第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館（以下「美術館」という。）ギャラリーの円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館ギャラリー運営会議（以下「ギャラリー運営会議」という。）を設置する。
- (協議事項)
- 第2条 ギャラリー運営会議は、次の事項について協議する。
- (1) 美術館ギャラリーの運営に関すること。
- (2) 美術館ギャラリー展示室の利用の調整に関すること。
- (3) その他必要と認められる事項。
- (構成員)
- 第3条 ギャラリー運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。
- (1) 学識経験を有する者
- (2) 美術作家
- (3) 美術館（ギャラリー）関係者
- (4) 県関係者
- (5) その他館長が適当と認める者
- 2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。
- (委員の任期)
- 第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。
- (会長等)
- 第5条 ギャラリー運営会議に会長を置く。
- 2 会長は、委員の互選により選出する。
- 3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。
- 4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。
- (召集)
- 第6条 ギャラリー運営会議は、会長が召集する。
- (事務)
- 第7条 ギャラリー運営会議の事務は、美術館において処理する。
- (その他)
- 第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。
- 附 則
- この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館ギャラリー展示室利用受付許可要領（平4.10.30施行）

- (趣旨)
- 第1条 この要領は、愛知芸術文化センター条例及び愛知芸術文化センター管理規則（以下「規則」という。）の規定に基づく愛知県美術館ギャラリーの展示室（附属審査保管室を除く。以下「展示室」という。）の利用許可等に関し必要な事項を定めるものとする。
- (利用仮申込書の受付時間)
- 第2条 展示室の利用を希望する者は、展示室の利用開始期日の次表に掲げる利用期間に応じて、それぞれ右欄に掲げる仮受付期間（休館日を除く。）に展示室利用仮申込書（以下「仮申込書」という。）を提出するものとする。
- | 利用期間 | 仮受付期間 |
|---------------------|-------------------------------------|
| 1月4日から6月30日までの間のもの | 展示室利用開始予定期日の含まれる年の前年の6月1日から20日までの間 |
| 7月1日から12月27日までの間のもの | 展示室利用開始予定期日の含まれる年の前年の12月1日から20日までの間 |

- 2 仮申込書の受付時間は、午前10時から午後6時までとする。
- (抽選枠の設定)
- 第3条 美術館長（以下「館長」という。）は、第2条の規定に基づく仮受付ごとに、展示室Jの利用について、当該仮受付の対象となる利用期間中の一定期間について、あらかじめ抽選枠を設定する。
- (利用仮申込みの区分)
- 第4条 第2条の規定に基づく展示室利用仮申込みの区分は、次の各号に定めるとおりとする。
- (1) 一般仮受付 展示室AからIまでの利用及び第3条の規定に基づき、館長が設定した抽選枠に係る利用を除く展示室Jの利用
- (2) 抽選仮受付 第3条の規定に基づき、館長が設定した抽選枠に係る展示室Jの利用
- (一般仮受付の利用許可スケジュール案の作成)
- 第5条 館長は、第2条の規定に基づく仮申込書の受付終了後、それぞれおおむね1か月以内に、第4条第1号に規定する一般仮受付に係る利用について、展示室利用許可スケジュール案（以下「スケジュール案」という。）を作成する。
- 2 スケジュール案の作成に当たっては、関係各展示室利用仮申込者の希望、展示予定作品の種類、点数及び内容並びに過去の利用実績又は各展示室利用仮申込者に係る美術団体の会歴、会員組織、業績等を考慮して、利用させる会場及び利用期間を調整するものとする。
- 3 館長は、スケジュール案の作成後、愛知県美術館ギャラリー運営会議（以下「ギャラリー運営会議」という。）を開催し、その意見を聴取のうえ、スケジュール案の所要の調整を行い、スケジュール案を確定する。
- (一般仮受付の利用許可の内定)
- 第6条 館長は、第5条の規定に基づくスケジュール案に基づき、利用許可を内定し、関係各展示室利用仮申込者に対し、利用させる会場、利用期間等を記載した展示室利用許可内定書（以下「内定書」という。）を送付する。
- (抽選参加者の決定)
- 第7条 館長は、ギャラリー運営会議を開催し、その意見を聴取のうえ、第4条第2号に規定する抽選仮受付に係る各仮申込者について、抽選に参加させるか否か

を決定する。

(抽選の実施)

第8条 館長は、第4条第1号に規定する一般仮受付に係る利用について、第6条の規定に基づき内定書を送付した後、第4条第2号に規定する抽選仮受付に係る利用について、関係各展示室仮申込者に日時を通知のうえ、抽選を行う。

(抽選仮受付の利用許可の内定)

第9条 館長は、第8条の規定に基づく抽選の結果に基づき、利用許可を内定する。

2 前項の規定にかかわらず、館長は、抽選に参加できる関係展示室仮申込者の人数が、第3条の規定に基づき設定した抽選枠の枠数を超えない場合は、すべての関係展示室仮申込者の利用許可を内定する。

3 館長は、前2項の規定に基づき利用許可を内定したときは、関係各展示室利用仮申込者に対し、利用させる会場、利用期間等を記載した内定書を送付する。

(利用許可申請書の受付)

第10条 第6条又は第9条の規定に基づく内定書の送付を受けた各展示室利用仮申込者は、館長の指定する期日（以下「利用許可申請書提出期日」という。）までに来館のうえ、規則第6条第1項の規定に基づく展示室利用許可申請書（以下「許可申請書」という。）を提出するものとする。

(利用許可書の交付等)

第11条 許可申請書の提出を受けた館長は、各展示室利用仮申込者に対し、規則第6条第2項の規定に基づく利用許可書を送付する。

(利用の許可を受け得るものとの範囲等)

第12条 利用の許可を受け得る者は、県民の芸術文化の向上に資すると認められる次の各号に掲げる展覧会を開催しようとする者とする。

- (1) 主要美術団体による全国的又は全県的な規模による創作美術品の一般公募展
- (2) 国、地方公共団体及び公共性を有する機関等による国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会
- (3) 愛知県文化振興事業団による美術作品の展覧会
- (4) その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展

(利用許可を与えない場合)

第13条 次の各号に掲げる場合には、利用許可を与えない。

- (1) 利用許可申請者が、未成年者又は無能力者（禁治産者等）である場合
- (2) 利用許可申請者が、法的又は社会的な責任を十分に取り得る者でない場合
- (3) 展示しようとする作品が、「愛知県美術館ギャラリーにおける展示作品の種類、展示の方法、規格基準等」に抵触する場合

(一般仮受付に係る利用許可の優先順位)

第14条 第4条第1号に規定する一般仮受付に係る利用許可をするに当たっての優先順位は、原則として、次のとおりとする。

第1順位 全国的な規模による創作美術品の一般公募及び国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会の開催を目的とする利用

第2順位 全県的な規模による創作美術品の一般公募展の開催を目的とする利用
第3順位 その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展の開催を目的とする利用

(利用区分)

第15条 展示室の利用許可に当たっては、展示室ごとの利用を許可するほか、複数の展示室の組合せの利用を許可する。また、展示室A及びJについては、2分割の利用も許可するものとする。

(利用許可の単位等)

第16条 展示室AからIの利用許可是、休館日の翌日から次の休館日の前日までの期間（以下「単位期間」という。）を最少の期間とし、引き続く単位期間を限度として、この期間に含まれる日について行う。

2 美術館長が、作品の搬入、搬出等のため特に必要があると認める期間については、当該期間に限り、前項に規定する限度を超えて、この期間に含まれる日についても、利用許可を行う。

3 展示室Jの利用許可是、引き続く2日以上の日について、休館日を除き10日を限度として行う。ただし、展示室AからIまでと組合せ利用の場合は、前2項の規定に準じて利用許可を行う。

(休館日に係る利用許可)

第17条 休館日については、展示室の利用許可は行わない。ただし、利用者が、展示室の利用開始日から利用終了日までの間に含まれる休館日に作品の展示替え等のために展示室に立ち入る必要のある場合は、この限りではない。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

愛知県文化会館美術館	愛知芸術文化センター愛知県美術館
1952年	1983年
4月 サンフランシスコ講和条約の発効に際し、講和記念事業 文化施設基本計画樹立委員会設置	4月 知事、記者会見で新文化会館の審議会設置を事務当局 に指示した旨、発表
10月 愛知県文化会館懸賞競技設計募集開始	7月 新文化会館（仮称）構想懇談会設置
1953年	1985年
2月 愛知県文化会館懸賞競技設計入選者発表	3月 建設基金条例制定 「新文化会館基本構想」提言
6月 基本設計着手	4月 新文化会館建設事務局設置
1954年	7月 新文化会館建設委員会に美術館部会設置
2月 美術館建設着工	1986年
1955年	8月 栄地区施設公開設計競技開始
1月 美術館建設竣工	11月 美術品収集計画研究会設置
2月 美術館開館	1987年
4月 『愛知県文化会館美術館ニュース窓口』創刊	5月 栄地区施設最優秀作品発表
5月 藤井達吉氏より1,460点の絵画・工芸品の寄贈	12月 栄地区施設基本設計終了
1957年	1988年
10月 最初の企画展「愛知総合文化財展」開催	4月 美術品等取得基金設置
1959年	6月 美術品収集委員会設置
4月 ブールデル作《アルヴァール將軍の記念碑》のための4 体のブロンズ像《力》《自由》《勝利》《雄弁》購入	11月 栄地区施設実施設計終了
1967年	1989年
7月 最初の所蔵品展開催	3月 栄地区施設起工式
1971年	10月 「新収蔵作品展」開催
3月 『美術館所蔵品目録』発行	1991年
1975年	4月 文化振興局設置
5月 開館20周年記念事業として移動展「愛知県美術館所蔵名 作展」開催	11月 第2回「新収蔵作品展」開催
1979年	1992年
4月 常設展示室開設	4月 愛知県美術館準備室開設
1985年	6月 美術館運営会議・美術館ギャラリー運営会議設置 栄地区施設竣工
9月 開館30周年記念・特別展「郷土の画家たち～愛知県美術 館30年のあゆみ展」開催	10月 美術館開館 開館記念展第1部「フォーヴィスムと日本近代洋画」開催 「美術館所蔵作品選」発行
1992年	1993年
2月 常設展入場者数40万人達成	1月 開館記念展第2部「近代の日本画 西洋との出会い と対話」開催
3月 常設展示室閉室	2月 開館記念展第3部「20世紀 愛知の美術」開催
10月 閉館	3月 「美術館所蔵作品目録」発行
	5月 第42回全国美術館会議総会開催会場
	10月 愛知芸術文化センター開館1周年記念事業として 「リール市美術館所蔵バロック・ロココの絵画」展 及び連続美術館講座6回「バロック・ロココの芸術 空間」開催
	1994年
	9月 愛知県美術館友の会設立発起人会開催
	10月 友の会設立及び第1回鑑賞会（聖なるかたち展）開 催 移動美術展「20世紀の美術」（開館後第1回）開催

利用案内 Information

○開館時間 午前10時～午後6時（入館は5時30分まで）
金曜日は午後8時まで夜間開館（入館は7時30分まで）

○休館日 月曜日（国民の休日の場合はその翌日）、年末年始（12月28日～1月3日）、整理期間

○観覧料 （1人1回につき）
(団体は20名以上)

区分	所蔵作品展示		企画展示
	個人	団体	
小・中学生	無	料	2,000円以内で知 事が定める額
高・大学生	300円	240円	
一般	500円	400円	

○交通案内
・地下鉄
東山線・名城線「栄」下車、東へ徒歩3分
桜通線・名城線「久屋大通」下車、南へ徒歩10分
名鉄瀬戸線「栄町」下車、東へ徒歩3分
・駐車場（有料）
約600台（地下）

○所在地 〒461 名古屋市東区東桜一丁目13番2号

TEL 052(971)5511代

FAX 052(971)5604

愛知県美術館年報 1994年度版
編集・発行 1995年12月発行
愛知県美術館
名古屋市東区東桜1-13-2
Tel.:052-971-5511
表紙デザイン・本文レイアウト 小谷恭二
印刷 凸版印刷株式会社

1994 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art
Edited and Published by
Aichi Prefectural Museum of Art
1-13-2 Higashisakura Higashiku,Nagoya,461,Japan
Deseigned and Layouted by
Kyoji Kotani
Printed by
Toppan Print Co.
©1995
Printed in Japan